

騎西町埋蔵文化財調査報告書 第5集

埼玉県北埼玉郡

騎西城武家屋敷跡
第14・27・44・45次調査

2009

騎西町教育委員会

騎西町埋蔵文化財調査報告書 第5集

騎西城武家屋敷跡第14・27・44・45次調査

騎西町教育委員会

埼玉県北埼玉郡

き さい じょう ぶ け や しき あと
騎 西 城 武 家 屋 敷 跡

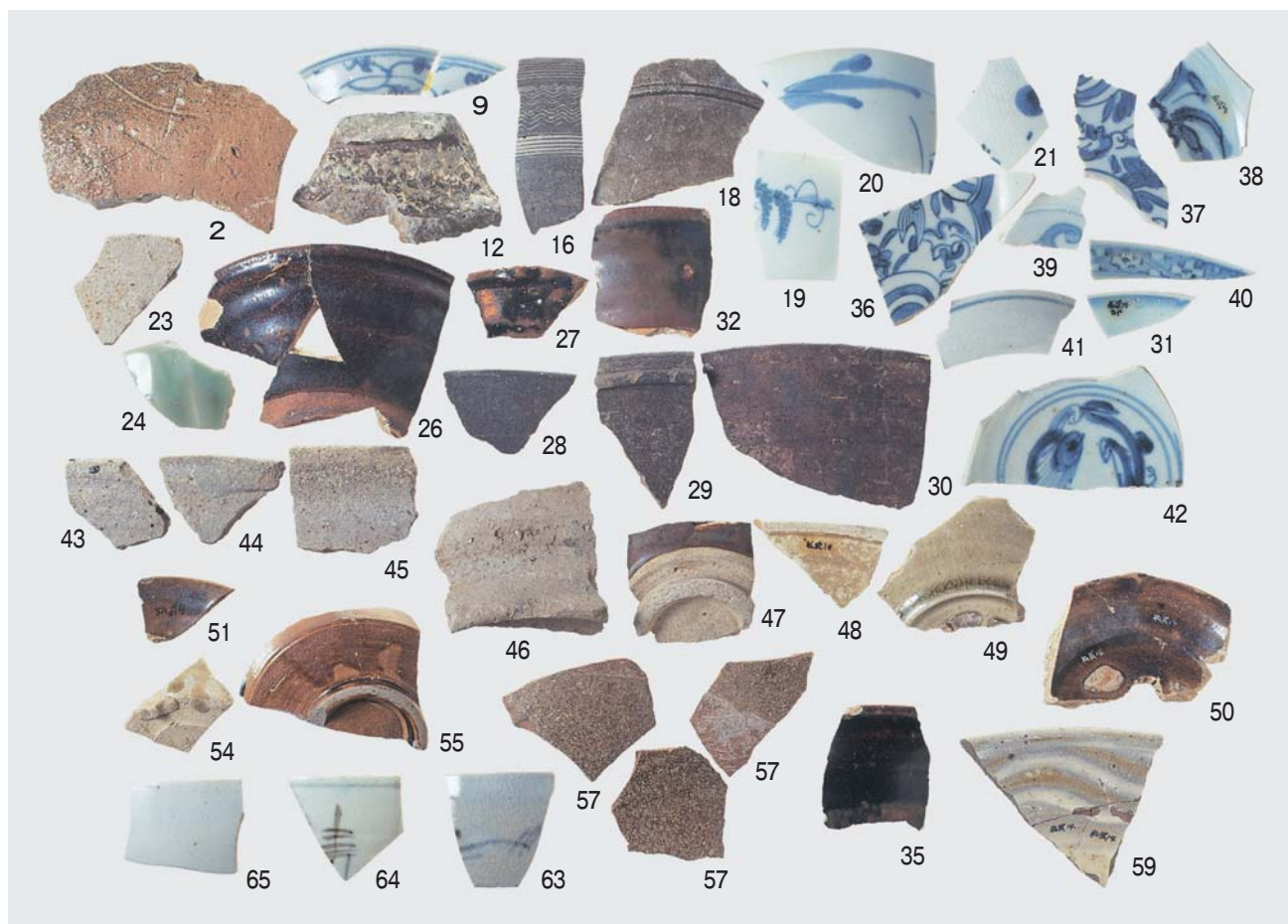
第14・27・44・45次調査

2009

騎西町教育委員会



14次 陶磁器 1

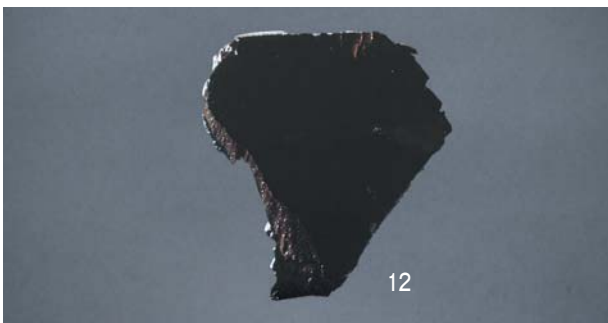
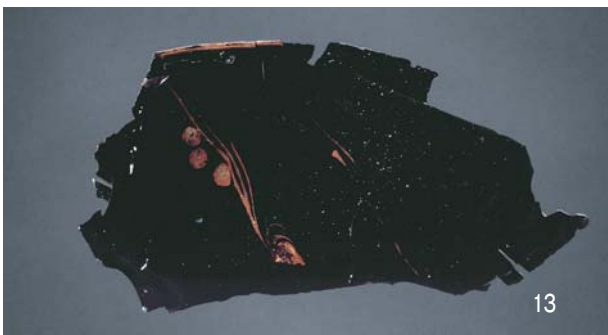


14次 陶磁器 2

口絵 2



27次 完掘



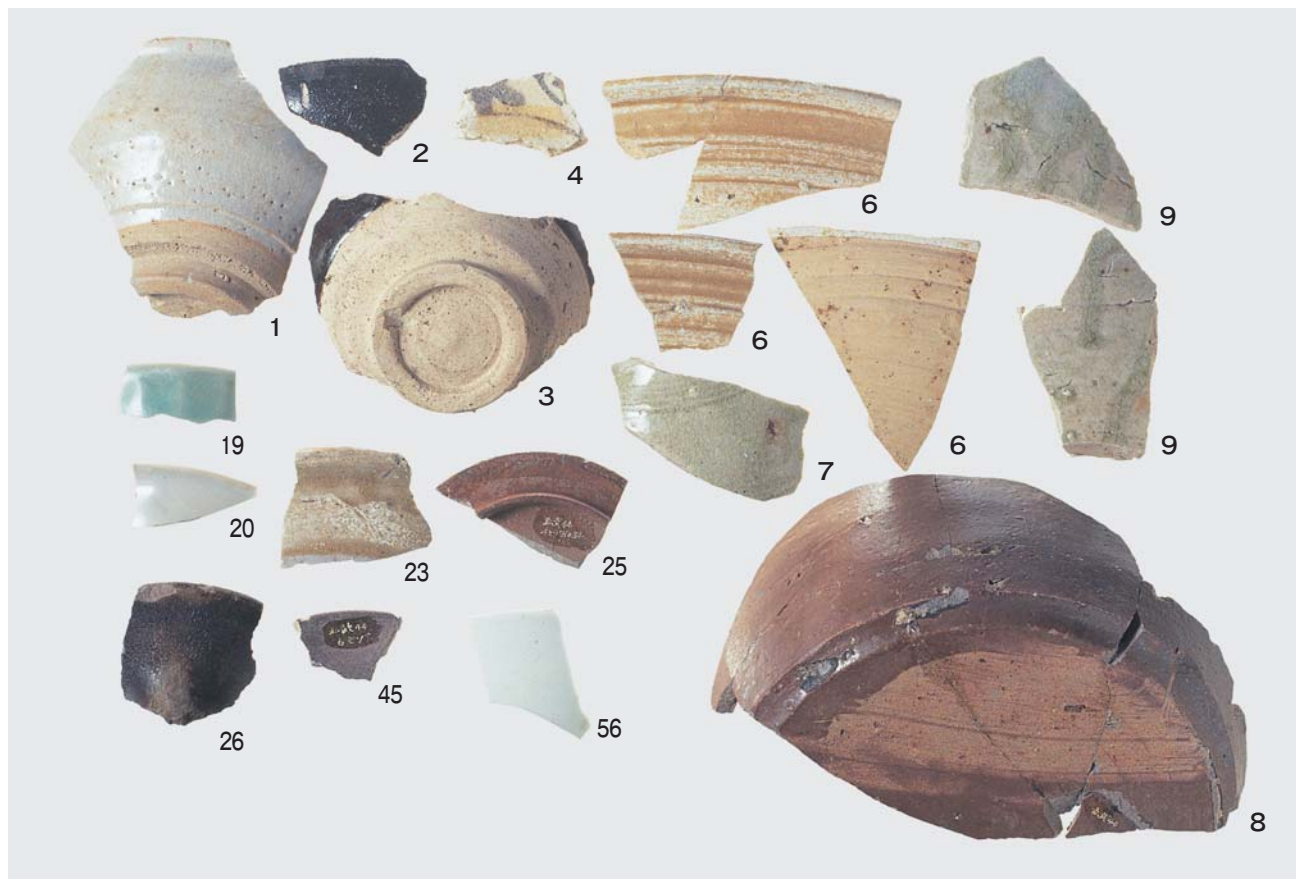
27次 漆被膜 (上・中) 漆碗 (下)



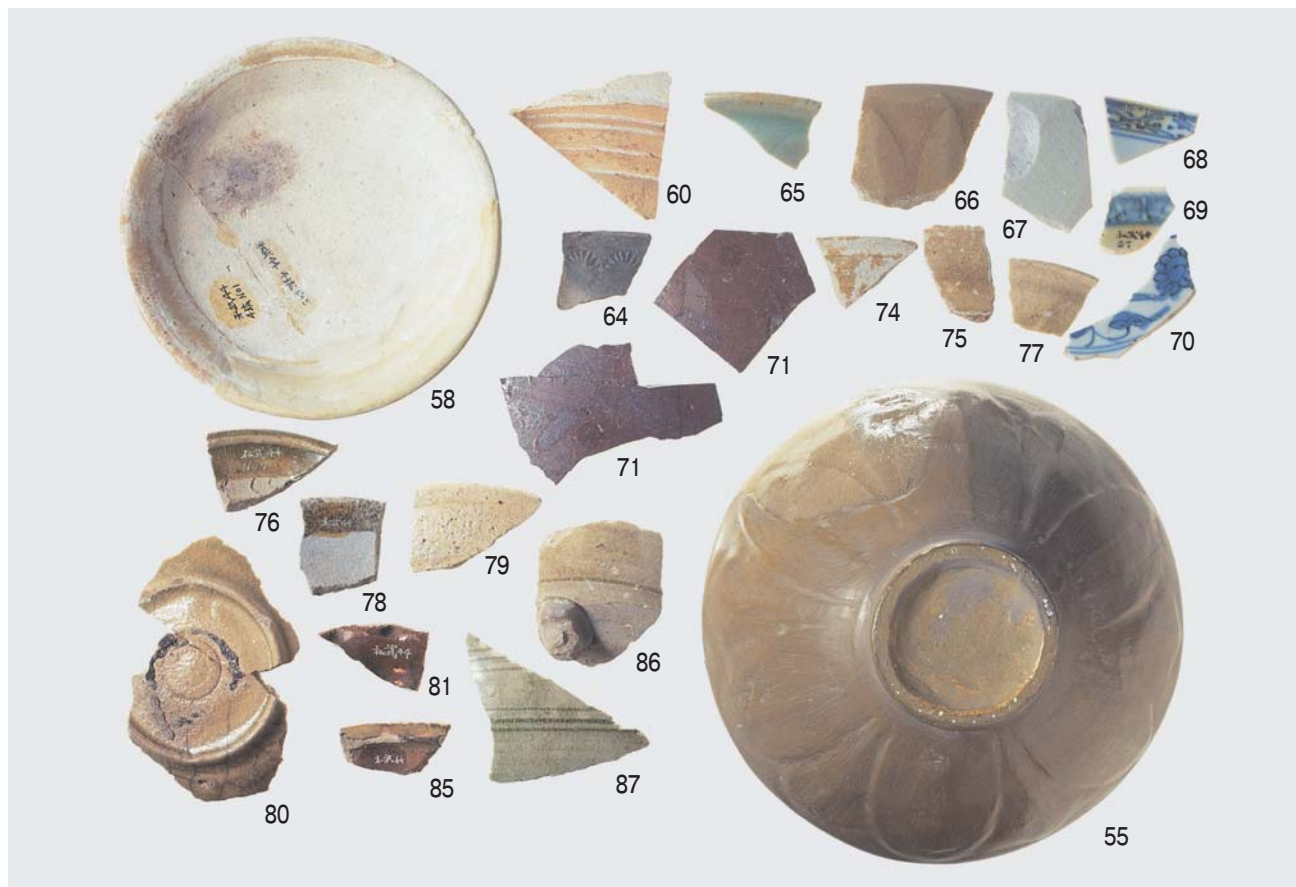
27次 4号土壙出土皿 (No.18)



ナイフ形石器 (No.31)



44次 陶磁器 1



44次 陶磁器 2

口絵 4



45次 陶磁器 1



45次 陶磁器 2

序

騎西町は埼玉県北東部の豊かな田園地帯に位置し、町の中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い町であります。

近年、当町は周辺の市町村とともに都市化が進み、また、根古屋・外川地区の土地区画整理事業をはじめとする住宅建設に係る開発がなされ町の景観が著しく変貌しております。その開発に際しまして、埋蔵文化財の保護のため調査を実施しているところであります。

今回の調査報告は、平成2～6年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡第14・27・44・45次発掘調査の記録であります。調査の結果、当時の堀や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成22年2月

騎西町教育委員会

教育長 岡田 道夫

例 言

- 1 本書は埼玉県北埼玉郡騎西町内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は住宅建設に先立つもので、平成2～6年に実施した。調査及び、報告書の刊行は国・県の補助金を受けた。
- 3 発掘調査組織
調査主体者 騎西町教育委員会
担当者 各調査に記載
調査協力員 同上
- 4 本書の刊行に際して次のように分担して業務に当たった。
 - (1) 陶磁器 基礎データ・作表 島村範久
上記の他 嶋村英之
 - (2) 出土品の整理・図版の作成は下記の担当の下、遺物整理員が行った。
陶磁器・石金属製品の一部 島村範久
銭貨 坂本征男
ほか 嶋村英之
木製品は嶋村薫が実測した。
※板碑の拓本は『騎西町史考古資料編2』使用のものを加工した。
遺物整理員
秋山ノリ子 新井博子 上野由利子 方波見良子
遠井恭子 野口二三子 長谷川恵 松村順子
 - (3) 写真撮影は現地調査については調査担当者が、他は嶋村英之が行った。
- 5 本書の編集は嶋村英之が行った。
- 6 資料は騎西町教育委員会が保管している。
- 7 騎西城は私市城とも表すがここでは武家屋敷が存在していた時期の古文書等により騎西城とする。
- 8 溝状遺構・井戸状遺構は記述が煩雑になるため溝・井戸と略した。

- 9 挿図について
○縮尺は以下の通りである。
遺構 井戸状遺構・土壇 1/60
溝 断面・土層堆積 1/30
遺物出土 1/40
遺物
旧石器 石器1/1
縄文 土器片1/3 石器(石鏃1/1 他1/3)
中近世 陶磁器類・木製品1/3 鉄・銅製品1/2
土・石製品1/3・板碑1/4 銭貨1/1
○遺構断面図の基準標高は各々に記載した。
- 10 表について
○共通：()は残存値である。
○遺構一覧：
☆はセクション図を計測した数値
・土層説明略称
L=ローム、S=焼土、C=炭化物、FE=酸化鉄
R=粒子・B=ブロック
※例 LB=ロームブロック
○遺物一覧
口径/底径/高さは、遺物により長さ/幅/厚さ(高さ)と読み替える
※は不確実な推定復元値
- 11 発掘調査・整理報告に際して下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。(敬称略)
角張淳一 竹村雅夫 中野達也 藤澤良祐
矢口孝悦

目次

序／例言／目次

第Ⅰ章 遺跡の立地・環境

- 第1節 遺跡の位置……………1
- 第2節 遺跡の地理的環境……………1
- 第3節 遺跡の歴史的環境……………2

第Ⅱ章 第14次調査

- 第1節 調査の概要……………7
- 第2節 遺構と遺物……………7

第Ⅲ章 第27次調査

- 第1節 調査の概要……………18
- 第2節 遺構と遺物……………18

第Ⅳ章 第44次調査

- 第1節 調査の概要……………24
- 第2節 遺構と遺物……………24

第Ⅴ章 第45次調査

- 第1節 調査の概要……………34
- 第2節 遺構と遺物……………34

第Ⅵ章 まとめ

- 第1節 第14次調査……………43
 - 第2節 第27次調査……………43
 - 第3節 第44次調査……………44
 - 第4節 第45次調査……………44
- 引用参考文献／図版／報告書抄録

挿図目次

- 第1図 遺跡の位置……………1
- 第2図 周辺の微地形分類と騎西町の縄文・古墳時代遺跡……………3
- 第3図 周辺の微地形分類と城館跡……………3
- 第4図 各調査区の位置……………6
- 第5図 第14次周辺の調査と遺構位置図……………8
- 第6図 第14次遺構1（溝・井戸・土壇）……………9
- 第7図 第14次遺構2（土壇）……………10
- 第8図 第14次出土遺物1……………11
- 第9図 第14次出土遺物2……………12
- 第10図 第14次出土遺物3……………13
- 第11図 第14次出土遺物4……………14
- 第12図 第14次出土遺物5……………15
- 第13図 第27次周辺の調査と遺構位置図……………19
- 第14図 第27次遺構……………20
- 第15図 第27次出土遺物1……………21
- 第16図 第27次出土遺物2……………22
- 第17図 第44次周辺の調査と遺構位置図……………25
- 第18図 第44次遺構1（溝・土壇）……………26
- 第19図 第44次遺構2（土壇）……………27
- 第20図 第44次出土遺物1……………28
- 第21図 第44次出土遺物2……………29
- 第22図 第44次出土遺物3……………30
- 第23図 第44次出土遺物4……………31
- 第24図 第44次出土遺物5……………32
- 第25図 第45次周辺の調査と遺構位置図……………35
- 第26図 第45次遺構1（溝土層）……………36
- 第27図 第45次遺構2（溝・井戸・土壇）……………38
- 第28図 第45次出土遺物1……………39
- 第29図 第45次出土遺物2……………40
- 第30図 第45次出土遺物3……………41
- 第31図 各調査区の武家屋敷跡内の推定位置……………43

表目次

第1表	第14次遺構一覽表	10	第6表	第44次遺構一覽表	27
第2表	第14次遺物一覽表1	16	第7表	第44次遺物一覽表1	32
第3表	第14次遺物一覽表2	17	第8表	第44次遺物一覽表2	33
第4表	第27次遺構一覽表	20	第9表	第45次遺構一覽表	37
第5表	第27次遺物一覽表	23	第10表	第45次遺物一覽表	42

図版目次

図版1	第14次1	遺物出土	図版13	第44次2	遺物出土
図版2	第14次2	遺物出土	図版14	第44次3	遺物出土
図版3	第14次3	遺構	図版15	第44次4	遺物出土
図版4	第14次4	遺構	図版16	第44次5	調査区
図版5	第14次5	出土遺物	図版17	第44次6	遺構・出土遺物
図版6	第14次6	出土遺物	図版18	第44次7	出土遺物
図版7	第21次1	調査区	図版19	第44次8	出土遺物
図版8	第21次2	遺構	図版20	第45次1	遺物出土
図版9	第21次3	遺物出土	図版21	第45次2	遺物出土
図版10	第21次4	出土遺物	図版22	第45次3	遺構
図版11	第21次5	出土遺物	図版23	第45次4	調査区・出土遺物
図版12	第44次1	遺物出土	図版24	第45次5	出土遺物

第1章 遺跡の立地・環境

第1節 遺跡の位置 (第1図-遺跡の位置)

騎西町は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡は町のほぼ中央にある。行政上では騎西町大字根古屋字道上・中宿・前・道下、大字牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治9年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西町生涯学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

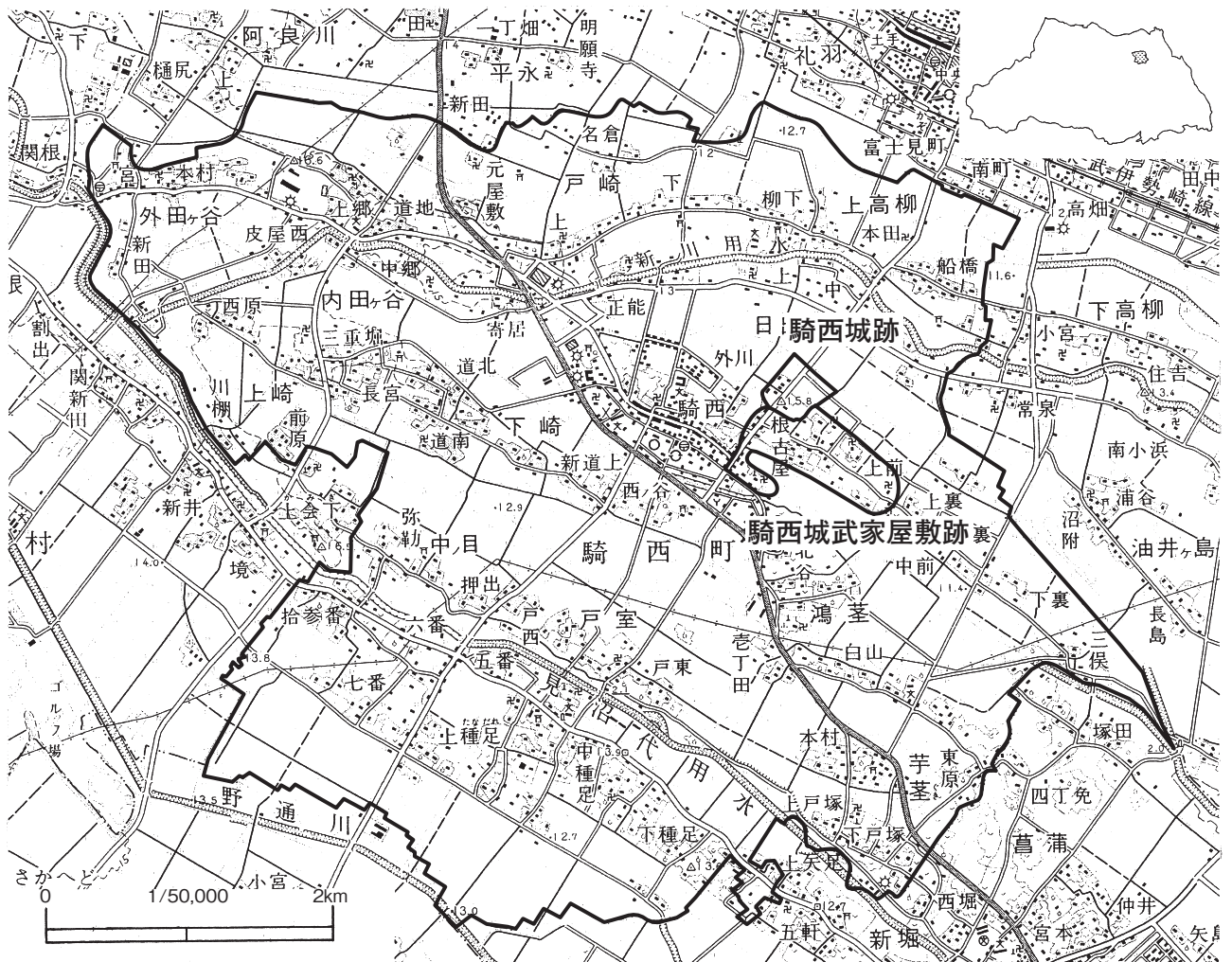
第2節 遺跡の地理的環境

(第2図-周辺の微地形分類と騎西町の縄文・古墳時代遺跡)

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯

である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在町内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。



第1図 遺跡の位置

第3節 遺跡の歴史的環境

(第2図及び第3図)

※ () 内の遺跡名は騎西町史考古資料編1に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直した。

1 旧石器時代

約2万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ(前)・(中宿)遺跡で該期の遺物が出土している。(前)遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が2カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約1万5千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、(道上)遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

2 縄文時代

草創期に(中宿)遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・(前)・(道上)遺跡で撚糸文系土器、(前)遺跡では集石遺構が、(道上)遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で土器が出土しており、特に修理山・(中宿)遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・(前)・(道上)で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な十三菩提式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に(道上)・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曾利E式期その後半に(中宿)遺跡で柄鏡形住居・(道上)遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壇などが見つかっている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で加曾利B～後期安行式が出土している。晩期では安行3a～3d式が修理山・町並・(道上)・(前)・(中宿)遺跡で出土している。

3 弥生時代

町内の遺跡は少なく中期では上種足三番遺跡で磨製石鎌が、(道上)遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

4 古墳時代

古墳跡は小沼耕地遺跡※で6～7世紀の前方後円墳1基・円墳5基が、(内田ヶ谷中郷)遺跡で勾玉や埴輪片、(前)遺跡の埴輪片や隣接する(中宿)遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材(町内の玉敷神社所在)を考えあわせるとこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・(中宿)遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上)遺跡・(中宿)遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は町内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

※町史の上種足三番遺跡を含む

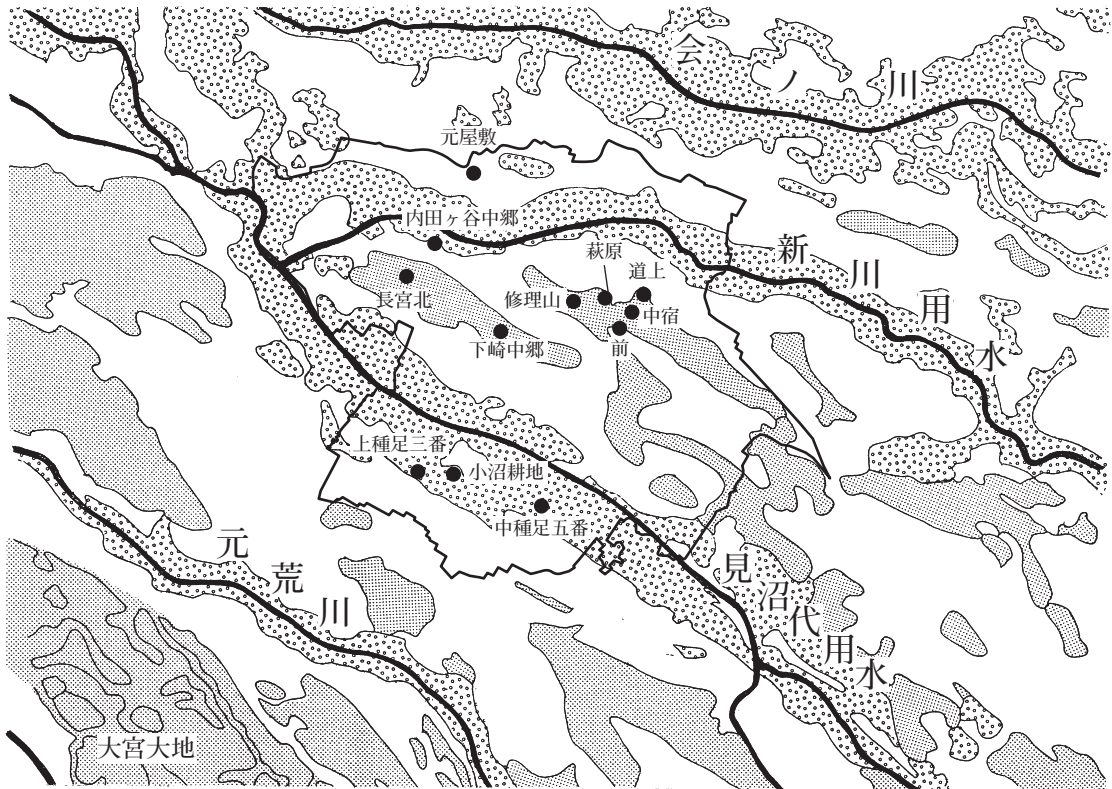
5 奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは(道上)遺跡・上種足三番遺跡で8世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、(中宿)遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。

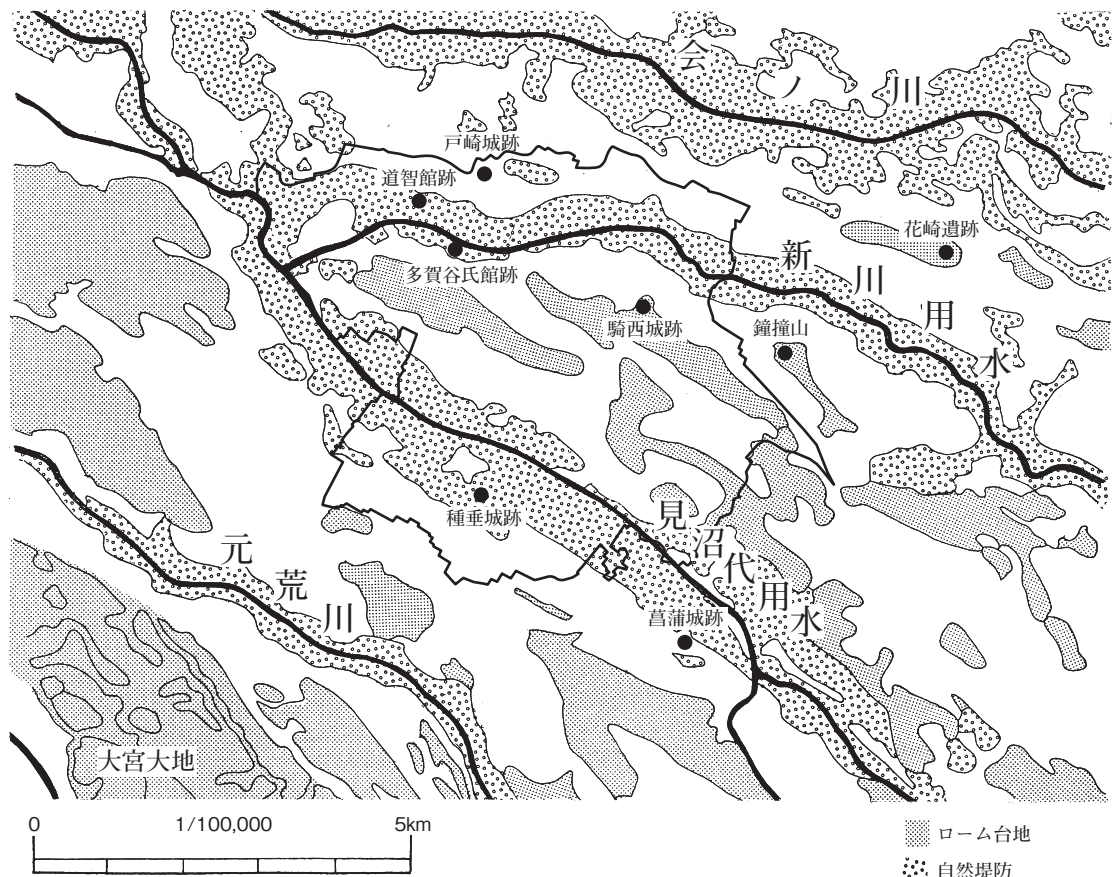
6 鎌倉～江戸時代

町内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏の館は大字内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年(1190)多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長3年(1251)多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間(1429-41)初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く



第2図 周辺の微地形分類と騎西町の縄文・古墳時代遺跡



第3図 周辺の微地形分類と城館跡

郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端で、溝から12～14世紀の同安龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北で、土壙から12～13世紀の同安龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鍔が出土している。

道智氏館は、大字道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を、承久3年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

種垂城跡は、大字上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田頭家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆碗・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・箆状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

やや南よりの**中種足五番遺跡**では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

戸崎城跡は『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允（『吾妻鏡』に戸崎右馬允国延が寿永3年（1184）源頼朝の御前の射手となる）の居跡なりとの記載がある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

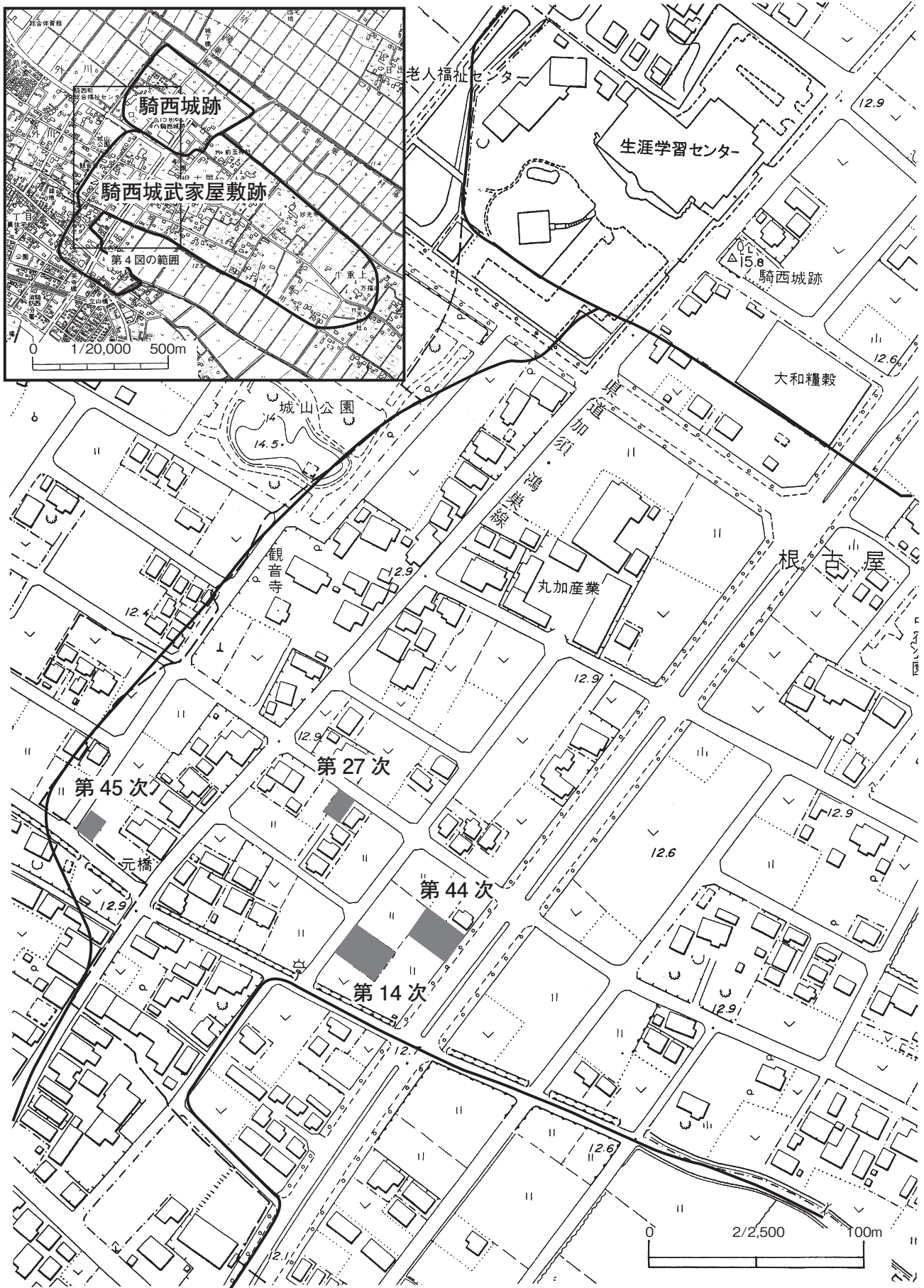
騎西城（年表参照）は文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡

が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀4ヶ所・橋跡2ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。武器武具では、兜・前立・刀装品・鉄鍔・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野杓・腰刀・薙鎌など、生活品では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆碗杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、生業では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・坩堝など、信仰では護符・呪符・舟形・位牌・銅鏡・数珠など、流通では金・薦入り銭貨・荷札などがある。年代を計れる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・播鉢などがある。

このほかに、大字日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、大字下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

騎西城関係年表

- 康正元年 (1455) 足利成氏、崎西郡(騎西城)に集結する上杉勢(上杉・疋鼻和など)を攻略する。
- 文正元年 (1466) 足利成氏、南多賀谷(田ヶ谷)と北根原(鴻巣市)で上杉勢と合戦に及ぶ
- 応仁元年 (1467) ★応仁の乱
- 文明3年 (1471) 上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市(騎西)の佐々木氏あり
- 文亀2年 (1502) 騎西城主小田顕家、上会下(鴻巣市)・雲祥寺を復興。忍城(行田市)主成田長泰の子助三郎家時を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
- 天文8年 (1539) 騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる。
- 天文12年 (1543) ★鉄砲伝来
- 永禄3年 (1560) 長尾景虎(上杉謙信)関東の北条方諸城を攻略。騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する。
- 永禄4年 (1561) 長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎(謙信)に辱めを受け、北条方となる。助三郎も同様
- 永禄6年 (1563) 北条氏康・武田信玄連合軍が松山城(吉見町)を攻略。報復に上杉輝虎(謙信)、騎西城を攻略
- 永禄12年 (1569) 上杉と北条の講和成立(越相同盟)。上杉方は武蔵北部を支配
- 天正2年 (1574) 上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩槻城を焼き払う
- 天正3年 (1575) 小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
- 天正4年 (1576) 騎西城主成田泰喬、家臣に知行を行う
- 天正6年 (1578) 小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
- 天正18年 (1590) ★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西城2万石を与える
- 天正19年 (1591) 松平康重大英寺を開基、日出安・保寧寺に田畑1町歩を寄進する
- 慶長元年 (1596) 康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる。根古屋・金剛院、日出安から移転する
- 慶長4年 (1599) 松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
- 慶長5年 (1600) ★関ヶ原の戦い
- 慶長7年 (1602) 大久保忠常、騎西城2万石を拝領する
- 慶長8年 (1603) ★徳川家康、江戸に幕府を開く
- 慶長11年 (1606) 騎西藩の家臣、領内(正能村)を検地する
- 慶長16年 (1611) 忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西城2万石を拝領する
- 慶長19年 (1614) 大久保忠隣改易となり小田原・羽生城を没収、騎西城主忠職は閉門に処せられる
- 寛永4年 (1627) 大久保忠職、久伊豆大明神に社領を寄進する
- 寛永9年 (1632) 騎西城廃され、代官所置かれる



第4図 各調査区の位置

第Ⅱ章 第14次調査

第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成元年11月6日、開発者齊藤国夫氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋73-4における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

9月11日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

調査協力員

梓沢ユキ子 小久保衛 小森谷アサ 小森谷二三子
関口千代 関口のぶ 中島かつ江

文化庁通知 2委保記第5-706号

平成2年5月21日

調査期間 平成2年2月13日～3月28日

調査面積 104m²

(調査の経過)

建設予定地に14m×8mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。北側にトレンチをいれ50cmほどでローム面であることを確認した。そのレベルまで一気に掘り下げ、土壌・井戸などの調査を行った。1号土壌より18世紀の陶磁器が出土した。掘り下げ30cmほどで湧水したため、北辺に側溝を設け水中ポンプにより排水した。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に多数のピットを確認し図化した。

基準杭の標高は近隣に大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

KB2区が西に接しており、未報告であるが、大規模な溝や深い長方形土壌、人骨を検出した墓壇、

小札が出土した炭化物の分布等が確認されている。16c～18c代までの遺構・遺物がある。

第2節 遺構と遺物

遺構は調査区全域に広がる。

【溝】 幅30～40cmの小規模なもの2条で、東隅で直行する。

【井戸状遺構】 4基を数え中央西寄りに位置する。

1号井戸 板碑片(5～8)が出土した。

2号井戸 平面方形で武家屋敷跡内では特異な例である。

3号井戸 1号土壌と重複し出土遺物の混在が考えられる。常滑広口壺(12)、肥前丸碗(14)、唐津大皿(17)が出土している。

【土壌】 14基検出した。

1号土壌 大規模(265×215cm)でしっかりした掘り込みである。

○出土遺物 良好な肥前産陶磁器で唐津碗(15・16)、肥前磁器碗(20・21)がある。

2号土壌 山茶碗(23)片が出土。

6号土壌 80cmと掘り込みが深い。

8号土壌 円形で断面ボウル状を呈する。

9号土壌 円筒形で深さ120cm。

12号土壌 底面で礫が出土した。

【ほか】

15Pでは小柄の刀身?(33)が出土した。

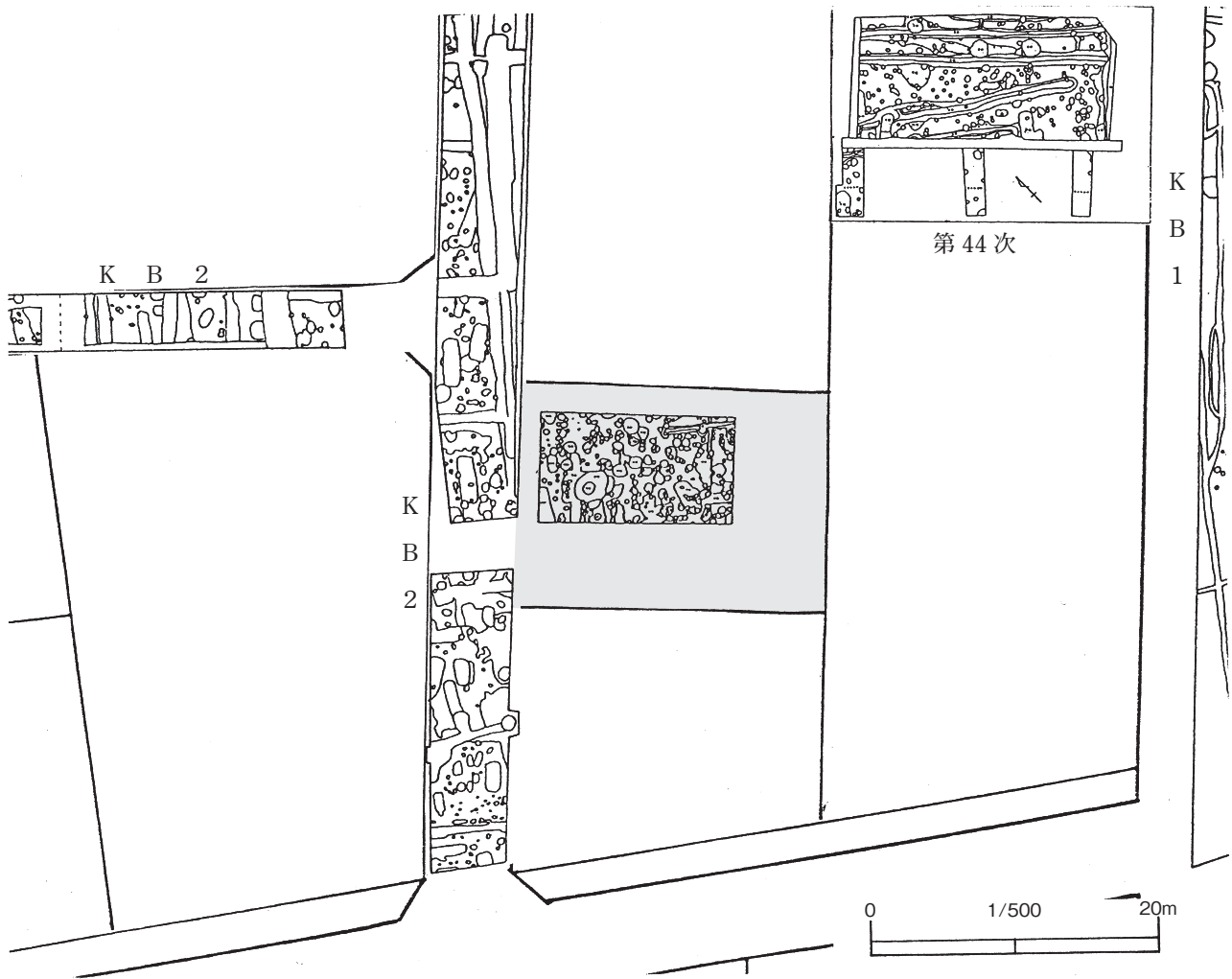
遺構外出土遺物

16世紀代の陶磁器が出土している。中国産染付皿(36～42)や丹波産播鉢(61・61=17c)、志戸呂産丸碗(60)、完形のかわらけ(66)がある。

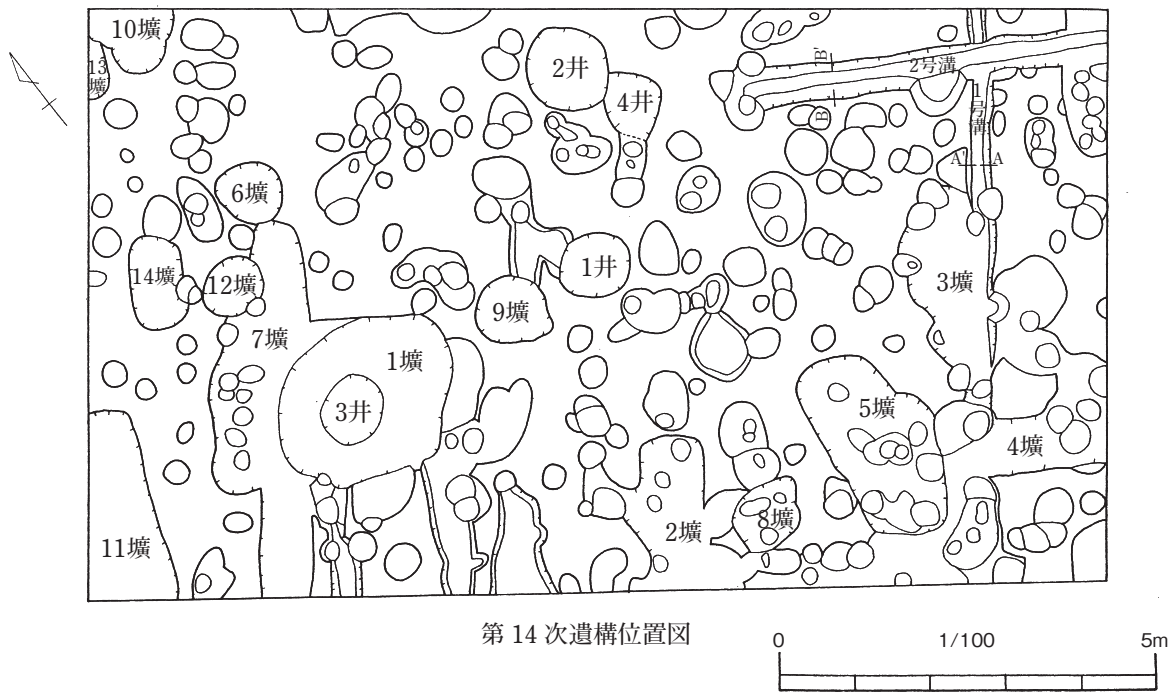
金属器では煙管の雁首(79)、渡来銭4点(80～83)で81は8枚が溶着しており六道銭であろう。木製品は、桶の底板(88)で、断面に木釘の穴が認められる(出土遺構不明)。

石製品では6点の板碑片(89～94)があり、94はノミ痕が明瞭に残る。また、磨石(85)があり、井戸からも出土している(3・4・13)。

縄文土器(95～99)は中期から後期の破片である。石器(100・101)はいずれもスクレイパーで、100は黒曜石製で左辺に刃部右辺は細かい調整が加えられている、101は裏面に主要剥離面を残す。

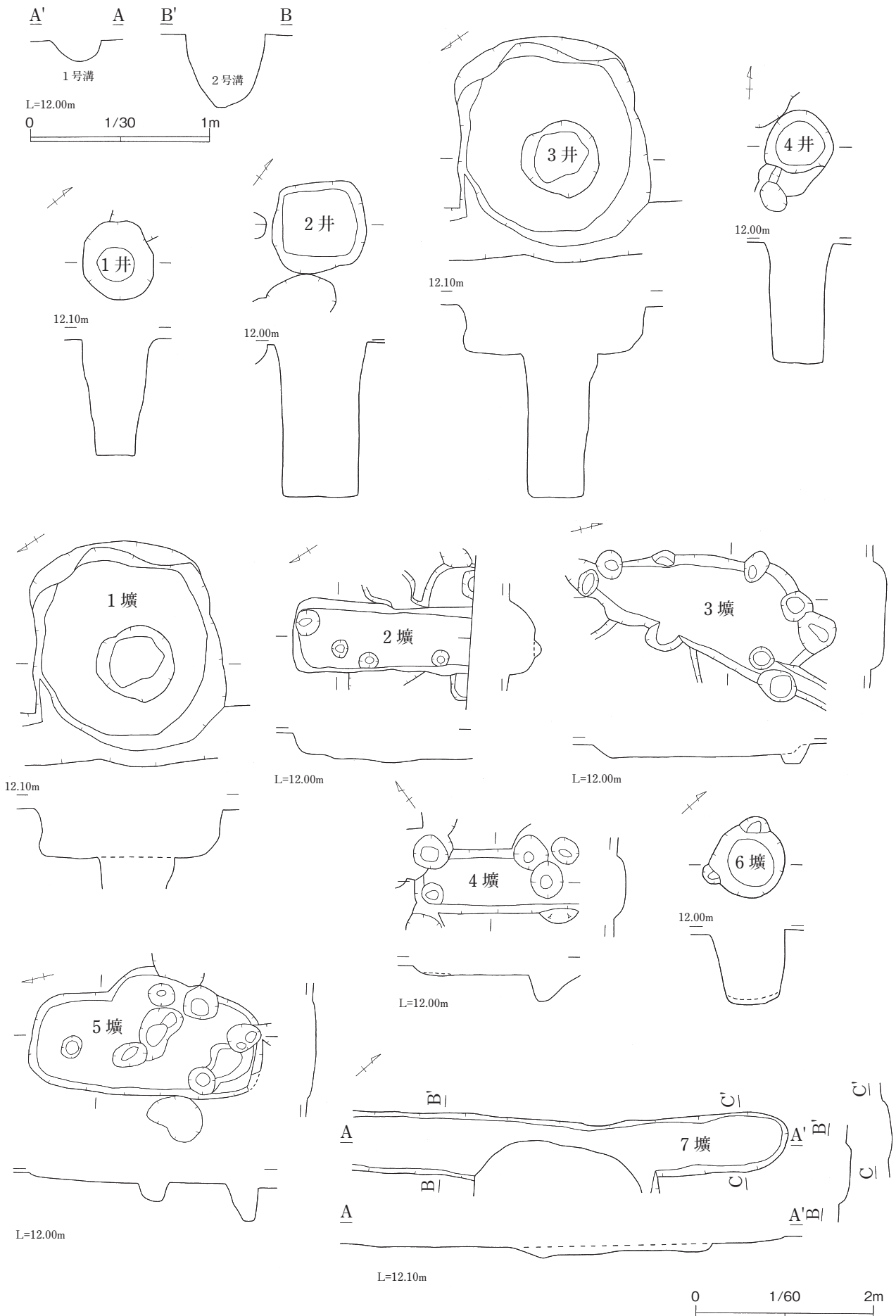


第14次周辺の調査

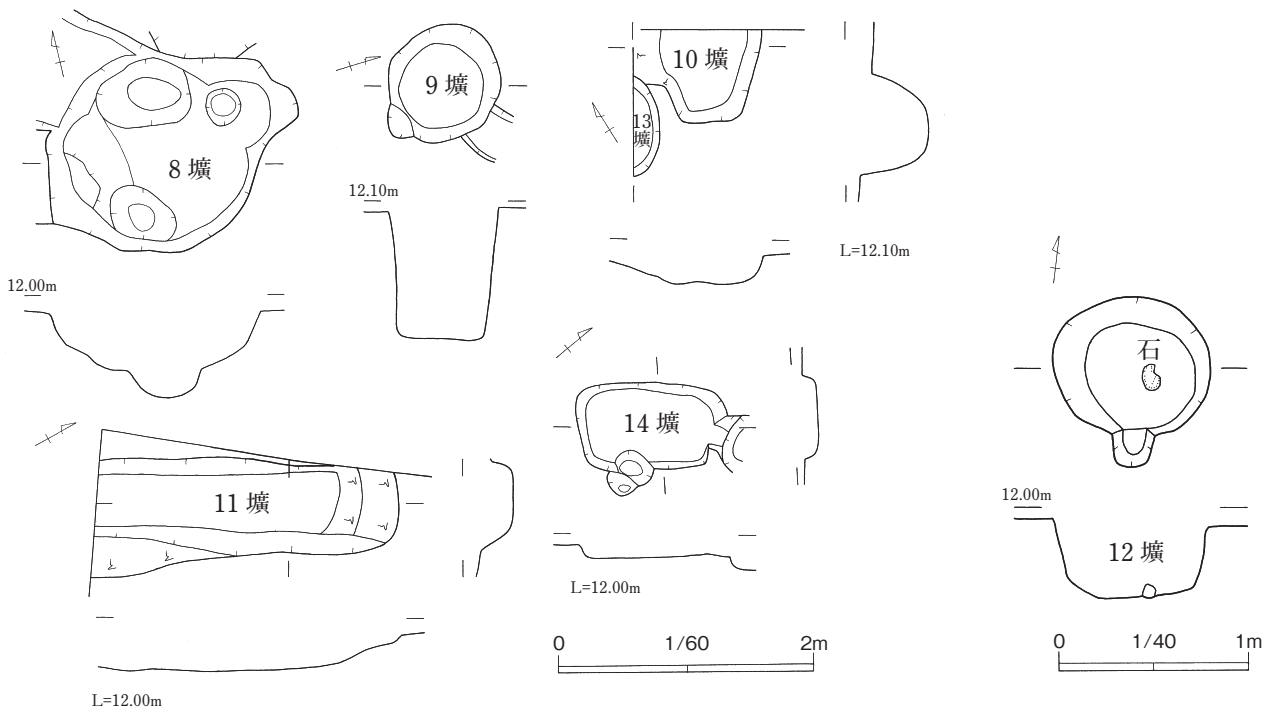


第14次遺構位置図

第5図 第14次周辺の調査と遺構位置図



第6図 第14次遺構1 (溝・井戸・土坑)

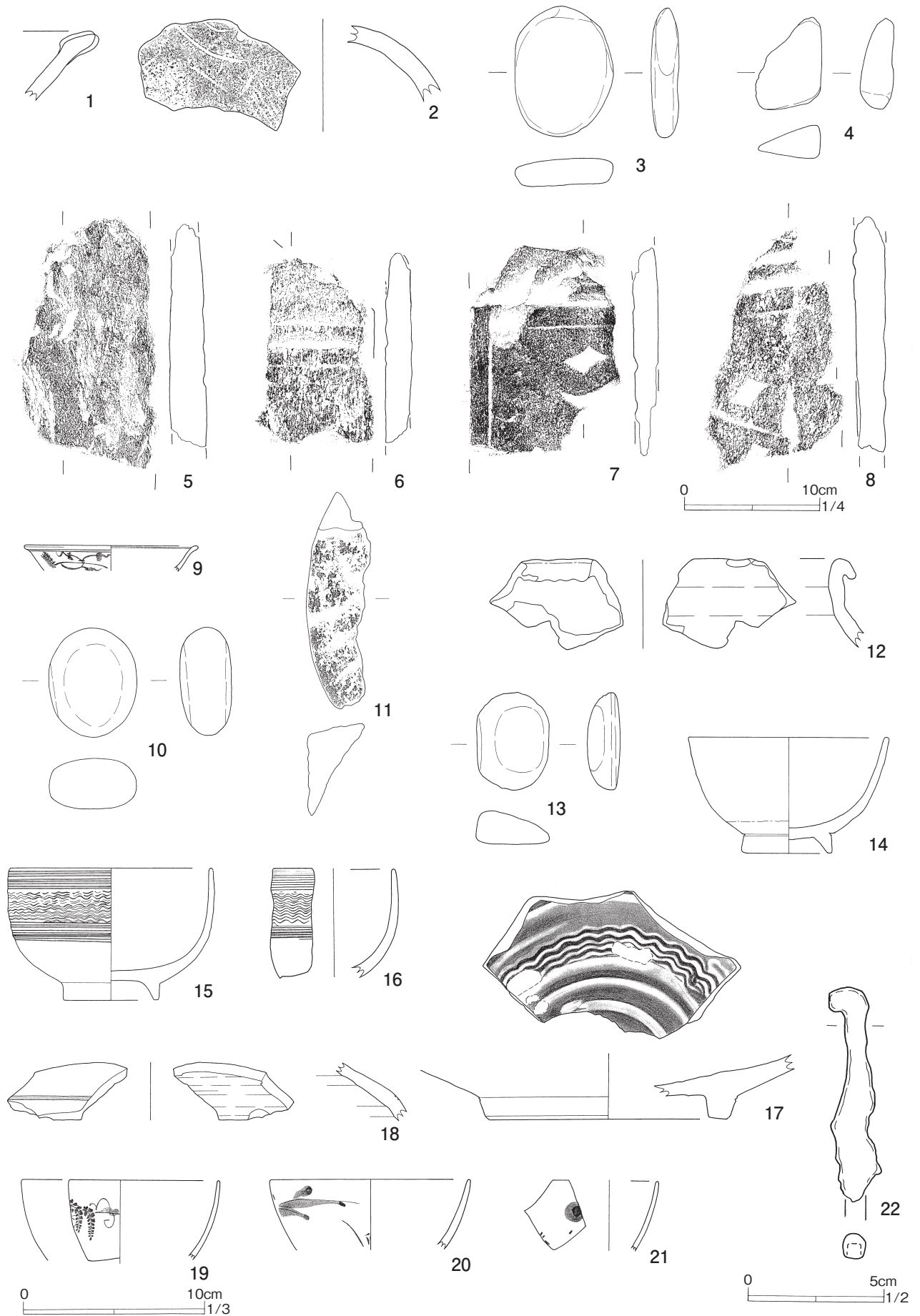


第7図 第14次遺構2（土塋）

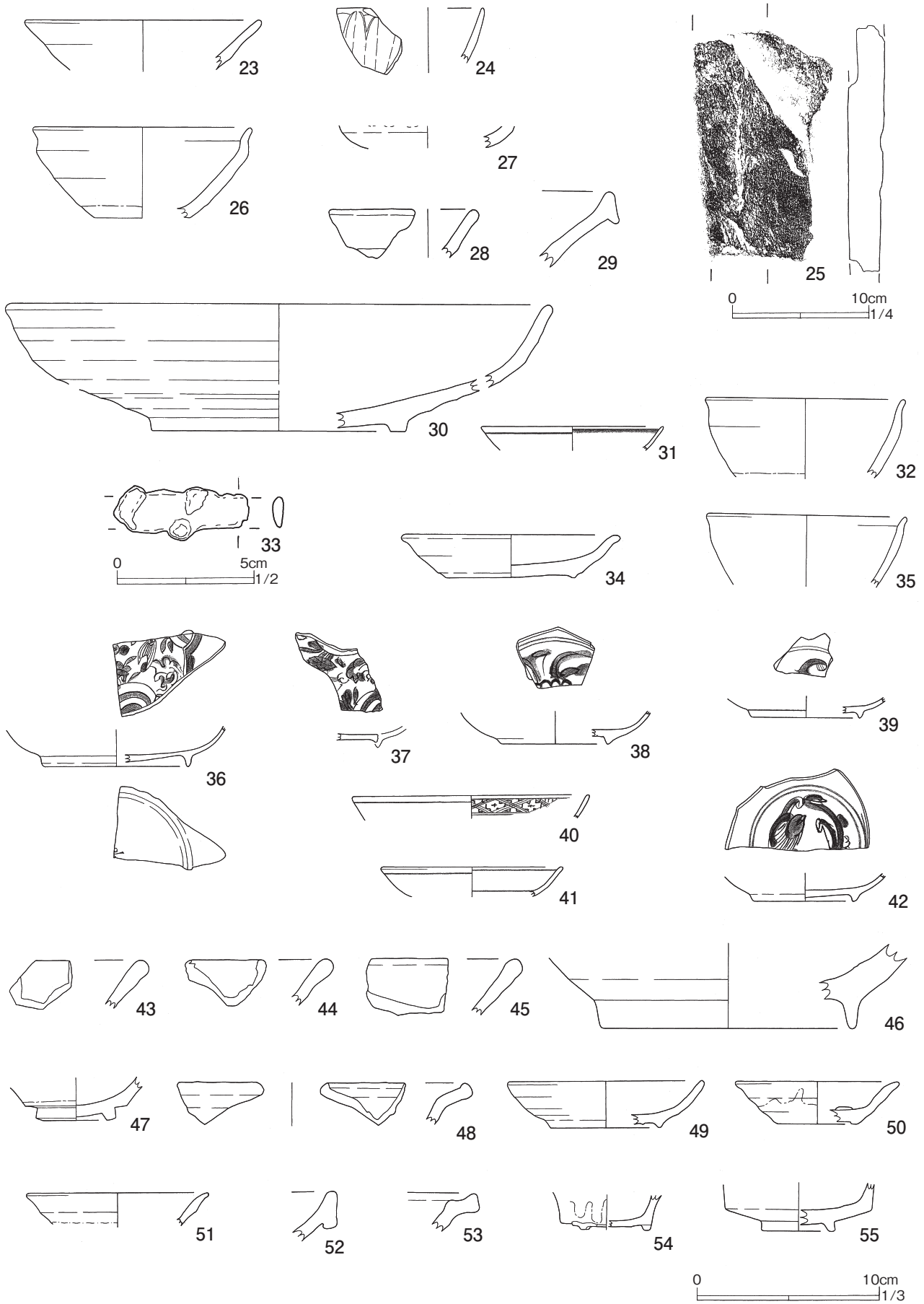
()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土(T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、FE=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	3壙	直線	ほぼ直上	幅27	13	不明	瀬美(播鉢)	16c~	
2号溝	落ち込み	直線	ほぼ直上	幅45	40	暗灰褐色含CR	常滑(甕)	中世~	
1号井戸	落込	円形	ほぼ直上	88×80	130	暗灰褐色(含T・CR・SR)	かわらけ/素焼播鉢/磨石/板碑	~18c末 テフラ混入	
2号井戸	なし	方形	直上	107×93	173	暗灰褐色(含CR・SR)	中国(染付皿)/かわらけ/焙烙/磨石/石臼/種子(桃?)	16c~	
3号井戸	1壙→○	不整形円形	ロート状	☆195×128	218	暗灰褐色(含CR)	肥前(磁器碗)/唐津大皿/常滑(甕)/磨石	18c前~	
4号井戸	落込	楕円形	直上	80	135	不明			
1号土塋	7壙→○	隅丸方形	直上	240×210	☆56	ロームブロック層・暗灰褐色(含CR・SR)	唐津(碗)/肥前(磁器碗)/瀬美(天目)/焙烙/瓦質播鉢	18c~	
2号土塋	落込	長方形	ほぼ直上	(203)×80	32	不明	山茶碗/瀬美(天目)/焙烙	16c~	
3号土塋	1溝	楕円形?	ゆるやか	240×90	16	暗灰褐色(含T・CR・SR)	瀬美(天目)/焙烙	~18c末 テフラ混入	
4号土塋	5壙	長方形	ゆるやか	(188)×75	10	暗灰褐色(含CR・SR)	肥前(磁器碗)/備前(建水)/焙烙	17c後~	
5号土塋	落込	隅丸長方形	ゆるやか	263×113	8	暗灰褐色(含CR・SR)		中近世	
6号土塋	なし	円形	直上	85	78	暗灰褐色(含T・CR・SR)	龍泉窯(青磁碗)/かわらけ/素焼播鉢	~18c末 テフラ混入	
7号土塋	○→1壙/7壙	隅丸長方形	ゆるやか	(495)×68	8	暗灰褐色(含T・CR・SR)		~18c末 テフラ混入	
8号土塋	落込	円形	ゆるやか	162	45	暗灰褐色(含T・CR・SR)	瀬美(天目)	~18c末 テフラ混入	
9号土塋	落込	円形	直上	90	103	暗灰褐色(含T・CR)		~18c末 テフラ混入	
10号土塋	なし	楕円形?	ゆるやか	(75)×95	25	暗灰褐色(含CR)	肥前(磁器碗)	17c後~	
11号土塋	なし	長方形	ほぼ直上	(242)×76	27	不明	中国(褐釉壺)/瀬美(丸皿)/志戸呂(播鉢)/かわらけ/焙烙	16c後~	
12号土塋	7壙	楕円形	直上	82×74	38	不明		中近世	
13号土塋	なし	円形?	ほぼ直上	80×(22)	52	不明	肥前(青磁花瓶)	18c~	
14号土塋	なし	長方形	ほぼ直上	120×68	13	暗灰褐色(含T)		~18c末 テフラ混入	

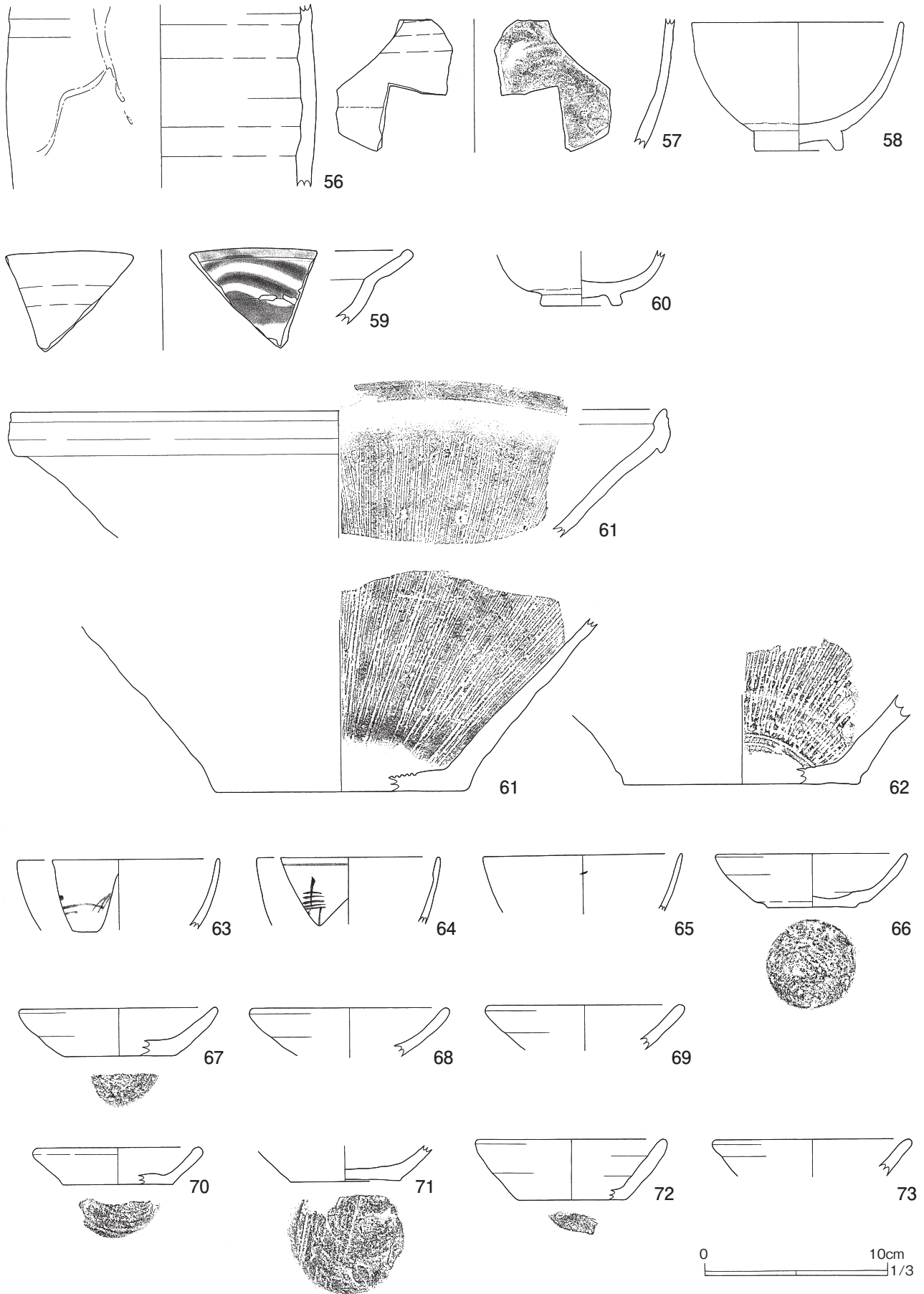
第1表 第14次遺構一覧表



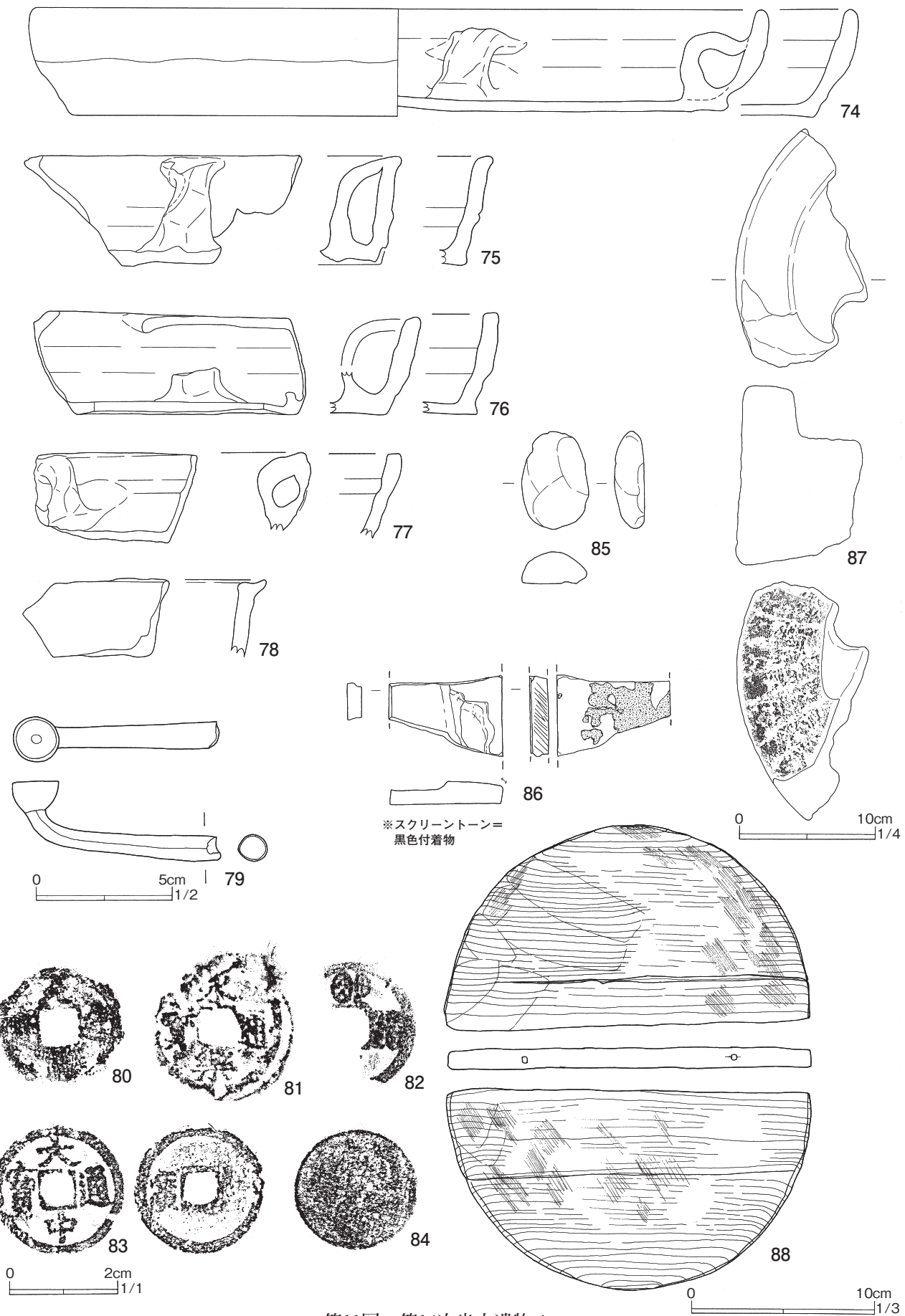
第8図 第14次出土遺物1



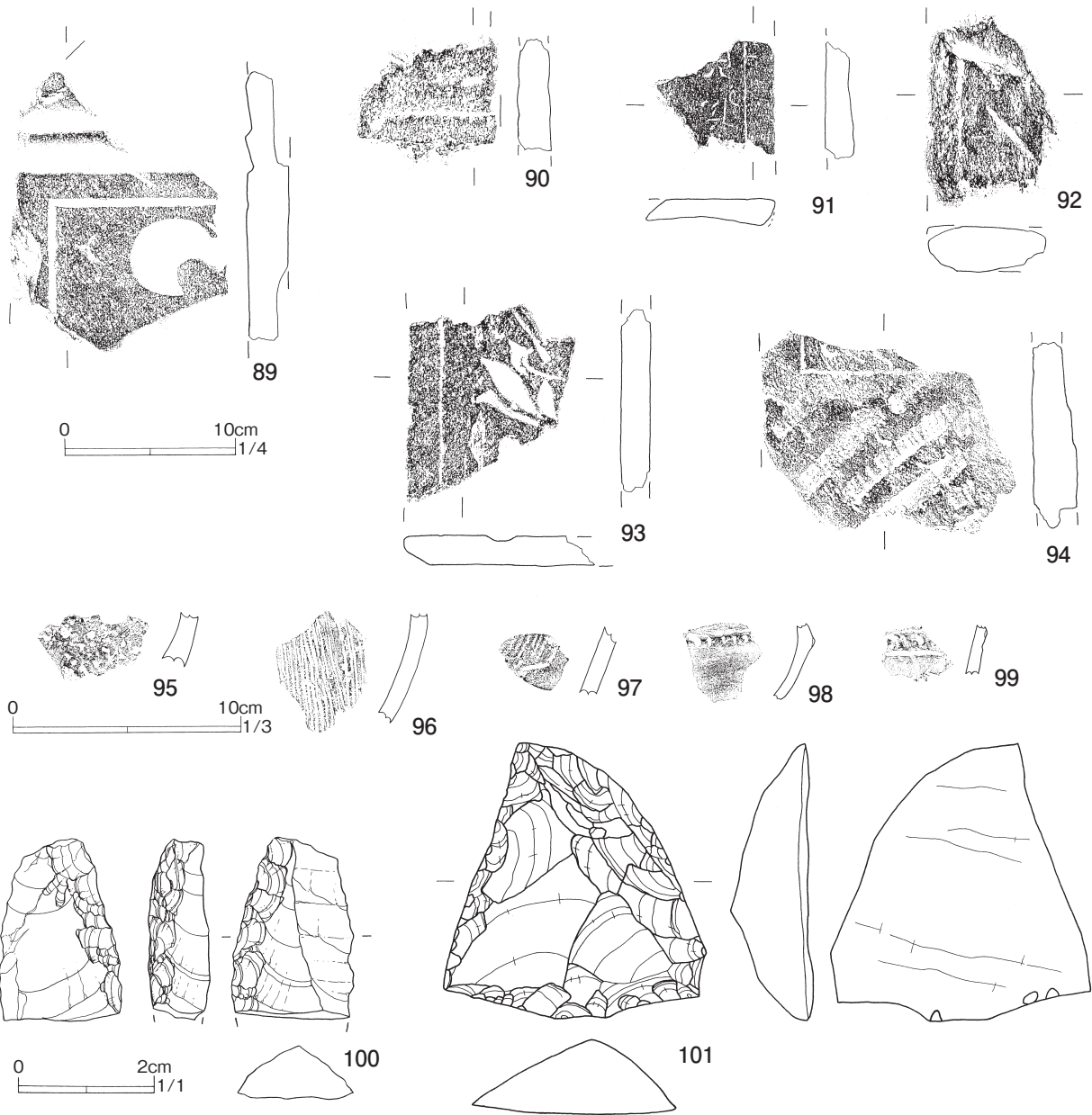
第9図 第14次出土遺物2



第10図 第14次出土遺物 3



第11図 第14次出土遺物 4



第12図 第14次出土遺物 5

()は残存値、*は不確定な推定復元値

図No	遺物名	産地 (材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式	年代	遺物 ID	備考
1	搦鉢	瀬戸美濃	1溝 (No1)	—	—	—	大3カ、II		鉢006	
2	甕	常滑	2溝、24P	—	—	—		不明	袋004	
3	磨石	石(ゲイサイト)	1井	5.0	3.5	1.8			石003	
4	磨石	石(ゲイサイト)	1井	7.1	5.4	1.5			石005	
5	板碑	石(緑泥石片岩)	1井	18.0	10.4	2.5				
6	板碑	石(緑泥石片岩)	1井	14.0	9.0	1.8				
7	板碑	石(緑泥石片岩)	1井	18.7	11.0	2.2				
8	板碑	石(緑泥石片岩)	1井	16.8	11.7	1.8				
9	染付皿	中国	2井	*9.6	—	—	皿 B-1		染004	
10	磨石	石(ゲイサイト)	2井	6.0	4.8	2.8			石004	
11	石臼(下臼)	石(普通輝石安山岩)	2井	—	(4.3)	5.5			石006	
12	広口壺	常滑	3井 (No1)	—	—	—	10	1450~1500	袋001	
13	磨石	石(ゲイサイト)	3井	5.4	4.0	1.8			石002	
14	丸碗	肥前(陶器)	3井 (No3・10)	11.1	5.0	6.5		18c 前	町碗036	
15	三島碗	肥前(唐津)	1壙 (No17)	*10.2	—	—		17c 後	町碗040	
16	碗	肥前(唐津)	1壙	—	—	—		17c 前	碗003	
17	大皿	肥前(唐津)	3井 (No5)	—	*13.0	—			鉢002	
18	梅瓶	瀬戸美濃	1壙 (No15)	—	—	—	古後		袋003	
19	碗	肥前(磁器)	3井 (No4)	*11.0	—	—		17c 後	伊001	
20	碗	肥前(磁器)	1壙	*11.0	—	—		17c 後~18c	伊002	
21	碗	肥前(磁器)	1壙	—	—	—		18c カ	伊004	
22	釘(角)	鉄	1壙 (No8)	7.8	0.6	—				
23	山茶碗	不明	2壙	*13.0	—	—		13c カ	碗002	
24	青磁碗	龍泉窯系中国	6壙	—	—	—	III	13c~14c	青001	
25	板碑	石(緑泥石片岩)	6壙	18.3	10.6	2.7				
26	天目	瀬戸美濃	8壙、4P、No31	*12.0	—	—	大2カ		天001	
27	丸皿	瀬戸美濃	11壙	*10.0	—	—	大3		皿005	
28	大皿	瀬戸美濃	11壙	—	—	—	大4		鉢014	
29	搦鉢	志戸呂	11壙	—	—	—	大3後・4前相当		鉢007	
30	大皿	瀬戸美濃	11壙、25P	*30.0	*14.0	—	大4		鉢001	
31	染付皿	中国	8P	*10.0	—	—	皿 E		染009	
32	天目	瀬戸美濃	9P	*11.0	—	—	大3カ、II		天004	
33	小柄状製品(刀身部?)	鉄	15P	4.9	1.0	0.3				
34	志野丸皿	瀬戸美濃	19P	12.0	7.0	2.3	大4後		皿001	
35	天目	瀬戸美濃	20P	*11.0	—	—	大1カ		天003	
36	染付皿	中国	No50	—	*8.0	—	皿 E		染001	
37	染付皿	中国	一括	—	—	—	皿 E		染002	
38	染付皿	中国	一括	—	*6.0	—	皿 E		染003	
39	染付皿	中国	一括	—	*6.0	—	皿 E		染006	
40	染付皿	中国	一括	*13.0	—	—	皿 E		染005	
41	染付皿	中国	一括	*10.0	—	—	皿 E		染008	
42	染付皿	中国	一括	—	5.6	—	皿 E		染007	
43	搦鉢	常滑	一括	—	—	—	5・6a		鉢009	
44	搦鉢	常滑	一括	—	*14.0	—	5・6a		鉢010	
45	搦鉢	常滑	一括	—	—	—	5・6a		鉢008	
46	搦鉢	常滑	一括	—	—	—			鉢011	
47	天目	瀬戸美濃	一括	—	*4.4	—	登1カ		天002	
48	折縁深皿	瀬戸美濃	一括	—	—	—	古中II		皿004	
49	丸皿	瀬戸美濃	一括	*10.8	*6.0	2.5	大2		皿002	
50	稜皿	瀬戸美濃	一括	*9.0	*4.5	2.3	大3		皿003	
51	稜皿	瀬戸美濃	一括	*10.0	—	—	大3		皿006	
52	搦鉢	瀬戸美濃	一括	—	—	—	大2カ、I		鉢004	
53	搦鉢	瀬戸美濃	一括	—	—	—	大4後~登1カ		鉢005	
54	筒形香炉	瀬戸美濃	一括	—	*5.0	—	大1~4		香001	
55	香炉カ	瀬戸美濃	No27	—	*4.0	—		18c~カ	香002	
56	德利カ	瀬戸美濃	No24	—	—	—		17c~	袋005	
57	德利	肥前(唐津)	一括	—	—	—	I・II		袋002	
58	丸碗	肥前(陶器)	一括	*11.6	4.7	—		18c 前	町碗037	
59	大皿	肥前(唐津)	一括	—	—	—		17c 末~18c 前	鉢003	
60	丸碗	志戸呂	No51	—	4.5	—	大3後・4前相当		碗001	
61	搦鉢	丹波	No39・40	*36.0	*14.0	—		17c 後	鉢012	
62	搦鉢	丹波	No20	—	*13.0	—		17c~	鉢013	
63	碗	肥前(磁器)	一括	*11.0	—	—		18c	伊003	
64	碗	肥前(磁器)	一括	*10.0	—	—		17c 後	伊005	
65	碗	肥前(磁器)	一括	*11.0	—	—		17c 後~18c	伊006	
66	かわらけ	在地	一括	10.5	5.0	2.9			K001	
67	かわらけ	在地	一括	*11.0	*6.0	2.6			K002	
68	かわらけ	在地	一括	*11.0	—	—			K003	
69	かわらけ	在地	一括	*11.0	—	—			K004	
70	かわらけ	在地	一括	*9.4	6.0	2.0			K005	

第2表 第14次遺物一覧表1

()は残存値、*は不確定な推定復元値

図No	遺物名	産地 (材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式	年代	遺物 ID	備考
71	かわらけ	在地	No36	—	6.0	—			K006	
72	かわらけ	在地	一括	*10.6	*6.0	3.3			K007	
73	かわらけ	在地	一括	*11.0	—	—			K008	
74	ほうろく	在地	No38	*40.7	*36.0	5.9		17c~	H004	
75	ほうろく	在地	No52	—	—	6.0		17c~	H001	
76	ほうろく	在地	No47	—	—	5.5		17c~	H002	
77	ほうろく	在地	No10	—	—	—		~17c	H003	
78	火鉢	在地	一括	—	—	—		不明	素他001	
79	煙管(雁首)	銅	No32	7.5	1.7	3.1			町金097	
80	銭貨(明道元宝カ)	銅	一括	—	—	—		北宋1032		
81	銭貨(永楽通宝)	銅	一括	—	—	—		明1408		
82	銭貨(元豊通宝カ)	銅	No15	—	—	—		北宋1078		
83	銭貨(大中通宝)	銅	一括	—	—	—		明1361		
84	銭貨(一銭)	銅	一括	—	—	—		大正9		
85	磨石	石	一括	5.3	3.7	1.7			石001	
86	硯状製品	石	一括	(4.5)	6.2	1.2				黒色付着物
87	石臼(上臼)	石	一括	—	(9.0)	13.2			石007	
88	桶(底板)	木	No1	20.0	—	1.2				
89	板碑	石(緑泥石片岩)	No11	17.7	13.8	2.5				
90	板碑	石(緑泥石片岩)	一括	8.2	8.1	1.9				
91	板碑	石(緑泥石片岩)	No37	7.0	7.7	1.3				
92	板碑	石(緑泥石片岩)	No45	14.2	8.0	2.7				
93	板碑	石(緑泥石片岩)	一括	12.3	11.2	1.6				
94	板碑	石(緑泥石片岩)	一括	12.7	15.7	2.4				
95	縄文土器	土器	23P	—	—	—				
96	縄文土器	土器	11壙	—	—	—				
97	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
98	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
99	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
100	スクレイパー	石(黒曜石)	一括	2.7	1.8	0.9				
101	スクレイパー	石(頁岩?)	一括	4.0	3.9	1.2				

第3表 第14次遺物一覧表2



調査風景

第三章 第27次調査

第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成3年6月17日、開発者岡戸浩氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋68-1, 68-4, 74 (仮換地37街区3画地の一部)における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

9月11日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

調査協力員

小川征子 小久保衛 小森谷二三子 斉藤ふじ
武藤準一 若林美知子

文化庁通知 4委保記第5-325号

平成4年4月8日

調査期間 平成4年1月27日～3月4日

調査面積 69m²

(調査の経過)

建設予定地に9.5m×6mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。北・西側にトレンチをいれ60cmほどでローム面であることを確認した。そのレベルまで一気に掘り下げ、土壌・井戸などの調査を行った。1号井戸から火鉢・硯・かわらけなど、4号土壌から印花を有する瀬戸皿が出土した。

平行して南側に第1トレンチ、東側に第2～4トレンチを入れ遺構の広がりを確認した。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水系を基準としてメジャーにより実測した。最後にピット・縄文時代遺構の精査を行った。

基準杭の標高は近隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

第22・24次調査区に隣接する(既報告)。大規模の溝が確認されているが18世紀代で廃城後のものである。ここでは副葬品と見られる数珠玉5点と六道銭が出土する土壌が検出され、KB2区及び第41次調査から墓域が展開するものであろう。

第2節 遺構と遺物

遺構は散漫な分布である。

【溝】4Tの東端で1条検出した。

1号溝 ・出土遺物は17～19世紀の肥前産磁器(未図化)である。

【井戸状遺構】西端で1基検出された。

1号井戸 4号土壌と重複し平面形が不明瞭である。土層の堆積から4～6号土壌より新しい。

○出土遺物 口径40cm前後の素焼火鉢片(3・4)、かわらけ由来で18C代の碁石(6～8)・磨石(9～11)がある。10の磨石は砥いだ結果、円錐形の孔が複数穿たれている。木製品は漆椀片(12)や植物文が描かれた漆皮膜(13・14)、櫛(15)がある。

【土壌】長方形のものが7基検出された。4号以外については遺物が出土せず時期が確定できない。

2号土壌 刀子(17)が出土した。

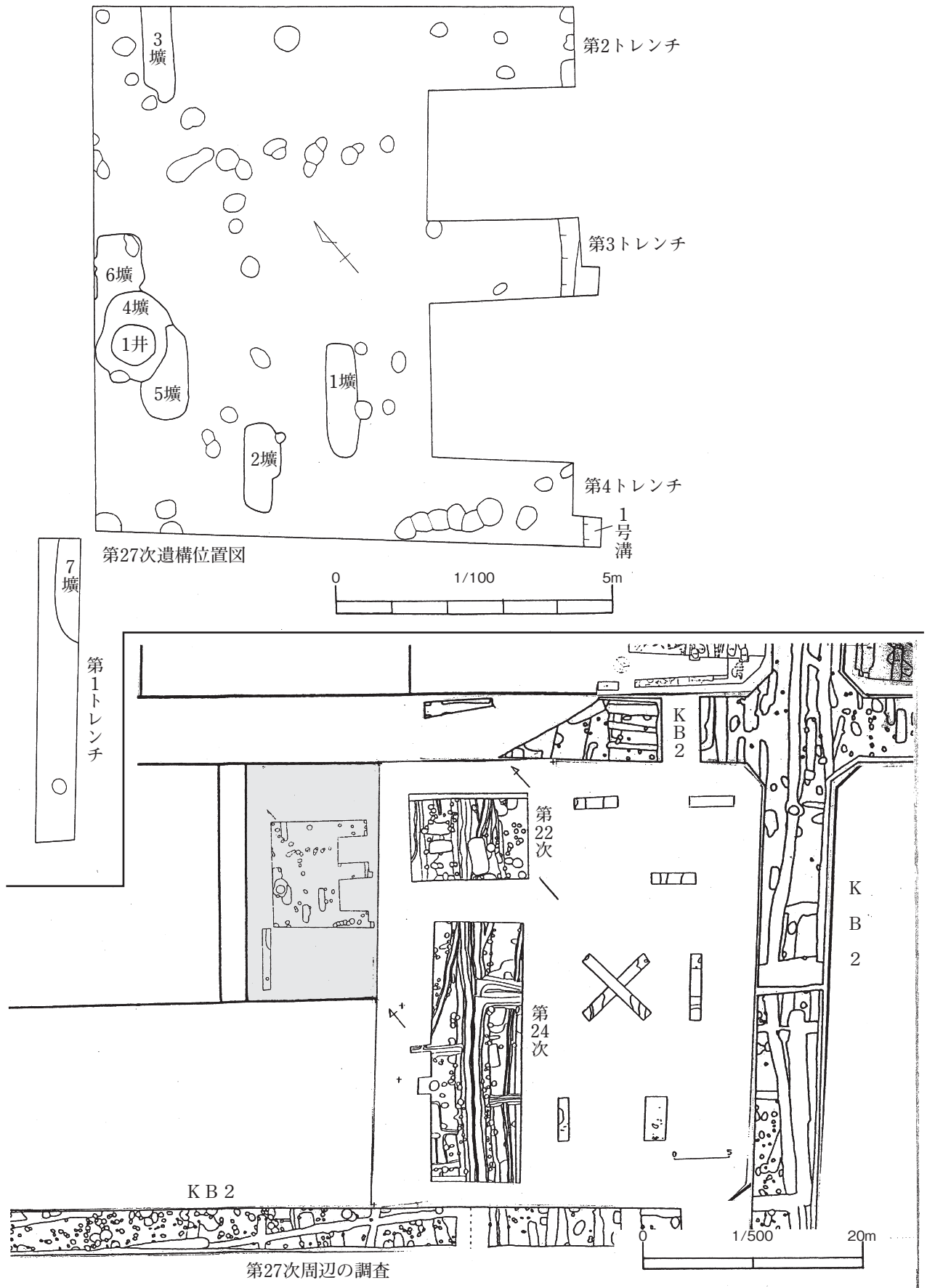
4号土壌 1号井戸の上半とも思われたが段を有すること・土層堆積から別遺構とした。

○出土遺物 大窯3期の灰釉折縁皿(18)がある。

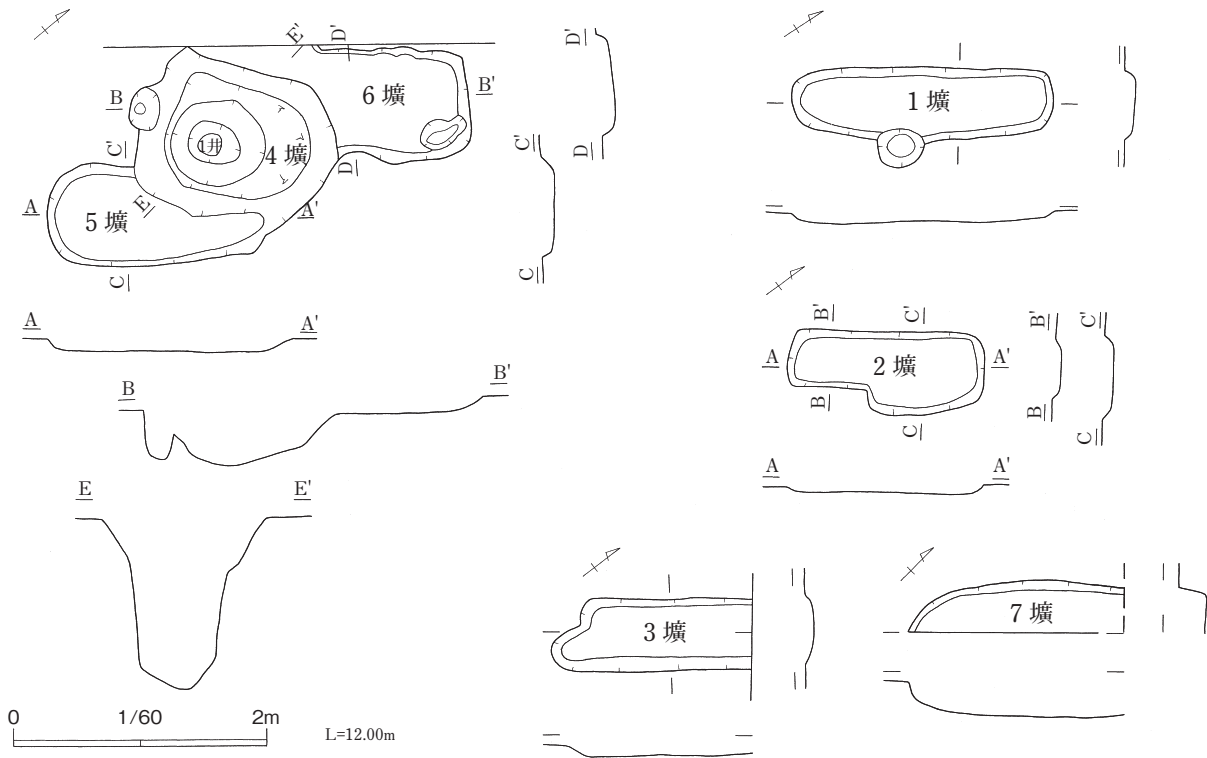
遺構外出土遺物

金属製品では煙管の吸口(28)、近代の銭貨(29)、石製品では縁部に格子目/背面に記名?を施す硯(30)がある。

ナイフ形石器(31)はガラス質黒色緻密安山岩製で刃部を一部欠損しているが、右側縁・左下半・基部を調整しており武蔵野台地編年第IV層下部以前のものと思われる。他に縄文中期の土器片(32～35)や敲石(36)などが出土した。



第13図 第27次周辺の調査と遺構位置図

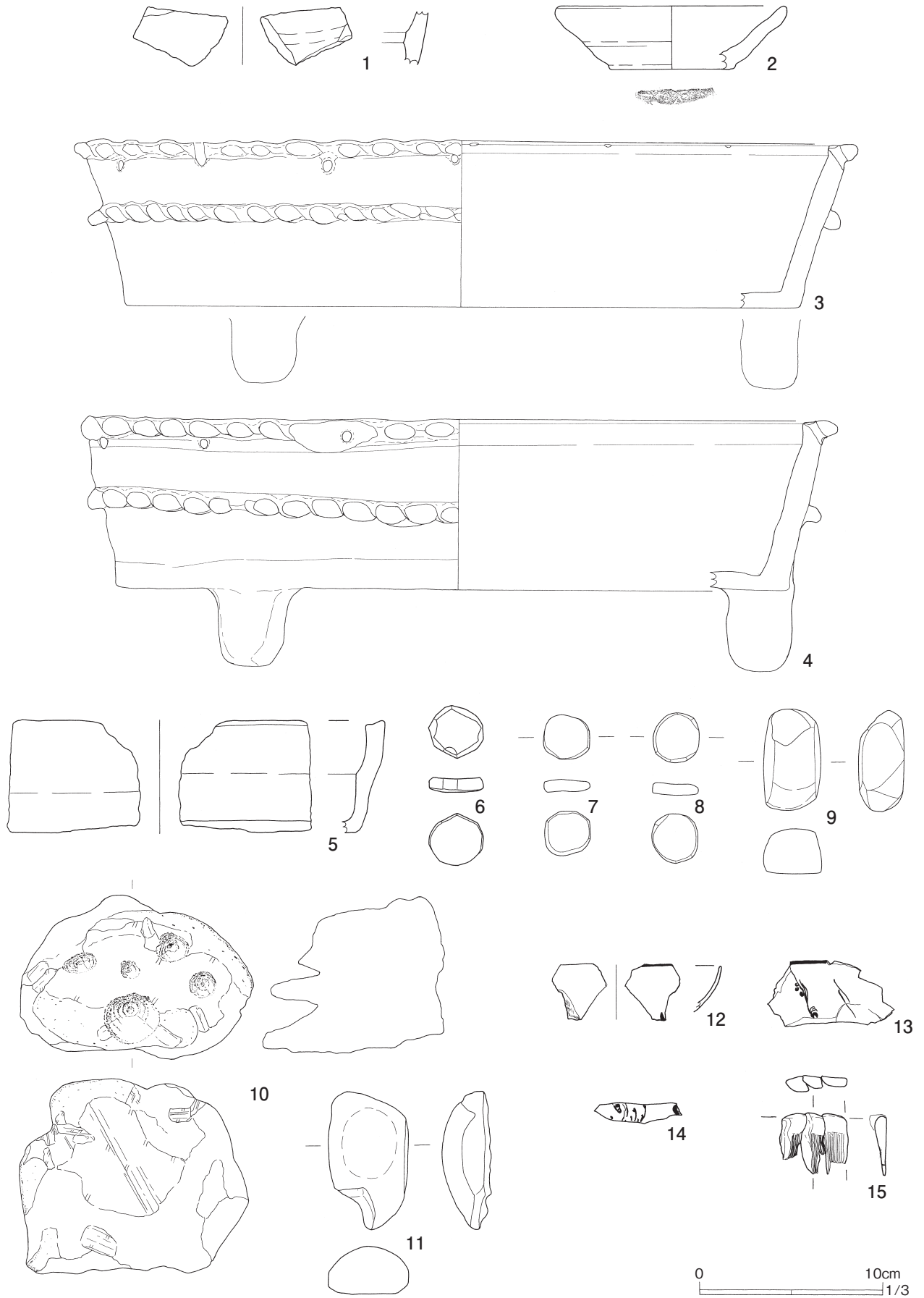


第14図 第27次遺構

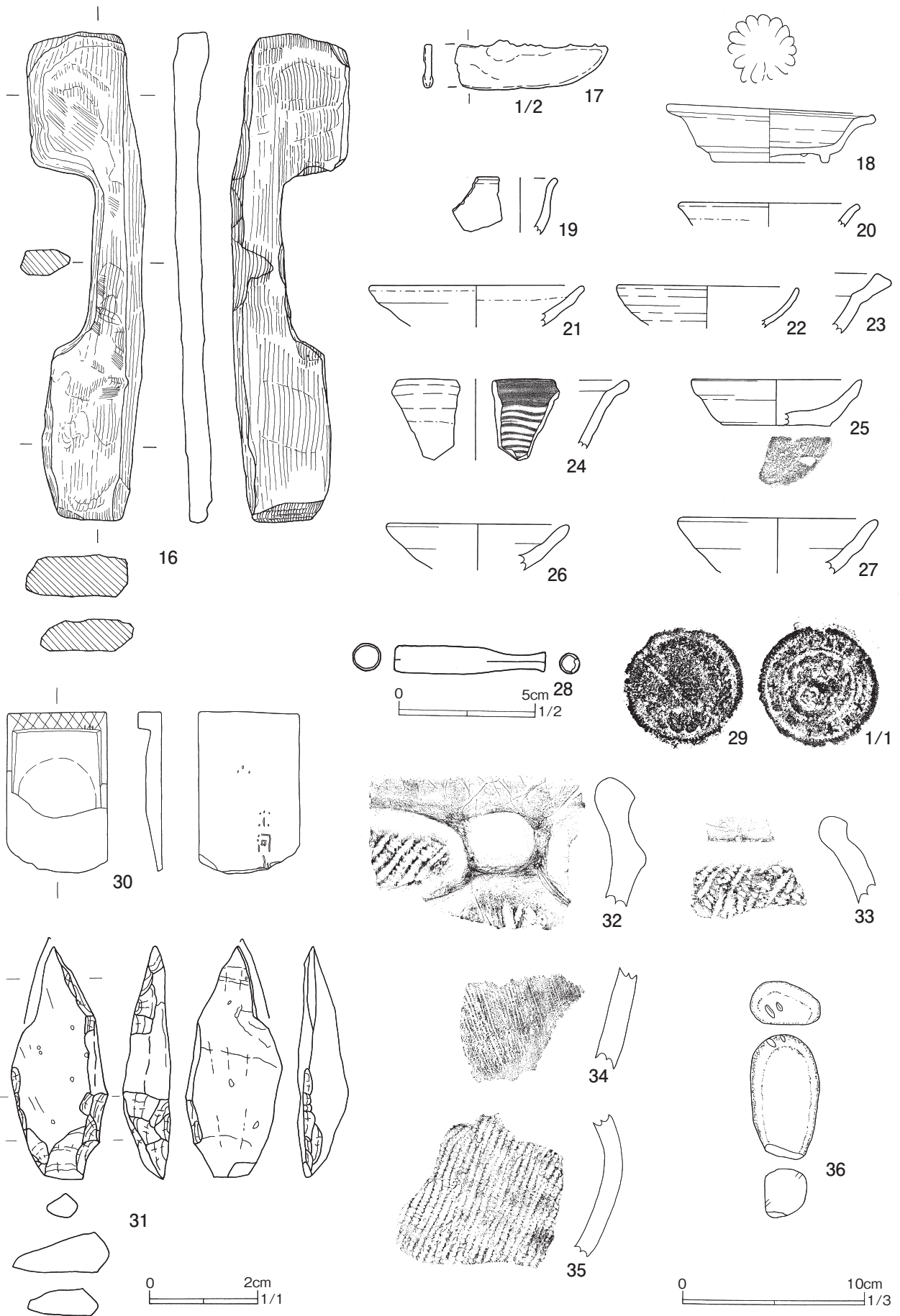
()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土(T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、FE=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号井戸	4~6壙→○	楕円形	ロート形	80×70	136	暗灰褐色(含T・CR・SR・LB)	流入-瀬美(瓶子)・焙烙・かわらけ・素焼火鉢・漆碗・硯・碁石	~18c	
1号土壙	なし	隅丸長方形	ゆるやか	210×60	8	暗灰褐色(含CR)	なし		
2号土壙	土壙?	長方形	ゆるやか	156×64	6	不明	なし		
3号土壙	ピット?	長方形	ゆるやか	(160)×60	10	暗灰褐色	なし		
4号土壙	6壙→○→1井	隅丸長方形	ゆるやか	158×123	50	暗灰褐色(含T・CR・SR)	瀬美(折縁皿)		1井に伴うものか
5号土壙	○→1井/4壙	隅丸長方形	ゆるやか	175×80	10	暗灰褐色	なし		
6号土壙	○→4壙	長方形	ほぼ直上	(130)×90	10	暗灰褐色(含CR・SR)	なし		
7号土壙	なし	長方形か	ほぼ直上	(175)×(40)	26	不明	なし		=1T1壙

第4表 第27次遺構一覧表



第15図 第27次出土遺物 1



第16図 第27次出土遺物 2

()は残存値、*は不確定な推定復元値

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式	年代	遺物 ID	備考
1	瓶子・梅瓶	瀬戸美濃	1井(No7)	—	—	—	古中		袋001	
2	かわらけ	在地	1井(No9)	*12.7	*6.8	3.4			K002	
3	火鉢	在地	1井(No4・14)	*42.5	*36.0	—			町鉢302	
4	火鉢	在地	1井(No6)、No5	*41.5	*36.6	13.5			町鉢301	
5	ぼうろく	在地	1井(No2)	—	—	6.1			H 002	
6	碁石(かわらけ)	在地	1井	2.8	—	0.6			素他001	
7	碁石(かわらけ)	在地	1井	2.5	—	0.6			素他002	
8	碁石(かわらけ)	在地	1井	2.5	—	0.6			素他003	
9	磨石(軽石)	石(デイサイト)	1井	5.5	3.1	2.5			石003	
10	砥石	石(デイサイト)	1井(No18)	9.0	12.6	10.8				
11	磨石	石(デイサイト)	1井(No24)	7.5	4.3	2.6			石001	
12	漆碗片	木	1井(No26)	—	—	—				
13	漆被膜片	木	1井(No23)	—	—	—				
14	漆被膜片	木	1井(No20)	—	—	—				
15	櫛	木	1井	3.4	—	—				
16	加工材	木	1井(No25)	26.8	—	—				
17	刀子(切先)	鉄	2墳	5.7	1.5	0.3				
18	折縁皿	瀬戸美濃	4墳	11.5	6.5	2.7~3.2	大3		町皿228	
19	天目	瀬戸美濃	T	—	—	—	登2		天001	
20	縁釉皿	瀬戸美濃	一括	*10.0	—	—	古後Ⅲ		皿002	
21	縁釉皿	瀬戸美濃	2T	*11.8	—	—	古後Ⅲ・Ⅳ		皿003	
22	灯明皿	瀬戸美濃	一括	*10.0	—	—		18c	皿001	
23	播鉢	瀬戸美濃	一括	—	—	—	登1		鉢001	
24	刷毛目皿	肥前(唐津)	一括	—	—	—		18c	皿004	
25	かわらけ	在地	No20	*9.4	*5.8	2.5		16c 後	K001	
26	かわらけ	在地	No18	*10.0	—	—			K003	
27	かわらけ	在地	No10	*11.0	—	—			K004	
28	煙管(吸口)	銅	一括	5.6	1.0	—				
29	銭貨(半銭)	銅	一括	—	—	—		明治17		
30	硯	石	No13	(8.8)	5.5	1.3			石002	
31	ナイフ型石器	石(安山岩)	一括	4.4	1.8	0.9				
32	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
33	縄文土器	土器	T	—	—	—				
34	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
35	縄文土器	土器	T	—	—	—				
36	叩石	石(砂岩)	第2下	6.9	3.8	2.7				

第5表 第27次遺物一覧表



調査風景

第IV章 第44次調査

第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成5年7月2日、開発者藤井琴子・藤井知弘氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋（仮換地38街区2画地の一部）における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が存在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

7月18日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任嶋村英之が担当した。

調査協力員

栗原政子 小森谷二三子 斉藤ふじ 関口信幸
野崎志げ子 松永鶴子 吉田美津

文化庁通知 教文第1-149号

平成6年5月25日

調査期間 平成6年6月15日～8月26日

調査面積 160m²

(調査の経過)

今回は排土等置き場確保のため、初めに南側庭予定地にトレンチを入れ土壌・ピットの調査を行った。また建設予定地は東西に2分割して調査することとした。先行して西側(A区)を重機により遺構確認面(ローム層)まで掘り下げ溝・土壌の調査を行った。湧水のため西及び南側に側溝を掘り排水した。A区調査完了後、重機により東側(B区)の表土を削除し同様に遺構の調査を行った。いずれの井戸の覆土も洗浄し遺物を精査した。最後にピットの調査をした。

調査区全体の規模は18m×8mである。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は近隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

KB1区が東接、第11・29次が北接する。いずれも未報告であるがKB1区の南北に走る大規模な溝は江戸初期の絵図掲載の堀と考えている。他に円形の土壌や井戸が分布していた。北接する調査区は散漫な遺構検出状況であった。

第2節 遺構と遺物

調査区全面に遺構が広がる。

【溝】6条で東西方向に走行し、6号溝のみ南北方向である。幅40～96cmで、2・3・4・6溝は断面箱堀でしっかりしている。4・5号溝は、他の東西方向のもの軸をやや異にする。

3号溝

○出土遺物 登窯2・3期の瀬戸美濃産天目(1)・志戸呂産建水(8)や煙管(15)・刀子(16)がある。煙管は羅字相当部分が8.5cmの間隔で出土した。

4号溝 4号土壌との重複箇所ではかわらけ・播鉢等が出土しているが帰属先は不明である。

○出土遺物 志戸呂産蓋(25)・徳利(26)およびかわらけ(27～30)がある。

6号溝 北へ延びKB2区21号溝(東端の溝)とつながるか。土鍋(47～49)・在地産播鉢(51)・風炉(52)が出土した。

【井戸状遺構】3基あり北側に寄る。

1号井戸 2号土壌と重複するため断面が上半で広がる。

【土壌】7基確認された。

1号土壌 歯が出土した。

4号土壌 深さ110cmと深い。

○出土遺物 残りの良いかわらけ(57)・縁釉小皿(58)・漆被膜、猿手一刀装具一(59)がある。

5号土壌 焼骨・炭化物が出土。

7号土壌 銅製鈴(61)が出土。

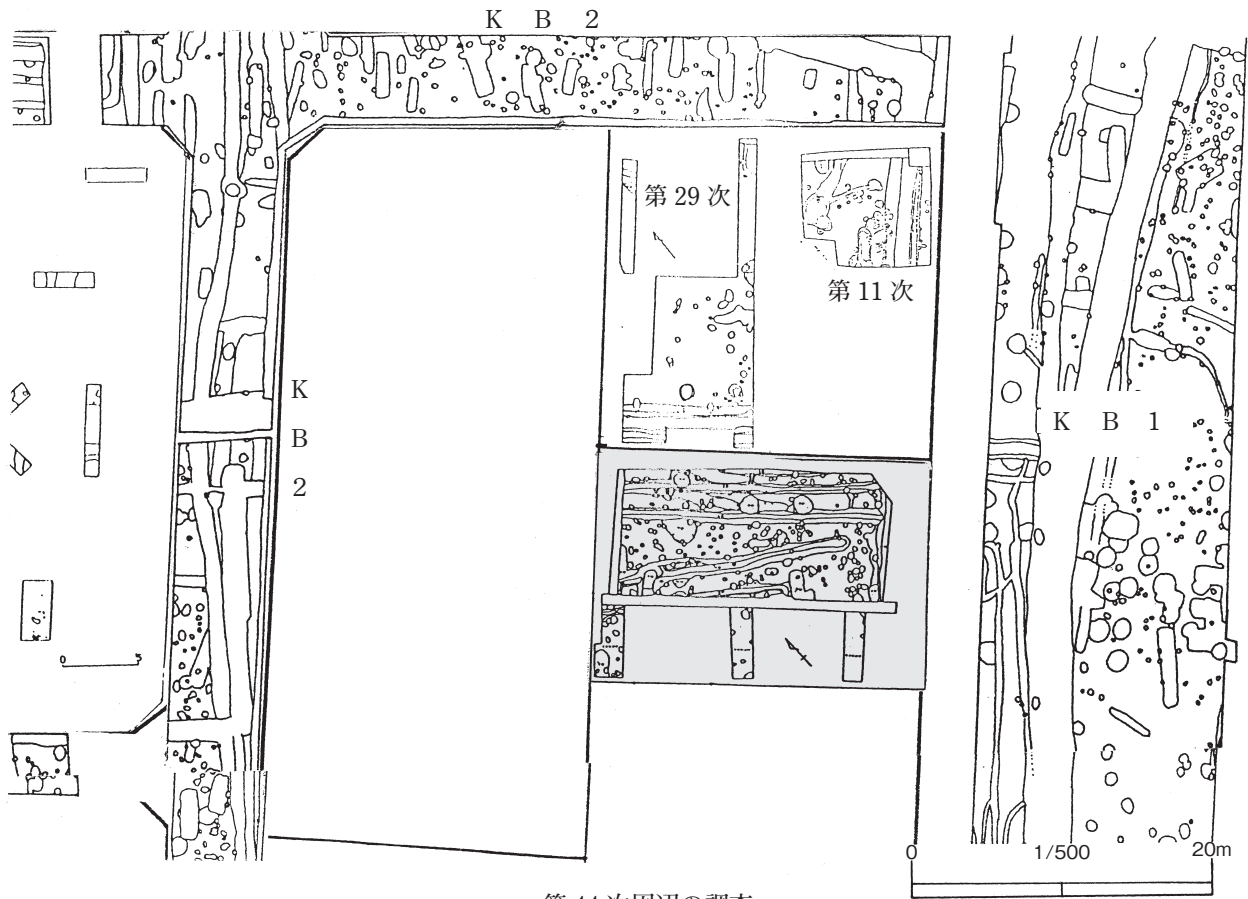
【ピット】

1p 石が埋設されておりが根石の可能性もある。

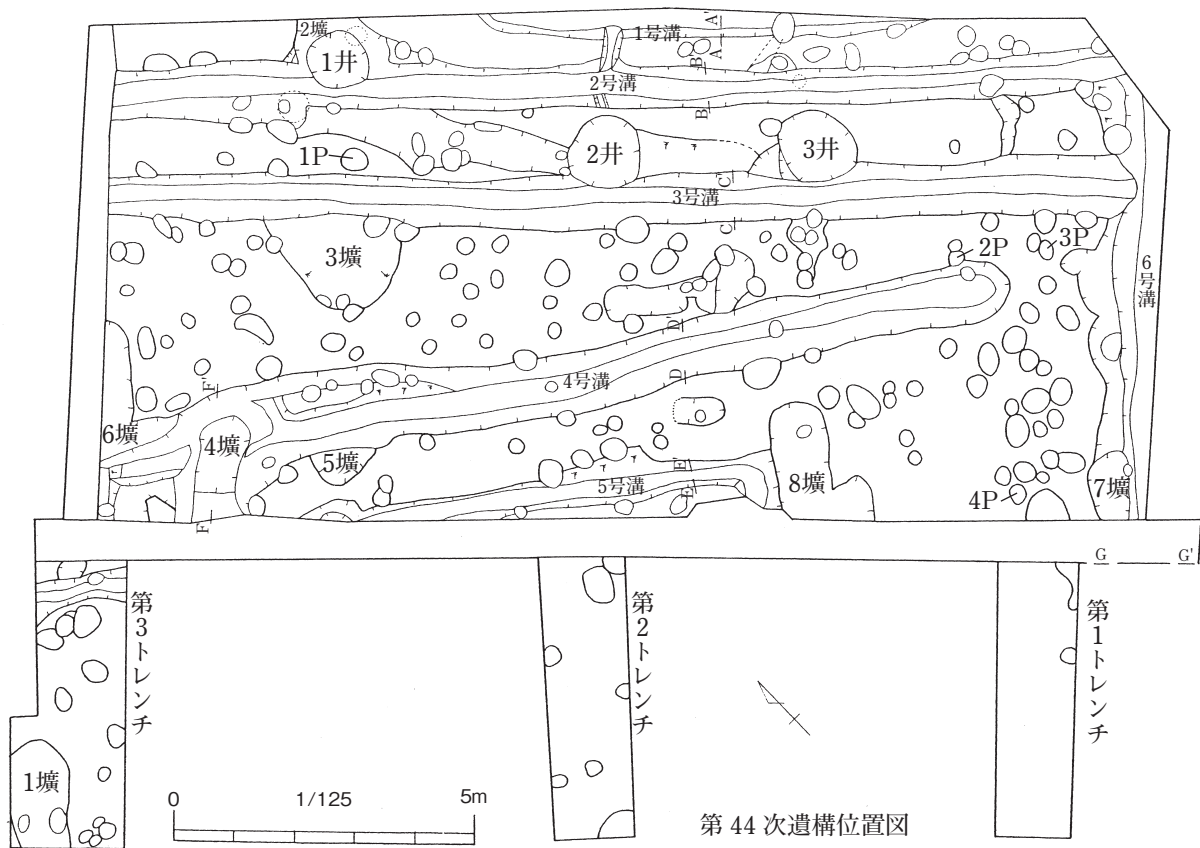
2p 在地播鉢の底辺部(62)が出土した。

遺構外出土遺物

細片であるが中国産陶磁器(65～71)があり13～17世紀のものである。

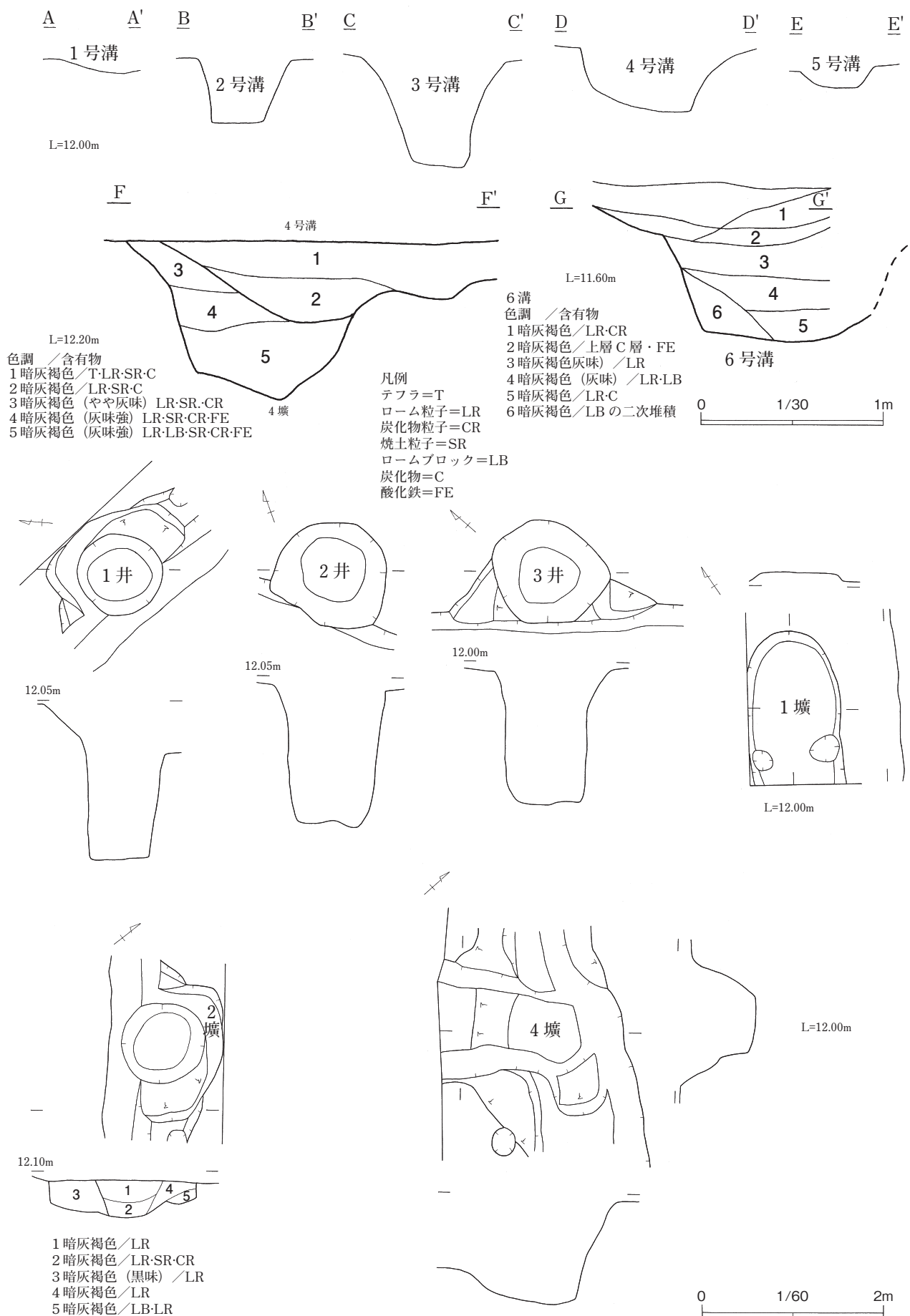


第44次周辺の調査

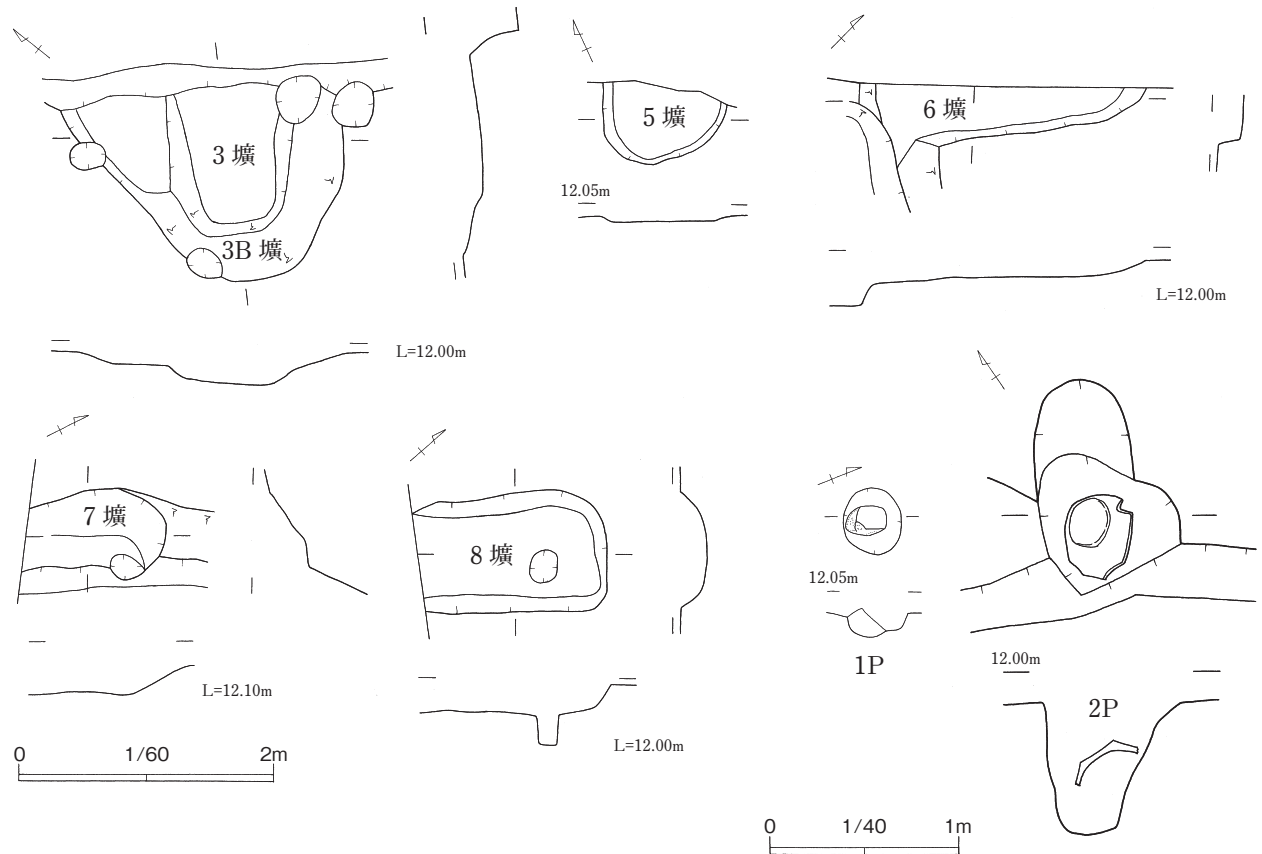


第44次遺構位置図

第17図 第44次周辺の調査と遺構位置図



第18図 第44次遺構1 (溝・土壙)

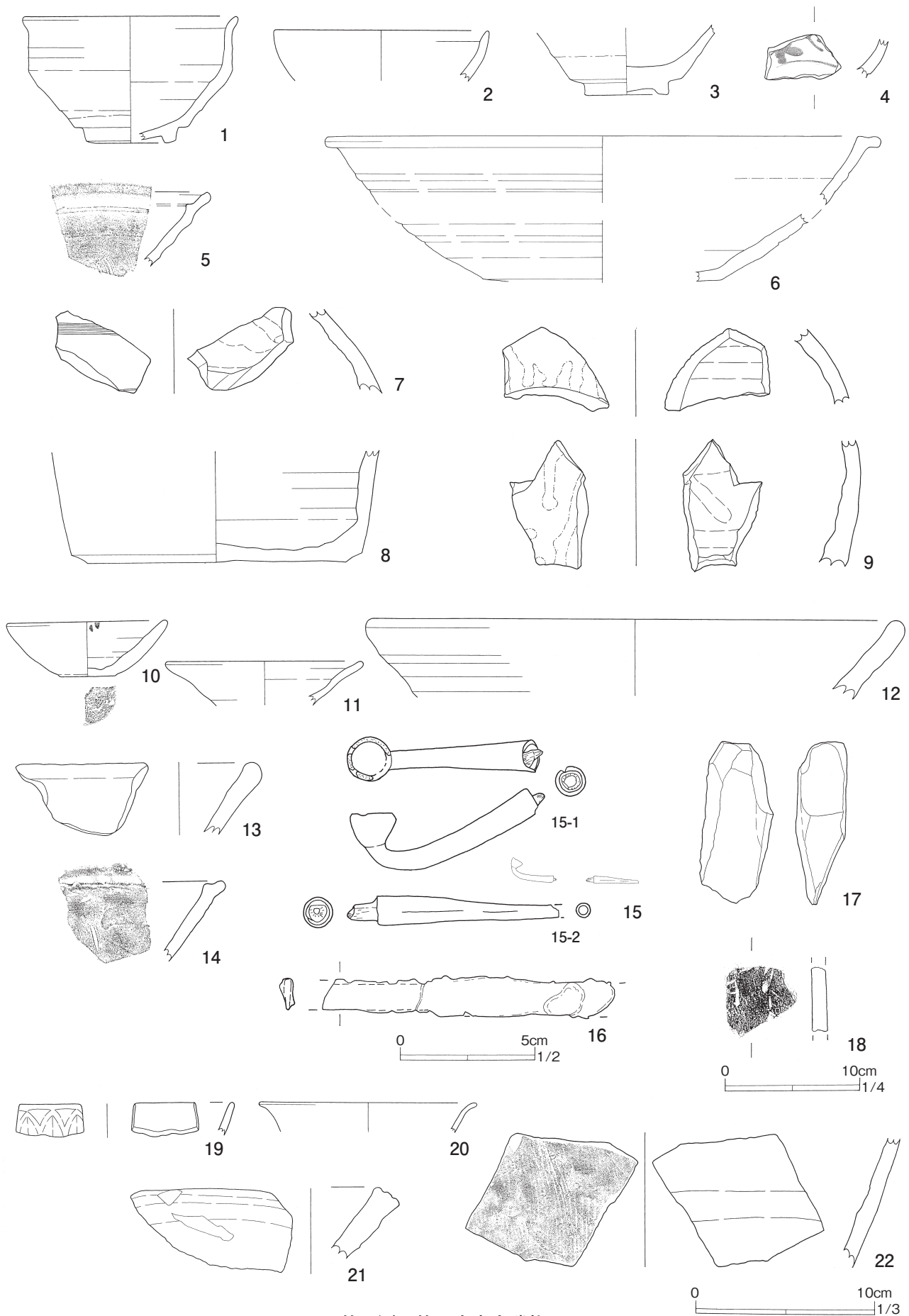


第19図 第44次遺構2 (土坑)

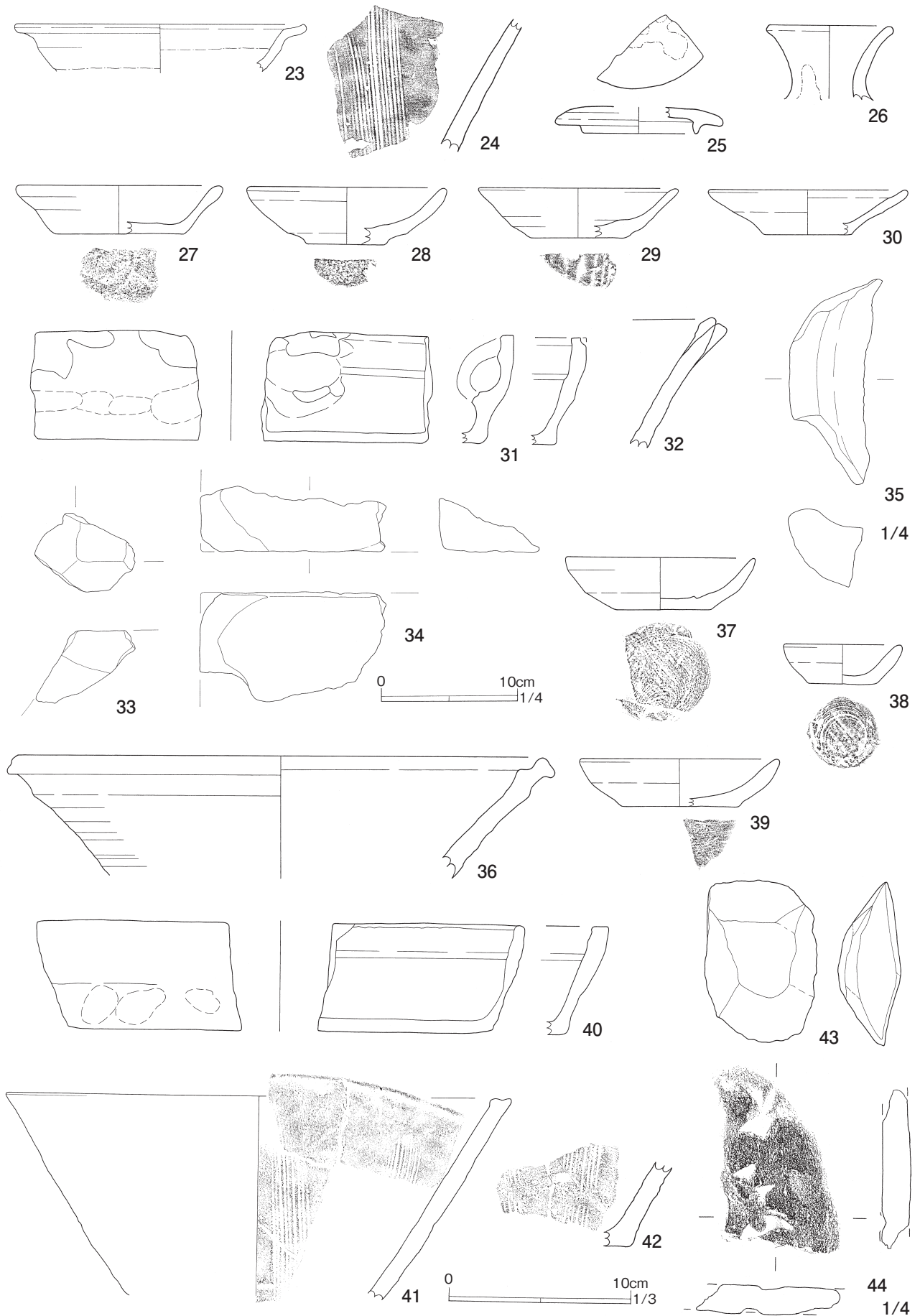
()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土(T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、FE=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	なし	やや屈曲	ゆるやか	幅☆(45)	☆10	暗灰褐色	鉄製品		
2号溝	1井→○/2壙	直線	箱堀	幅58	35	暗灰褐色(含SR)	甕・スラグ		
3号溝	2井・3壙・6溝→○	直線	箱薬研	幅81	60	暗灰褐色(含CR-SR)	肥前磁器/古瀬戸播鉢/志戸呂建水/かわらけ/キセル/刀子/砥石/板碑	17c~	
4号溝	4壙→○ 5壙か	直線	箱堀?	☆(136)	☆44	不明	瀬美・常滑播鉢/志戸呂蓋/德利/灯明皿/石臼	17c~	
5号溝	8壙か	直線	ゆるやか	幅40	14	不明	なし		
6号溝	○→3溝/2溝	直線	箱堀	幅☆(67)	☆32	暗灰褐色	素焼播鉢/土鍋/かわらけ/ほうろく/茶臼		
1号井戸	○→2溝/2壙	円形	直上	90	174	暗灰褐色(含CR-SR)	種子		
2号井戸	○→3溝	不整円形	直上	114	150	暗灰褐色灰色味(含CR-SR)	なし		
3号井戸	○→3溝	不整円形	ロート形	130	146	黒色	青磁碗		
1号土壙	なし	隅丸長方形	ゆるやか	(170)×106	14	暗灰褐色	歯		墓壙か
2号土壙	○→2溝/1井	不整形	ほぼ直上	150×(72)	☆30	暗灰褐色(黒味)	常滑甕		東西別か
3号土壙	○→3溝→3b壙	楕円形	ゆるやか	(154)×162	☆10	暗灰褐色(黒味)			
3B号土壙	3溝→○	長方形	ゆるやか	(116)×100	☆26	暗灰褐色(T,LR)	口禿碗/伊万里碗(3溝?) /焙烙	17c後~	
4号土壙	○→4溝	楕円形	ゆるやか	(184)×130	110	暗灰褐色灰色味	縁釉皿/かわらけ/素焼播鉢/石臼/漆被膜/銅製品(猿手)		
5号土壙	○→4溝	隅丸長方形	ゆるやか	(64)×97	☆6	暗灰褐色	焼骨・炭化物		墓壙か
6号土壙	4溝	長方形か	ゆるやか	(220)×48	16	暗灰褐色(含CR-SR)	古瀬戸大皿? /かわらけ		
7号土壙	6溝	隅丸長方形	ゆるやか	(114)×64	20	不明	銅製鈴・白磁		墓壙か
8号土壙	なし	長方形	ゆるやか	(150)×92	20	暗灰褐色	なし		
1号ピット	なし	円形	ほぼ直上	径30	15	暗灰褐色	礫		根石か
2号ピット	4溝	円形	直上	35	35	暗灰褐色	素焼播鉢		根石か
3号ピット	なし	円形	直上			暗灰褐色	石臼下臼		
4号ピット	なし	円形	直上			暗灰褐色	素焼香炉		

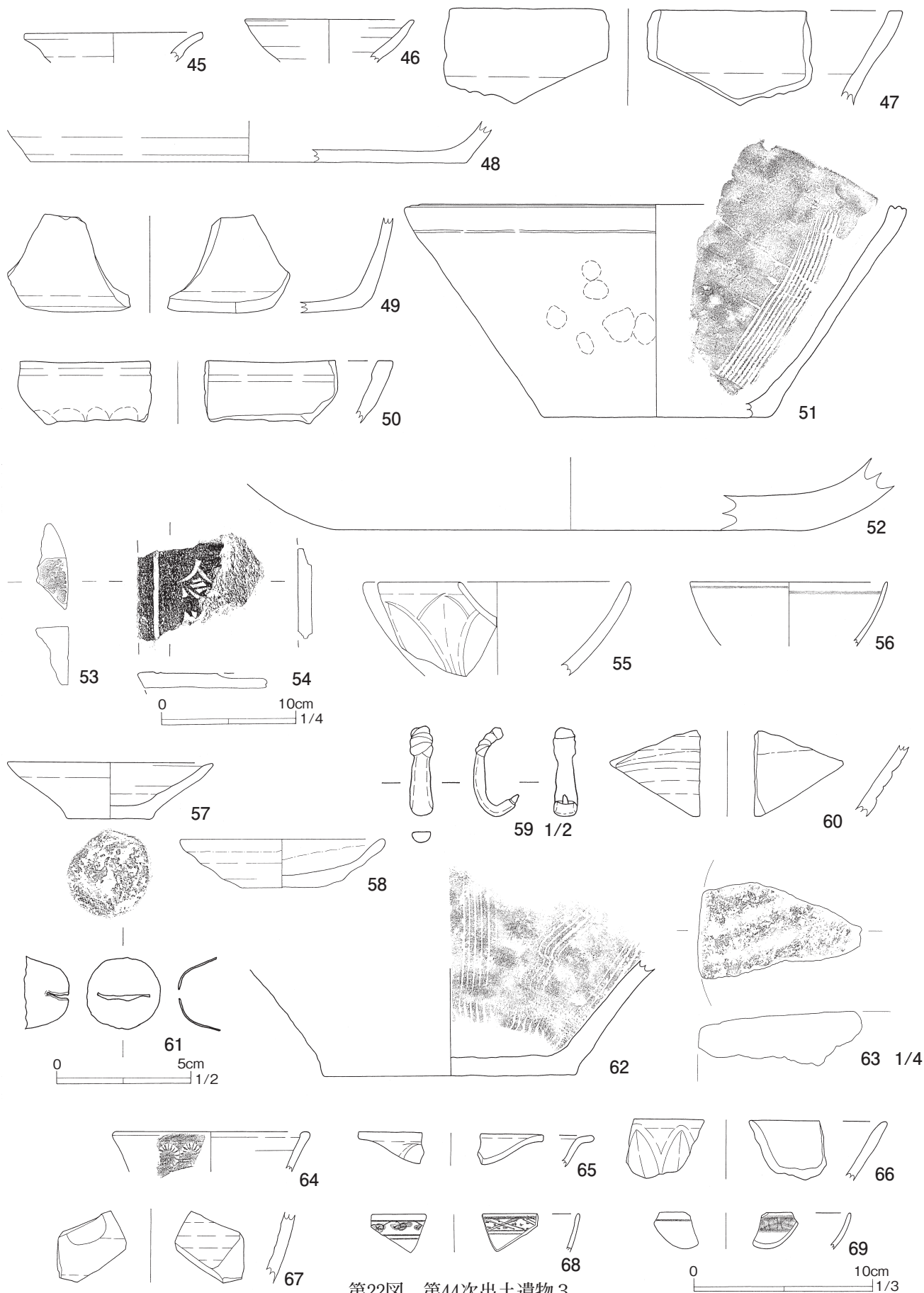
第6表 第44次遺構一覧表



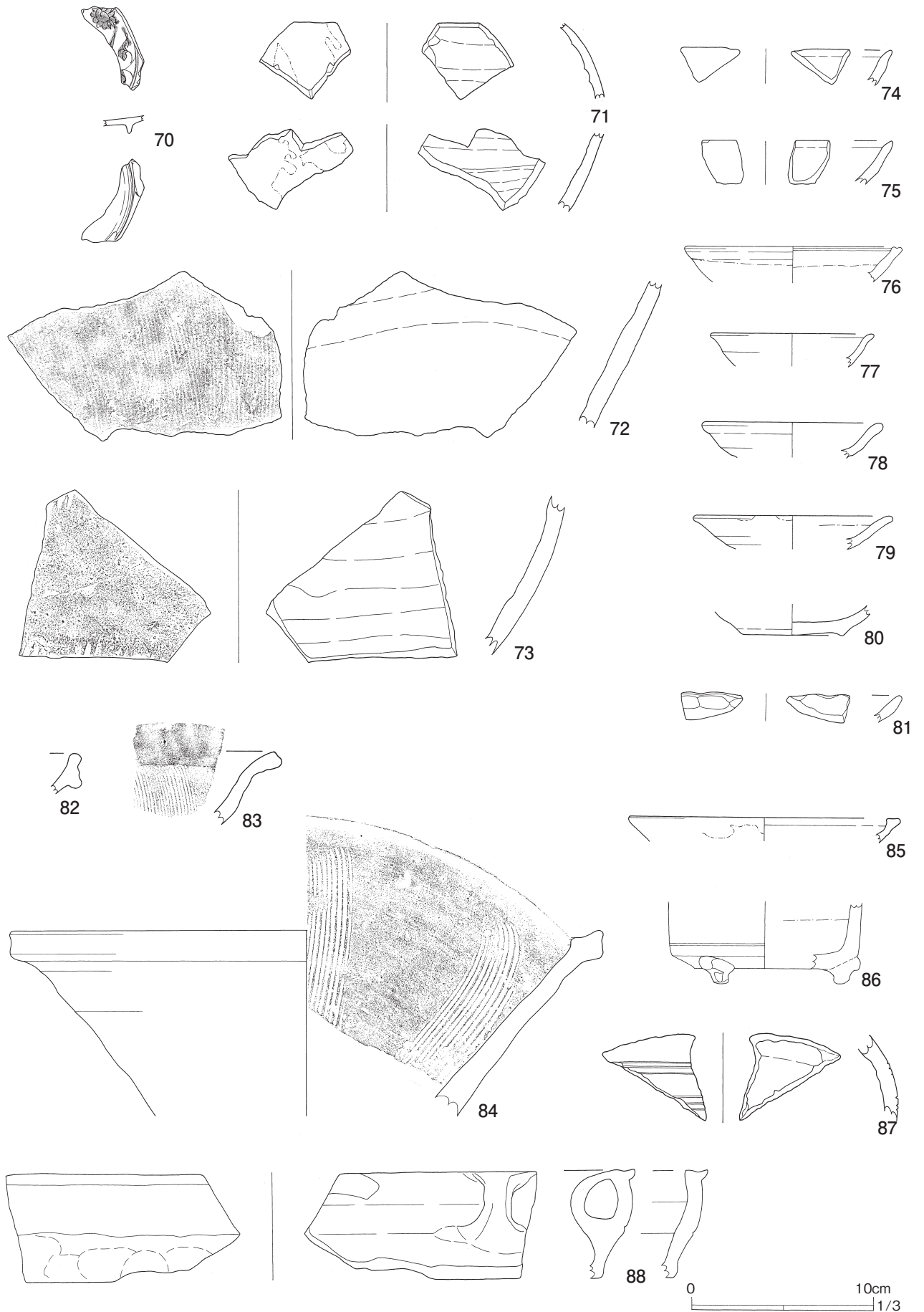
第20図 第44次出土遺物 1



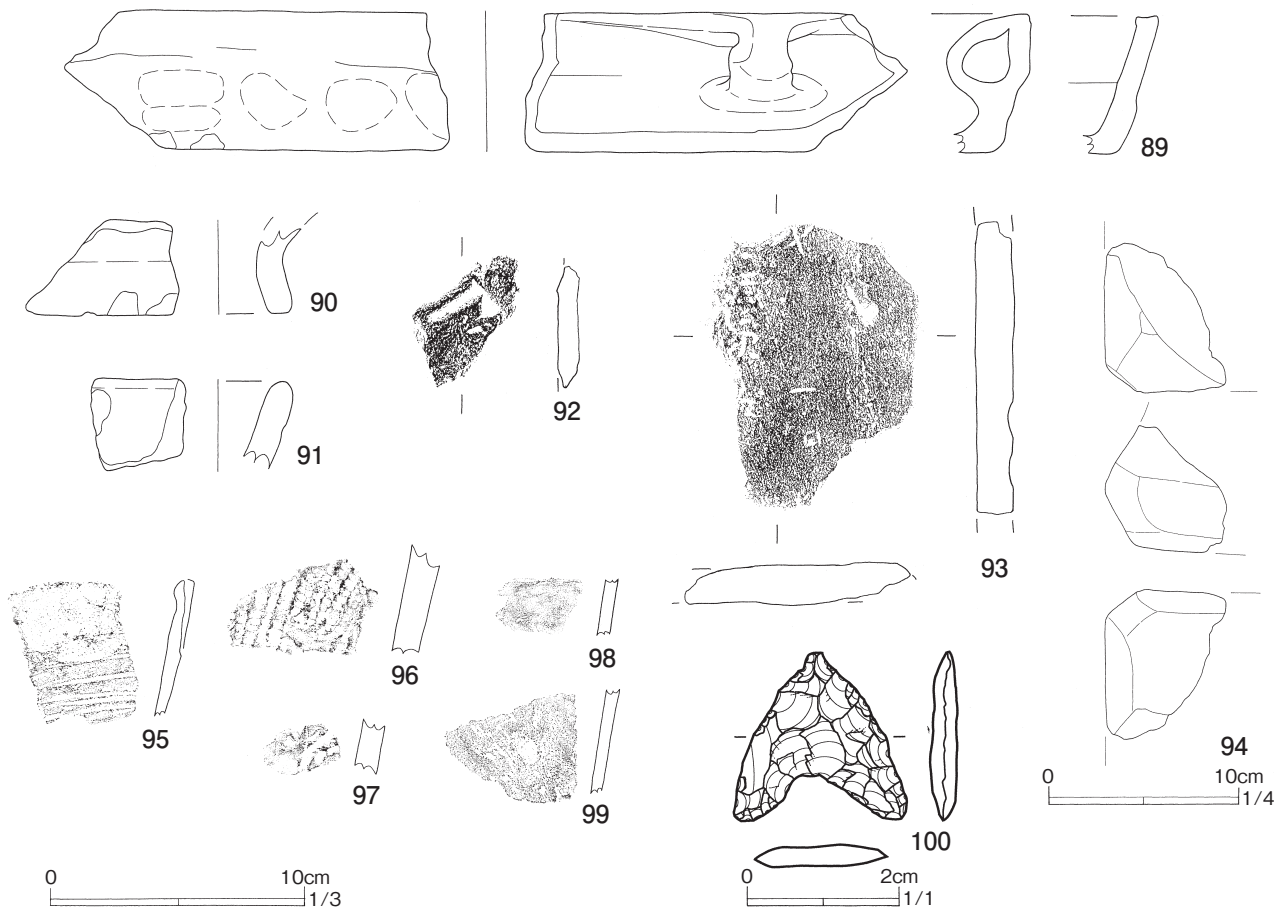
第21図 第44次出土遺物 2



第22図 第44次出土遺物 3



第23図 第44次出土遺物 4



第24図 第44次出土遺物5

()は残存値、*は不確定な推定復元値

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式	年代	遺物 ID	備考
1	天目(白天目)	瀬戸美濃	3溝	*12.0	*5.0	7.0	登2・3		天001	
2	天目	瀬戸美濃	3溝(No13)	*12.0	—	—	古後Ⅳ(古)		天002	
3	天目	瀬戸美濃	3溝(No37)	—	4.8	—	登2	17c 前~中	町天061	
4	鉄絵皿	瀬戸美濃	3溝(No30)	—	—	—	登1		皿006	
5	播鉢	瀬戸美濃	3溝(No25)	—	—	—	古後Ⅳ(新)		町鉢176	
6	折縁深皿	瀬戸美濃	3溝(No35・36)、私武29下層 No162・170・173	*	31.0	—	古後Ⅲ		町皿222	
7	徳利型壺	瀬戸美濃	3溝(No32)	—	—	—	古中Ⅰ・Ⅱ		袋006	
8	建水	志戸呂	3溝(No14・20・21・39)	—	*14.0	—		16c 末~17c	袋001	
9	梅瓶	瀬戸美濃	3溝(No4・31)、4溝(No3)	—	—	—	古中		袋007	
10	かわらけ	在地	3溝(No38)	*9.0	*3.2	3.0			K004	
11	かわらけ	在地	3溝(No47)	*11.0	—	—			K007	
12	片口鉢	在地	3溝(No26)	*30.0	—	—		13c 後	鉢014	
13	片口鉢	在地	3溝(No46)	—	—	—		13c 後	鉢015	
14	播鉢	在地	3溝(No29)	—	—	—			鉢016	
15-1	煙管(雁首)	銅	3溝(No22)	7.0	1.7	2.9				
15-2	煙管(吸口)	銅	3溝(No22)	6.7	1.1	—				
16	刀子	鉄	3溝(No15)	10.9	1.0	0.4				
17	砥石	石(泥岩)	3溝(No18)	9.0	3.6	2.7			石008	
18	板碑	石(緑泥石片岩)	3溝	5.4	5.5	1.1				
19	青磁碗	龍泉窯系中国	4溝	—	—	—	Ⅲ	13c	青001	
20	白磁皿	中国	4溝(No25)	*12.0	—	—	C-1	16c	白002	
21	片口鉢	常滑	4溝(No26)	—	—	—	8	1350~1400	鉢007	
22	甕	常滑	4溝(No31)	—	—	—			袋003	
23	折縁深皿	瀬戸美濃	4溝(No44)	*16.0	—	—	古後Ⅲ		町皿221	
24	播鉢	瀬戸美濃	4溝(No32)	—	—	—	大2~4		鉢002	
25	蓋	志戸呂	4溝(No34)	—	—	—		17c	他001	
26	徳利	志戸呂	4溝	*7.0	—	—		17c	袋002	
27	かわらけ	在地	4溝(No20)	*11.4	*7.0	2.6			K006	
28	かわらけ	在地	4溝(No17)	*11.0	*4.5	3.1			K009	
29	かわらけ	在地	4溝(No6・7)	*11.0	*4.8	2.4			K010	
30	かわらけ	在地	4溝(No28)	*11.0	*5.2	2.7			K011	

第7表 第44次遺物一覧表1

()は残存値、*は不確定な推定復元値

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式	年代	遺物 ID	備考
31	ほうろく	在地	4溝(No24)	—	—	5.8			H002	
32	搦鉢	在地	4溝4壙(No5)	—	—	—			鉢010	
33	五輪塔(火輪)	石(角閃石安山岩)	4溝(No36)	—	—	(4.6)			石002	
34	五輪塔(地輪)	石(角閃石安山岩)	4溝(No19)	(13.5)	(7.5)	(3.9)			石003	
35	茶臼(下臼)	石(角閃石安山岩)	4溝(No9)	—	(5.5)	(4.4)			石006	
36	搦鉢	瀬戸美濃	4溝4壙合流(No9)	*30.0	—	—	登1		鉢001	
37	かわらけ	在地	4溝4壙合流(No13)	10.4	5.3	2.8-3.0			K001	
38	かわらけ	在地	4溝4壙合流、4壙	6.5	3.8	2.2			K002	
39	かわらけ	在地	4溝4壙合流(No3)	*11.0	*6.5	2.6			K008	
40	ほうろく	在地	4溝4壙合流(No11)	—	—	5.9			H001	
41	搦鉢	在地	4溝(No1・2)、4壙(No2・61)他	*28.0	—	—			鉢008	
42	搦鉢	在地	4壙、4溝4壙合流(No14)	—	—	—			鉢011	
43	砥石	石(泥岩)	4溝4壙合流(No4)	8.8	6.0	3.4			石007	
44	板碑	石(緑泥石片岩)	4溝(No15)	14.1	10.9	2.1				
45	椀	瀬戸美濃	6溝	*10.0	—	—	大2カ		皿002	
46	かわらけ	在地	6溝(No1)	*9.5	—	—			K005	
47	土鍋カ	在地	6溝(No7)	—	—	—			D003	
48	土鍋	在地	6溝	—	*24.0	—			D002	
49	土鍋	在地	6溝(No13)	—	—	—			D001	
50	ほうろくカ	在地	6溝(No10)	—	—	—			H005	
51	搦鉢	在地	6溝(No3・17・18)	*28.0	*12.5	11.8			鉢012	
52	風炉	在地	6溝(No11)	—	—	—			素他002	
53	茶臼(上臼)	石(普通輝石安山岩)	6溝	—	(2.4)	(4.4)			石005	
54	板碑	石(緑泥石片岩)	6溝(No15)	8.4	9.8	1.1				
55	青磁碗	龍泉窯系中国	3井	*15.0	—	—	I-5		町青096	
56	碗	肥前(伊万里)	3壙(No1)	*11.0	—	—		17c 後半	伊001	
57	かわらけ	在地	4壙(No10)	11.4	4.8	3.2			K003	
58	縁釉小皿	瀬戸美濃	4壙(No1)	11.4	5.0	2.7	大1	15c 末~16c 初	町皿184	
59	猿手	銅	4壙(No4)	3.3	1.8	0.6			町金172	
60	直縁大皿	瀬戸美濃	6壙(No1)	—	—	—	古後		鉢006	又は折縁深皿
61	鈴	銅	7壙(No2)	2.7	—	—			町金039	
62	搦鉢	在地	2P、3溝(No45)	—	*14.0	—			鉢009	
63	石臼(下臼)	石(角閃石安山岩)	3P	—	(12.2)	(4.0)			石004	
64	香炉	在地	4P	*11.0	—	—			素他001	
65	青磁杯	龍泉窯系中国	一括	—	—	—	Ⅲ	13c 中~14c	青002	
66	青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	一括	—	—	—	I-5	13c	青003	
67	白磁四耳壺	中国	一括	—	—	—			白001	
68	染付碗	中国	2T	—	—	—	碗 E	16c 末~17c	染001	
69	染付皿	中国	3T	—	—	—	皿 E	16c 末~17c	染003	
70	染付皿	中国	一括	—	—	—	皿 E	16c 末~17c	染002	
71	褐釉壺	中国	一括	—	—	—			袋005	
72	甕	常滑	一括	—	—	—			袋004	
73	甕	常滑	1T	—	—	—			袋009	
74	平碗	瀬戸美濃	一括	—	—	—	古後Ⅲ		碗001	
75	平碗	瀬戸美濃	一括	—	—	—	古後Ⅲ		碗002	
76	卸皿	瀬戸美濃	No7	*12.0	—	—	古後Ⅰ		町皿224	
77	端反皿	瀬戸美濃	東カベ37層	*9.0	—	—	大1		皿001	
78	志野小皿	瀬戸美濃	一括	*10.0	—	—	登1カ		皿003	
79	縁釉小皿	瀬戸美濃	一括	*11.0	—	—	古後Ⅳ(古)		皿004	
80	端反又は丸皿	瀬戸美濃	3T	—	5.5	—	大1・2		皿005	
81	襷皿	瀬戸美濃	一括	—	—	—	大3		皿007	
82	搦鉢	瀬戸美濃	一括	—	—	—	大3後		鉢003	
83	搦鉢	瀬戸美濃	一括	—	—	—	大4後		鉢004	
84	搦鉢	瀬戸美濃	西側拡張	*32.8	—	—	登2、Ⅱ		町鉢179	
85	搦鉢形小鉢	瀬戸美濃	一括	*15.0	—	—	古後Ⅱ		鉢005	
86	筒形香炉	瀬戸美濃	一括	—	*7.6	—	古後		町香015	
87	四耳壺	瀬戸美濃	一括	—	—	—	古中		袋008	
88	ほうろく	在地	一括	—	—	5.9			H003	
89	ほうろく	在地	一括	—	—	5.4			H004	
90	火鉢	在地	1T	—	—	—			火鉢001	
91	片口鉢	在地	一括	—	—	—		13c 後	鉢013	
92	板碑	石(緑泥石片岩)	No1	7.6	7.1	1.1				
93	板碑	石(緑泥石片岩)	一括	15.8	12.5	2.0				
94	五輪塔(火輪)	石(普通輝石安山岩)	1T	(7.8)	(6.4)	(6.5)			石001	
95	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
96	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
97	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
98	縄文土器	土器	2T	—	—	—				
99	縄文土器	土器	2T	—	—	—				
100	石鏃	石(チャート)	4溝	2.2	2.3	0.3				

第8表 第44次遺物一覧表2

第V章 第45次調査

第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成6年1月4日、開発者星野明義氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋62-2(仮換地18街区11画地の一部)における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

1月7日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、島村範久が担当した。

調査協力員

五十嵐喜一郎 五十嵐米太郎 小森谷アサ
岡田金之助 佐藤ヨシ 関口千代 福島清作
山口保夫 若林美知子

文化庁通知 教文第1-150号

平成6年8月24日

調査期間 平成6年8月17日～10月7日

調査面積 55m²

(調査の経過)

先行して建設予定地南側の庭予定地に3箇所トレンチを設定し掘り下げた際、溝を確認した。調査区は重機により遺構確認面(ローム層)まで表土を削除した。湧水が顕著なため西及び北側に側溝を設け排水した。遺構を調査し、遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水系を基準としてメジャーにより実測した。最後に縄文遺構検出のためを精査したが確認できなかった。

基準杭の標高は隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

いずれも未報告であるが、西接するKB9区・北接する第46次(建物跡1棟)・東接する第47次があ

る。南側トレンチで確認した溝がKB9区及び47次(馬の骨4頭分出土)で延伸している。

第2節 遺構と遺物

【溝】 13条検出されており、東西方向(1~10号)、南北方向(12・13号)に分かれる。主な溝の新旧は旧:8→2→1溝:新である。

1号溝 幅220cmと規模が大きく、16世紀代に遡る可能性がある。

瀬戸美濃産の丸皿(1)が出土した。

10号溝 幅40cmの小規模なものである。

○出土遺物 比較的多く、かわらけ(3~7)や焙烙(8~10)、馬の歯がある。

【土壌】 8基検出されているが不整形のものが多い。3号土壌は平面円形で掘り込みがしっかりしており断面はほぼ直上する。10号溝に切られており、焙烙・素焼播鉢の破片が出土したのみである。

【ピット】 柱穴と思われるが、整然とした配置を確認できない。そのなかでは4・9・35Pは良好なもので、深さ50cm(4・35p)、35cm(9p)で、4・9pから礫が出土している。

遺構外出土遺物

陶磁器類は中国産では青磁碗(24・25)や褐釉壺(26・27)がある。

瀬戸美濃産では志野丸皿(31・32)や鉄絵皿(33)の17世紀前後のものがある。

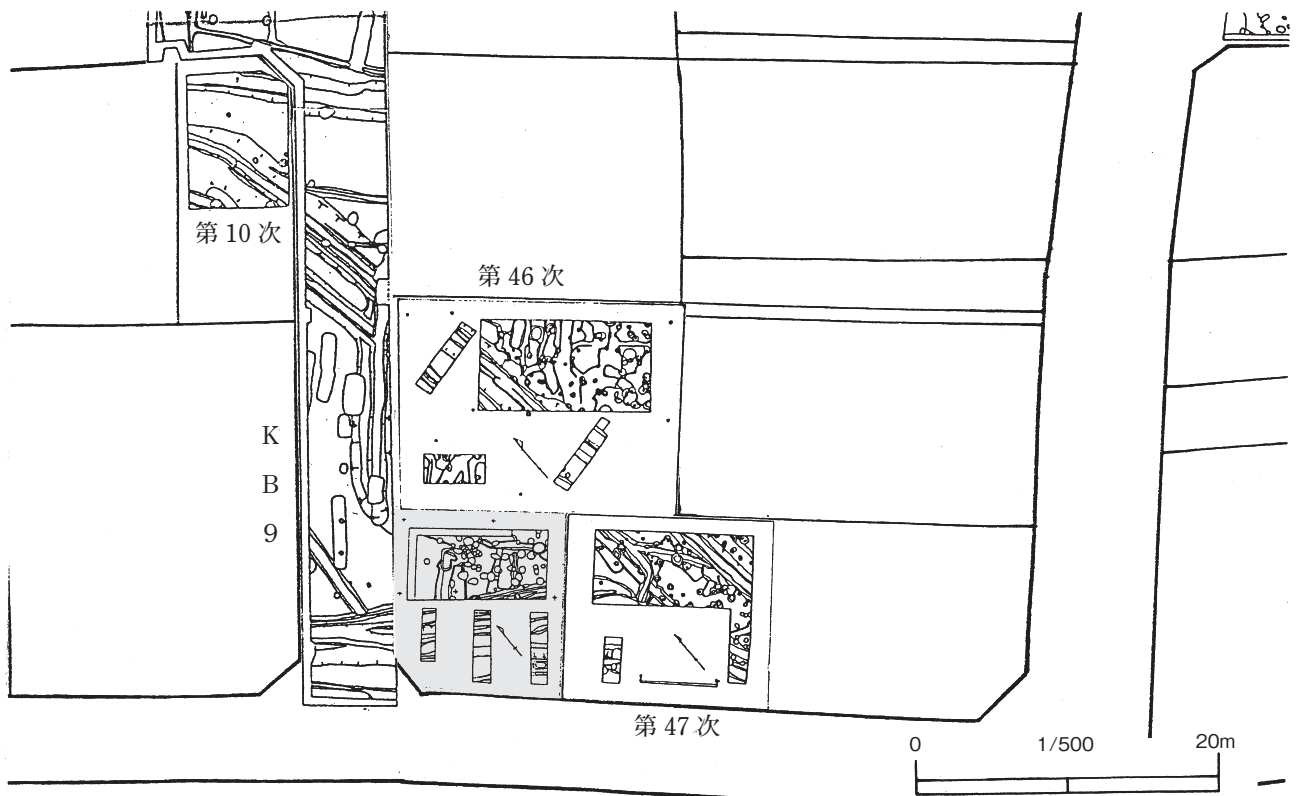
志戸呂(39)備前(40)丹波(41)産の播鉢・甕がある。

18世紀以降のものでは肥前産磁器の白磁碗(42・43)や染付碗(45~47)がある。

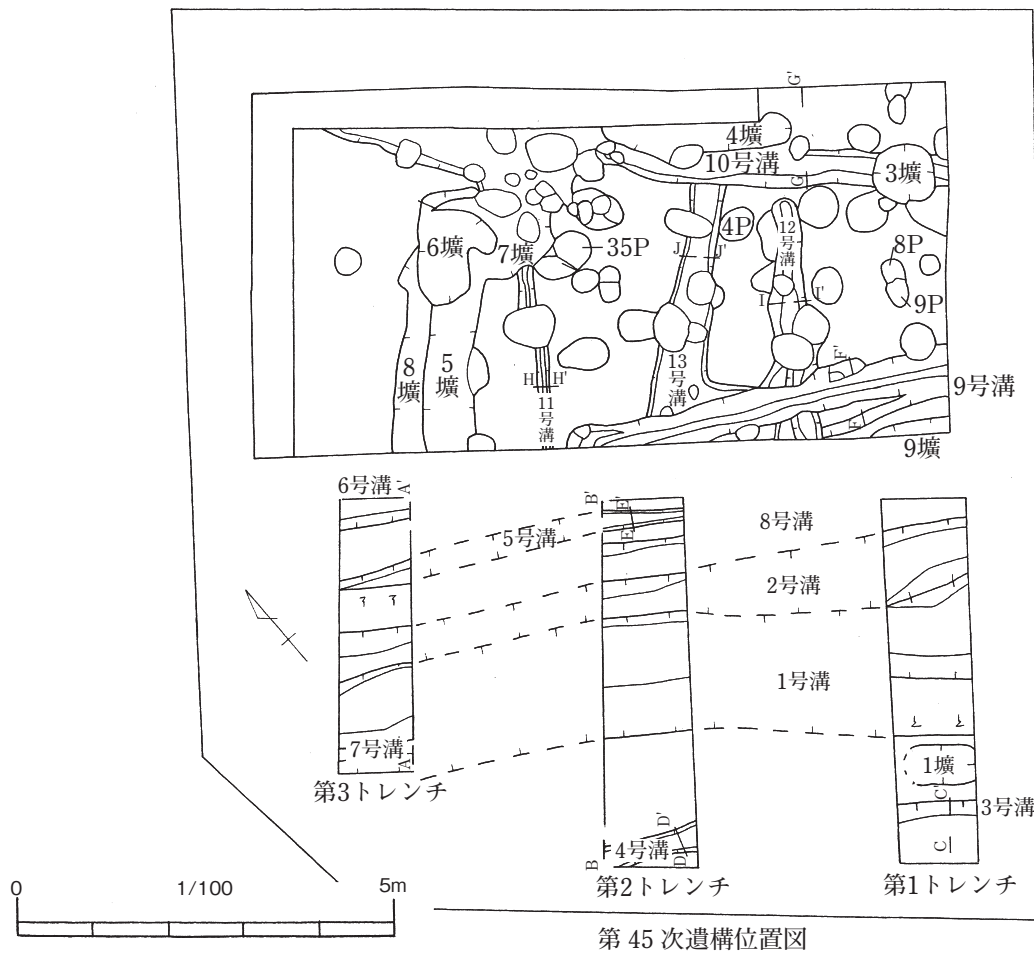
在地産ではかわらけ(49~57)が多数出土しているが、多くは17世紀代あるいはそれ以降と思われる。破片ではあるが土鍋(61)もある。

金属製品では、銭貨で景德元寶(63)や小札(64)の細片がある。

縄文時代のものでは土器片(66・67)や有茎の石鏃(68)が出土している。

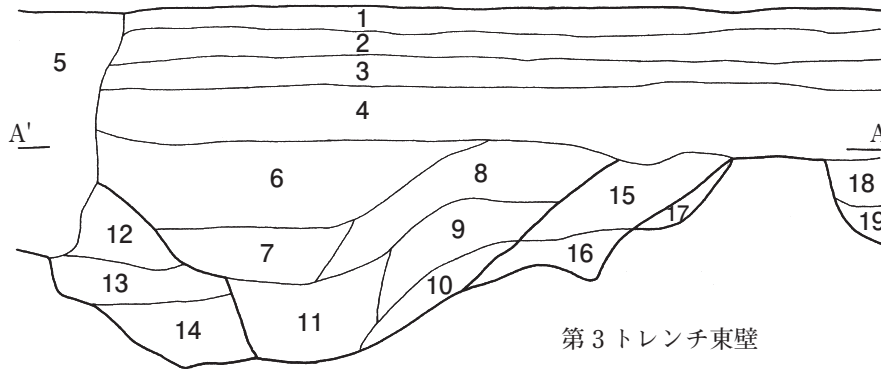
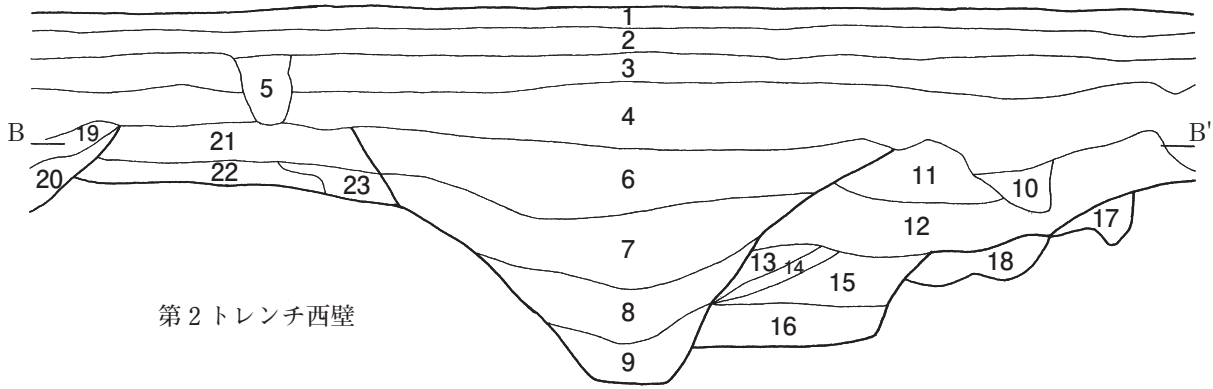


第45次周辺の調査

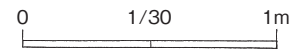


第45次遺構位置図

第25図 第45次周辺の調査と遺構位置図



L=11.70m



土層説明凡例

- テフラ=T
- ローム粒子=LR
- 炭化物粒子=CR
- 焼土粒子=SR
- ロームブロック=LB
- 炭化物=C
- 酸化鉄=FE

第2トレンチ西壁

- 色調 / 含有物
- 1 盛土
 - 2 旧耕作土
 - 3 暗灰褐色 / T·LR·SR·CR·FE
 - 4 暗灰褐色 (やや暗) / LR·SR·CR
 - 5 暗灰褐色 / T·LR·SR·CR
 - 6 暗灰褐色 (やや明) / LR·FE → 1号溝
 - 7 暗灰褐色 (やや暗) / LR·FE → 1号溝
 - 8 暗灰褐色 / FE → 1号溝
 - 9 暗灰褐色 (暗) / LB·FE → 1号溝
 - 10 暗灰褐色 / FE·白粘 → 2号溝
 - 11 暗灰褐色 / 白粘 B → 2号溝
 - 12 暗灰褐色 / 白粘 B·LR·FE → 2号溝
 - 13 暗灰褐色 (灰味) / FE → 2号溝
 - 14 暗灰褐色 / 白粘·LR·FE → 2号溝
 - 15 暗灰褐色 (暗) / 白粘 R·FE → 2号溝
 - 16 暗灰褐色 (暗) / LR·C·FE → 2号溝
 - 17 暗灰褐色 / LR·LB → 5号溝
 - 18 暗灰褐色 (暗) / LR·LB·FE → 8号溝
 - 19 暗灰褐色 / 白粘 B → 4号溝
 - 20 暗灰褐色 / CR·FE
 - 21 暗灰褐色 / 黒色 B·LR
 - 22 黒色土 / LR·LB
 - 23 暗灰褐色 / 黒色 B·FE

第3トレンチ東壁

- 1 盛土
- 2 旧耕作土
- 3 暗灰褐色 / T·LR·CR·SR
- 4 暗灰褐色 (明) / LR·CR·SR
- 5 攪乱
- 6 暗灰褐色 (明) / LR·FE → 1号溝
- 7 暗灰褐色 (暗) / LR·FE → 1号溝
- 8 暗灰褐色 / 灰色粘土粒子·FE → 1号溝
- 9 暗灰褐色 / FE → 1号溝
- 10 暗灰褐色 / LR·FE 粘質層 → 1号溝
- 11 暗灰褐色 (暗) / LR·FE → 1号溝
- 12 暗灰褐色 / LR·FE → 7号溝
- 13 暗灰褐色 (灰味) / LR·FE → 7号溝
- 14 暗灰褐色 / LR·LB·FE 粘質層 → 7号溝
- 15 灰色粘土 / FE → 2号溝
- 16 暗灰褐色 (暗) / LB·FE → 2号溝
- 17 暗灰褐色 / 灰色粘土 B·LB → 5号溝
- 18 暗灰褐色 / LB → 6号溝
- 19 暗灰褐色 (暗) / LB·LR → 6号溝

第26図 第45次遺構1 (溝土層)

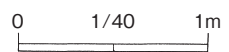
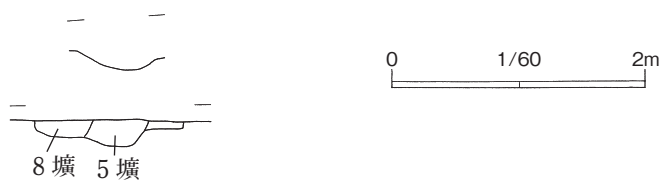
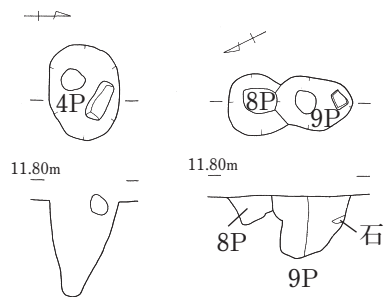
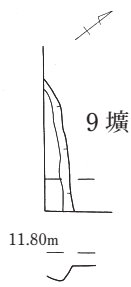
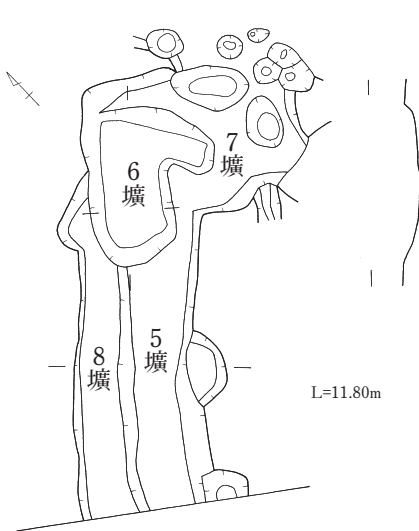
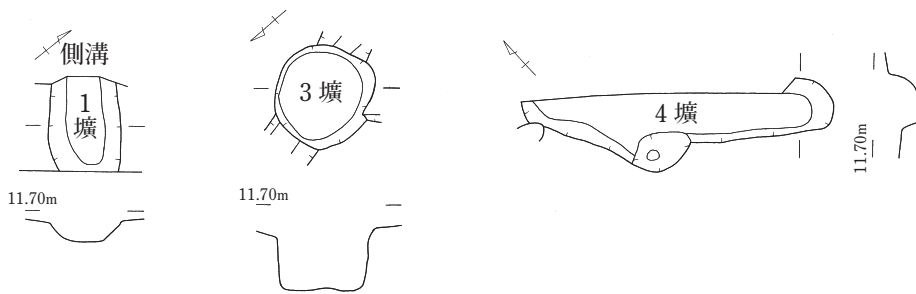
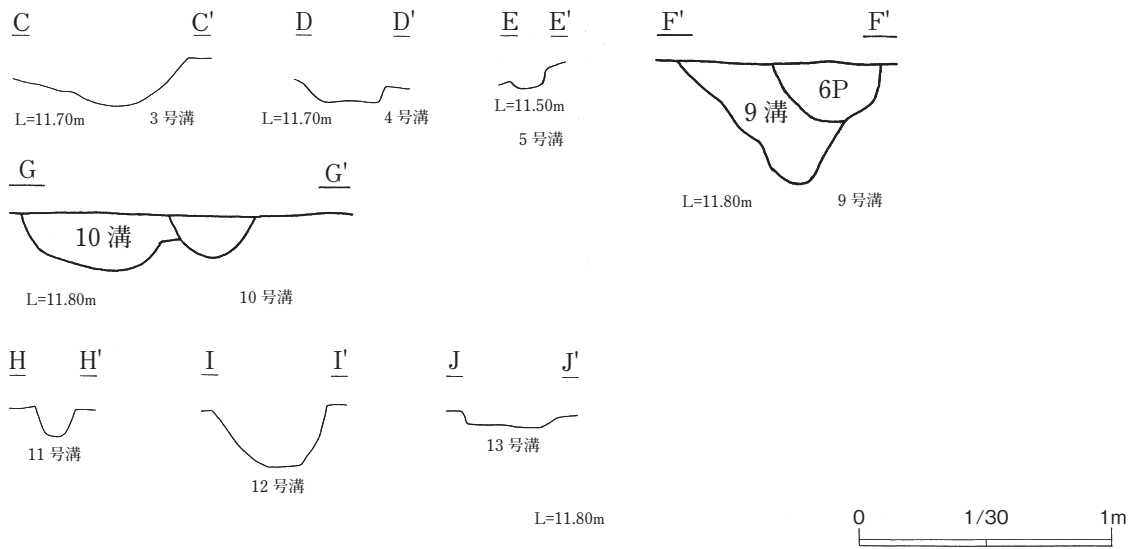
()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土(T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、FE=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	2溝→○	直線	箱菜研	幅 ☆220	☆92	暗灰褐色	常滑(甕・片口鉢)/素焼(鉢・甕)	16c~	
2号溝	8溝→○→1溝	ほぼ直線	箱堀?	幅 ☆(153)	☆80	暗灰褐色	なし		
3号溝	なし	直線	ゆるやか	幅 94	☆36	暗灰褐色	なし		
4号溝	なし	直線	ゆるやか	幅 30	6	暗灰褐色	なし		
5号溝	○→2溝	直線	ほぼ直上	幅 ☆(40)	12	暗灰褐色	なし		
6号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅 ☆(20)	☆36	暗灰褐色	なし		
7号溝	○→1溝	直線	ゆるやか	幅 ☆(80)	☆76	暗灰褐色	石臼片		
8号溝	○→2溝	直線	ゆるやか	幅 ☆(56)	☆20	暗灰褐色	なし		
9号溝	12・13溝	直線	毛抜き堀 ・箱菜研	幅 ☆40	☆50	暗灰褐色	かわらけ		
10号溝	3堀→○→4堀	ほぼ直線	毛抜き堀	幅 ☆40	24	暗灰褐色	常滑甕・片口鉢/かわらけ/焙烙 /素焼播鉢/釘/馬の歯	17c~	
11号溝	なし	直線	毛抜き堀	幅 15	13	暗灰褐色	青磁椀/焙烙/かわらけ		
12号溝	なし	直線	毛抜き堀	幅 44	24	暗灰褐色	素焼播鉢		
13号溝	4堀→○	直線	ゆるやか	幅 38	4	暗灰褐色	なし		
1号土壇	なし	隅丸長方形	ゆるやか	(80)×56	16	不明	なし		
2号土壇	欠番								
3号土壇	○→10溝	円形	直上	82	☆48	暗灰褐色縮 まり悪し	素焼播鉢		
4号土壇	10溝→○	隅丸長方形	ゆるやか	248×(46)	☆24	暗灰褐色	志戸呂播鉢/かわらけ/焙烙/在地火鉢	17c~	
5号土壇	32p→○→8・6堀	長方形か	ほぼ直上	(232)×(60)	☆30	暗灰褐色	瀬美皿/焙烙/素焼播鉢/石		
6号土壇	5堀→6堀/7堀	長方形	ゆるやか	126×66	☆16	暗灰褐色	焙烙/土鍋		
7号土壇	○→5堀・56p/6堀	不正円形	ゆるやか	(110)×116	☆18	暗灰褐色	かわらけ		
8号土壇	5堀→○/6堀	長方形か	毛抜き堀	(220)×(60)	☆26	暗灰褐色	かわらけ/焙烙		
9号土壇	なし	不明	ほぼ直上	(104)×(22)	12	不明	なし		

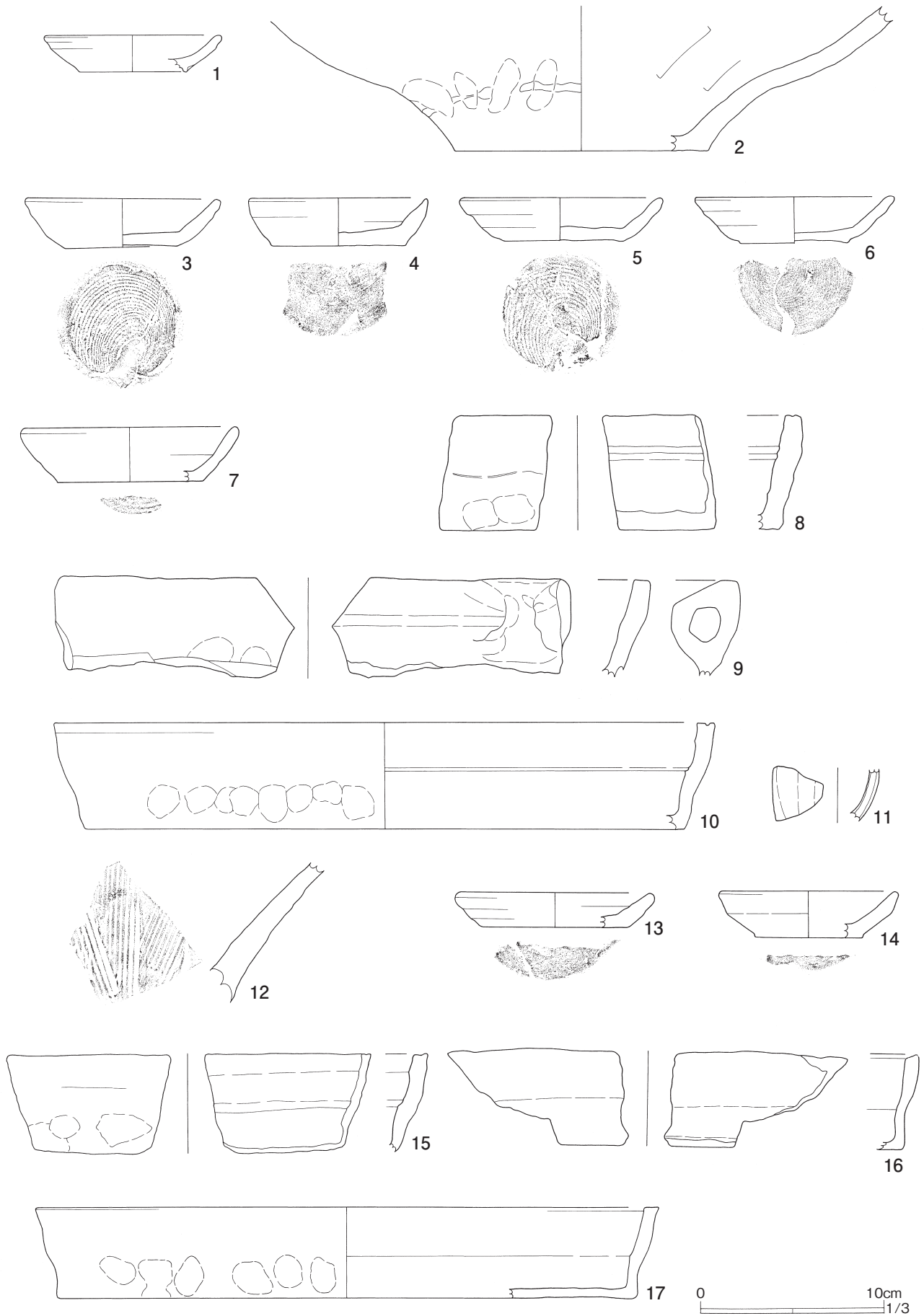
第9表 第45次遺構一覧表



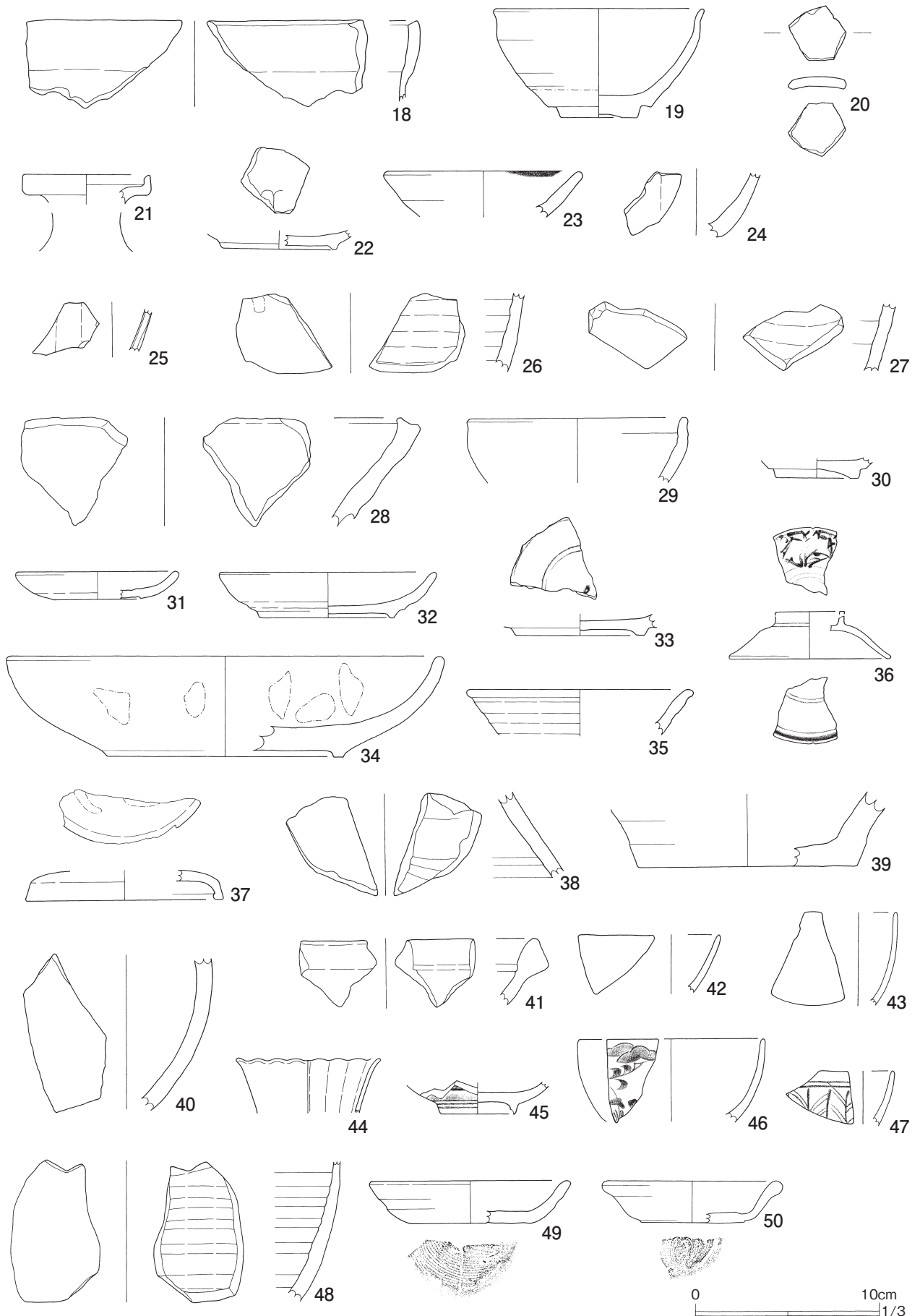
調査風景



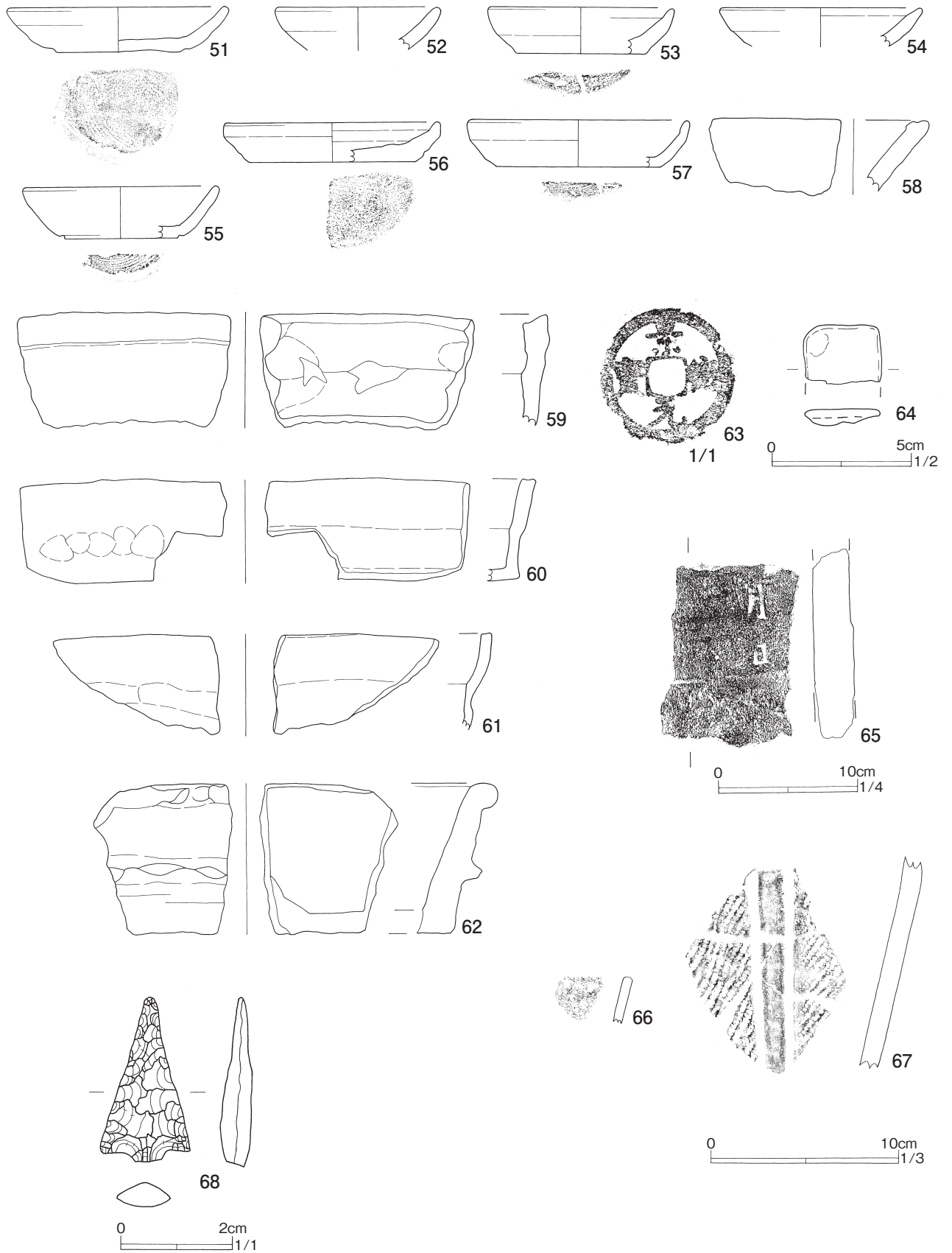
第27図 第45次遺構2 (溝・井戸・土坑)



第28図 第45次出土遺物 1



第29图 第45次出土遺物 2



第30図 第45次出土遺物 3

()は残存値、*は不確定な推定復元値

図No	遺物名	産地	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式	年代	遺物 ID	備考
1	丸皿	瀬戸美濃	1溝(1T No12)、2P	*9.8	*6.0	2.0	大3		皿003	
2	甕	常滑	10溝(No30)、私武47 1T No 32、私武47	—	*14.0	—		16c 以前	袋003	
3	かわらけ	在地	10溝(No29)、1P	10.8	6.2	2.7		17c	K001	
4	かわらけ	在地	10溝(No9)	*10.0	*7.4	2.6		17c	K003	
5	かわらけ	在地	10溝(No1)、一括	11.3	6.7	2.4		17c	K008	
6	かわらけ	在地	10溝(No25・27 2層)、一括	*11.0	6.0	2.5		17c	K009	
7	かわらけ	在地	10溝(No10)	*12.0	*8.0	3.0			K014	
8	ほうろく	在地	10溝(No14)	—	—	6.3			H004	
9	ほうろく	在地	10溝(No15)、12溝	—	—	—			H006	
10	ほうろく	在地	10溝(No8・19)、一括	*36.7	*33.4	5.9			H003	
11	青磁碗	中国	11溝	—	—	—	小野 B0類、Ⅲ	13c~14c 中	青002	龍泉窯?
12	播鉢	志戸呂	4壙(No9)	—	—	—	大4相当		鉢002	
13	かわらけ	在地	4壙(No14・15)	*11.0	*8.0	1.9		17c	K005	
14	かわらけ	在地	4壙(No14)	*10.0	*6.0	2.6		16末~17c	K007	
15	ほうろく	在地	4壙(No10)	—	—	—			H005	
16	ほうろく	在地	5壙(No3・7)	—	—	5.3			H008	
17	ほうろく	在地	6壙(No1・2・4・5・11)、2層	*34.6	*32.2	5.0			H002	
18	土鍋	在地	6壙(No12)	—	—	—			D001	
19	天目	瀬戸美濃	3P、2層No9	*11.6	*4.2	6.0	大3後		天001	
20	つぶて石(天目)	瀬戸美濃	15P	3.0	—	0.5	大		つぶて石001	
21	徳利	瀬戸美濃	19P	*7.0	—	—	古後Ⅳ(新)カ		袋001	
22	端反又は丸皿	瀬戸美濃	25P	—	*6.4	—	大1・2		皿004	
23	かわらけ	在地	27P	*11.0	—	—			K015	
24	青磁碗	中国	1T(No1)	—	—	—	I — 5	13c~14c 中	青001	
25	青磁碗	中国	2層	—	—	—	小野 B0類、Ⅲ	13c~14c 中	青003	龍泉窯?
26	褐釉壺	中国	2T 2層	—	—	—			袋005	
27	褐釉壺	中国	2T 2層	—	—	—			袋006	
28	片口鉢	常滑	1T(No9)	—	—	—	11	1500~1550	鉢003	
29	天目	瀬戸美濃	一括	*11.2	—	—	大3カ		天002	
30	天目	瀬戸美濃	5T(No5)	—	*4.6	—	大3		天003	
31	志野丸皿	瀬戸美濃	2層(No46、一括)	*9.0	*4.8	1.5	大4後		皿001	
32	志野丸皿	瀬戸美濃	2層No53	*12.0	*7.4	2.5	大4後		皿002	
33	鉄絵皿	瀬戸美濃	1T(No1)	—	*7.2	—	登1		皿005	
34	大皿	瀬戸美濃	5T(No7)	*24.2	*13.0	5.5	大4		鉢001	
35	反り皿	瀬戸美濃	一括	*12.4	—	—		17c 後	皿006	
36	蓋	瀬戸美濃	一括	*9.0	—	—			他002	
37	蓋	瀬戸美濃	4T(No5)、2層	*11.0	—	—		17c	他001	
38	徳利	瀬戸美濃	2層No18	—	—	—	大		袋002	
39	播鉢	志戸呂	2層No20	—	*12.0	—	大4相当		鉢004	
40	甕	備前	1T(No2)	—	—	—		17c 以前	袋004	
41	播鉢	丹波	2層No11	—	—	—		17c 末	鉢005	
42	白磁碗	肥前(磁器)	2T 2層	—	—	—		18c~	伊003	
43	白磁碗	肥前(磁器)	2T 1層	—	—	—		18c~	伊004	
44	白磁小杯	肥前(磁器)	2T 2層	*8.0	—	—		17c~	伊006	
45	染付碗	肥前(磁器)	2層No16	—	*4.0	—		18c~	伊001	
46	染付碗	肥前(磁器)	2T 2層	*10.4	—	—		18c~	伊002	
47	染付碗	肥前(磁器)	一括	—	—	—		18c~	伊005	
48	壺	肥前(磁器)	2T 1層	—	—	—		17c~	袋007	
49	かわらけ	在地	5T(No3・4)	*11.0	*6.8	2.4		17c	K002	
50	かわらけ	在地	4T(No2)	*10.0	*5.8	2.2		17c	K004	
51	かわらけ	在地	2層(No21・38)	*12.0	6.6	2.4		17c	K006	
52	かわらけ	在地	1T 2層	*9.0	—	—			K010	
53	かわらけ	在地	一括	*10.2	*7.0	2.5		17c~	K011	
54	かわらけ	在地	5T(No6)	*11.0	—	—			K012	
55	かわらけ	在地	一括	*10.6	*6.1	2.8		17c	K016	
56	かわらけ	在地	5T(No8)	*11.8	*9.0	2.1		17c~	K013	
57	かわらけ	在地	1T 2層	*12.0	*8.8	2.5		17c~	K017	
58	鉢	在地	一括	—	—	—			鉢006	
59	ほうろく	在地	4T(No3・一括)	—	—	—			H001	
60	ほうろく	在地	2層(No1・43、一括)	—	—	5.5			H007	
61	土鍋	在地	2層No3	—	—	—			D002	
62	火鉢	在地	一括	—	—	—			火鉢001	
63	銭貨(景德元宝)	銅	2層No40	—	—	—		北宋1004		
64	小札	鉄	一括	3.1	2.0	0.3				
65	板碑	石(緑泥石片岩)	2T(No1)	14.3	10.3	2.8				
66	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
67	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
68	石鏃	石(チャート)	一括	2.9	1.6	0.45				

第10表 第45次遺物一覧表

第VI章 まとめ

第1節 第14次調査

当調査区は、江戸時代初期の『武州騎西の絵図』に対比すると富塚久太夫屋敷南側周辺に相当し、遺構の時期は、溝及び2号井戸、2・11号土壌が騎西城存在時期と考えたい。出土遺物や覆土に含まれるテフラ（天明期のものとする）から1号井戸・3・6～9・14号土壌は騎西城廃城前の可能性を残す。

また、良好な遺物が出土した1号土壌は17～18世紀の所産と思われ当該期に施設が存在したものであろう。

第2節 第27次調査

当調査区は、『絵図』に対比すると長谷川長右衛門の屋敷周辺に相当し、騎西城に関連を期待できるものは4～6号土壌である。4号土壌は16世紀代まで遡るか。

5・6号土壌→4号土壌（小田氏？）→1号（江戸期？）

また、一括出土ではあるが、旧石器時代のナイフ形石器はIV層下部に相当するもので周辺の出土例と考え合わせると当台地が集落を営むのに良好な環境であったことを推察できる。



第31図 各調査区の武家屋敷跡内の推定位置

第3節 第44次調査

当調査区は、『絵図』に対比すると富塚久太夫屋敷北側周辺に相当する。古い順に記述すると、1・5・7号土壙では骨・歯や鈴が出土し墓壙と考えられ、KB2・41次と同様な墓域が展開していたとすれば『絵図』以前と思われる。次に6号溝は比較的古く7次の2溝につながると思われL字形に巡るものである。重複関係等から3基の井戸はその後の時期であろう。

最後は4・5、2・3号溝で、17C代廢城直前までの時期を想定しておきたい。

またピットが多く建物の存在が考えられ、井戸と同時期と考えておく。

第4節 第45次調査

当調査区は、『絵図』に対比すると若林兵庫屋敷南西周辺に相当する。1溝が騎西城の頃のもの（戦国～江戸時代）と思われ、若林屋敷の南限に位置するものであろう。

ほかに13c代の青磁類も認められるが17～18cの伊万里碗などの陶磁器・かわらけが多い。いずれも細片が多く遺構の性格を物語るものではない。

参考文献

- 大橋 康二 1984「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 小野 正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 小野 正敏 2000「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 『騎西町史』考古資料編1 2001 騎西町教育委員会
- 『騎西町史』考古資料編2 1999 騎西町教育委員会
- 『騎西町史』通史編 2005 騎西町教育委員会
- 『騎西城武家屋敷跡第7次発掘調査報告書』 騎西町遺跡調査会報告書第1集 1996 騎西町遺跡調査会
- 『騎西城武家屋敷跡妙光寺第1・2次発掘調査報告書』 騎西町遺跡調査会報告書第2集 1997 騎西町遺跡調査会
- 九州近世陶磁学会 2000「九州陶磁の編年」九州近世陶磁学会
- 九州近世陶磁学会 2001「国内出土の肥前陶磁」東日本の流通をさぐる 九州近世陶磁学会
- 小林 義典ほか 2002「小田原城三の丸 藩校集成館跡Ⅲ・Ⅳ地点」小田原市文化財調査報告書第100集
小田原市教育委員会
- 中野 晴久 1994「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集
- 中野 晴久 2005「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集
- 藤澤 良祐 1987「本業焼の研究（1）」研究紀要Ⅵ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 1988「本業焼の研究（2）」研究紀要Ⅶ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 1989「本業焼の研究（3）」研究紀要Ⅷ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 2002「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤 良祐 2008「中世瀬戸窯の編年」

圖 版



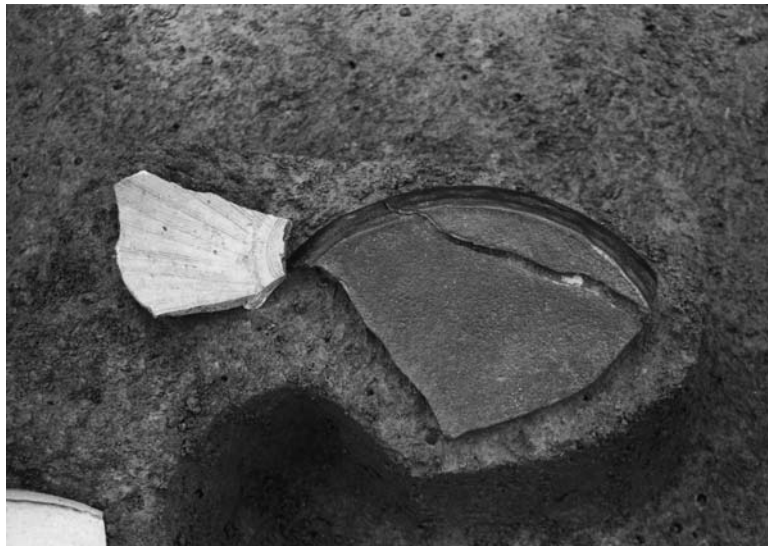
調査前風景



1号土壇 遺物出土



骨出土



播鉢・ほうろく出土



スクレイパー (No.100) 出土



2号井戸



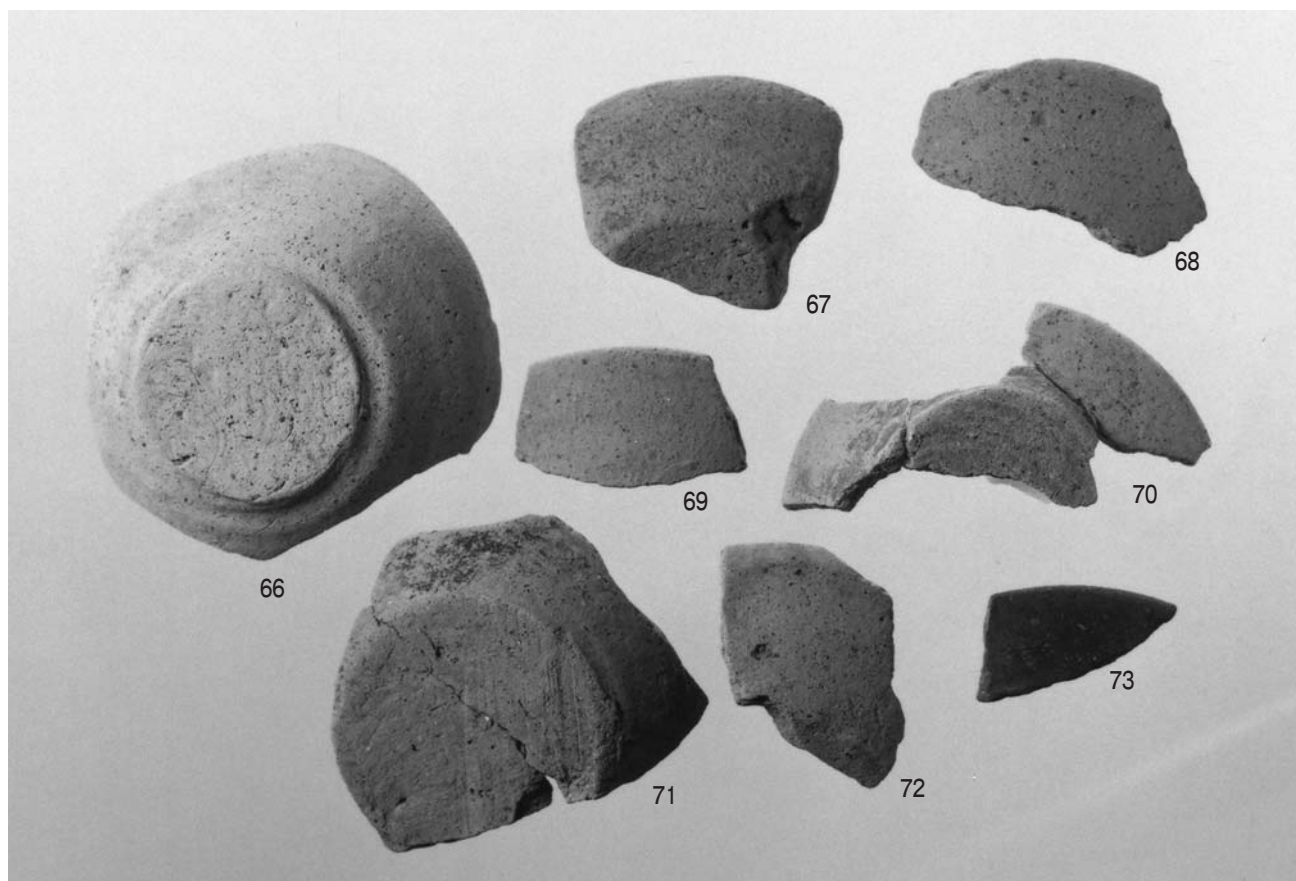
3号井戸



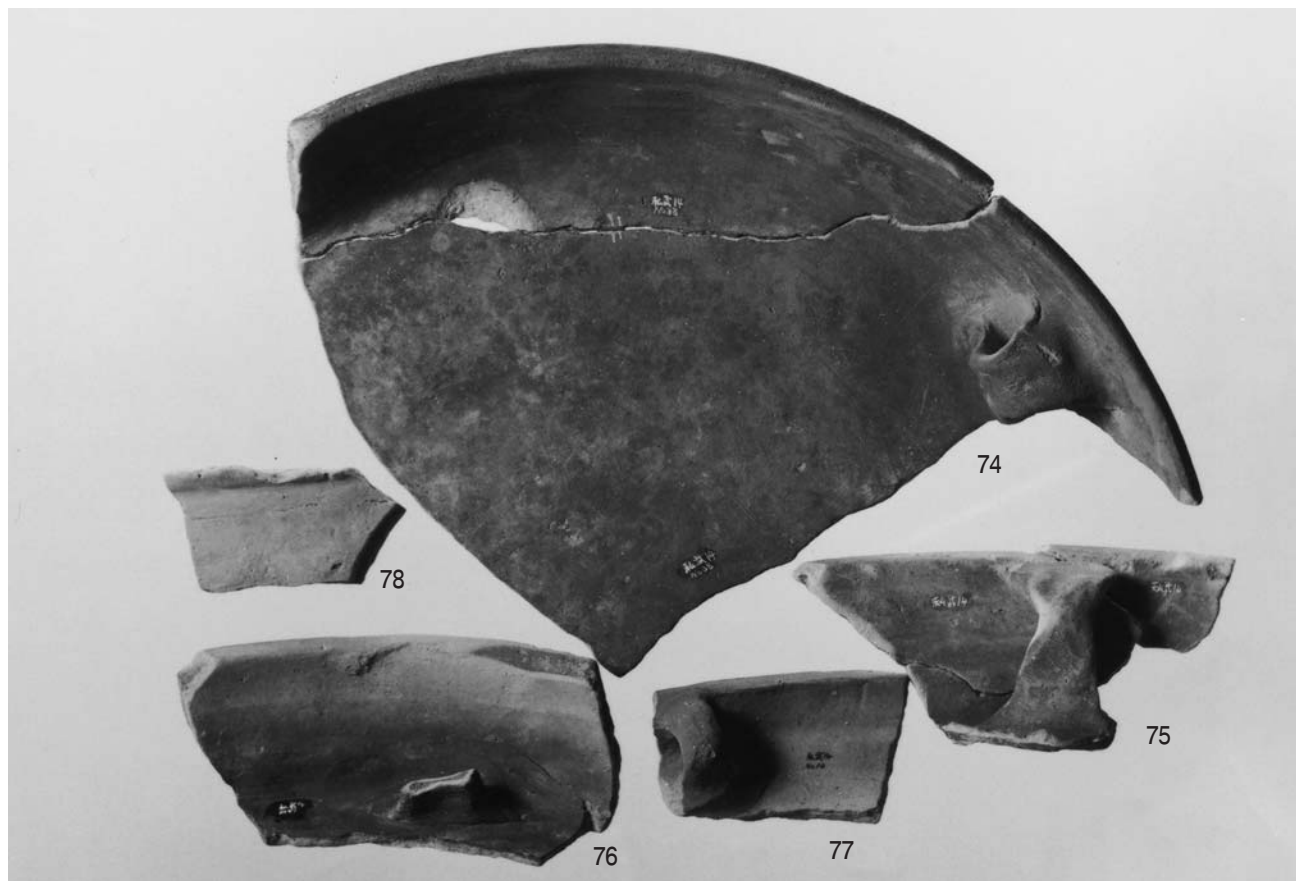
9号土壇



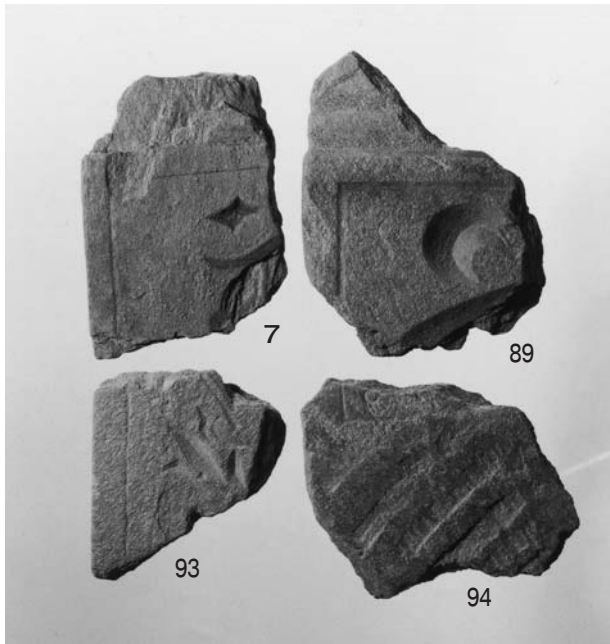
完掘



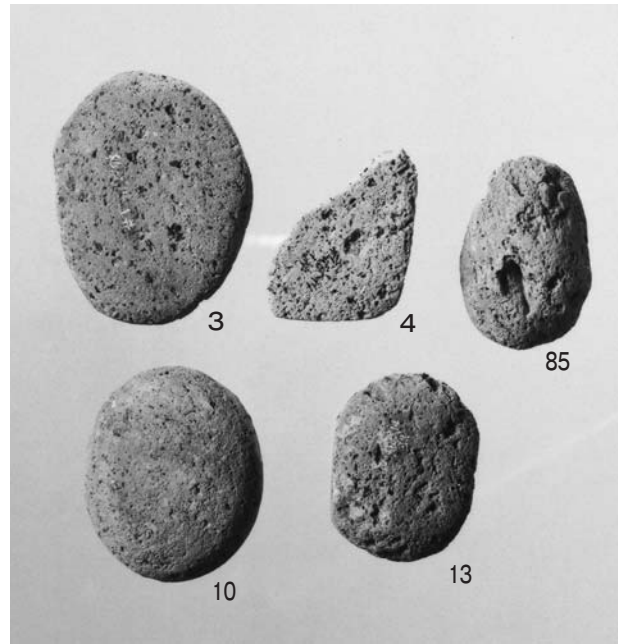
かわらけ



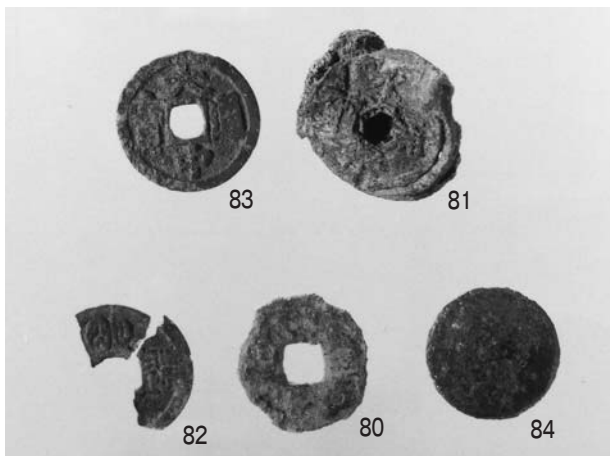
ほうろく



板碑



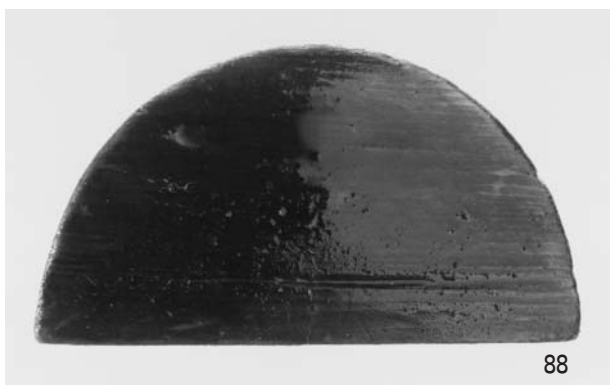
磨石



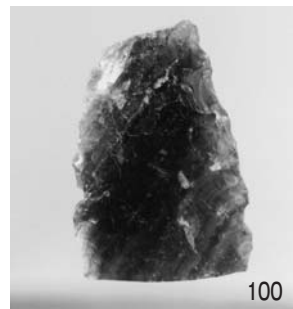
錢貨



煙管



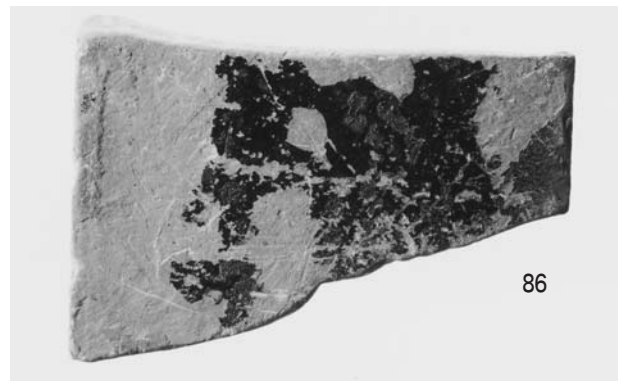
桶 底板



スクレイパー



スクレイパー



石製品



調査前風景



完掘



1号井戸 完掘



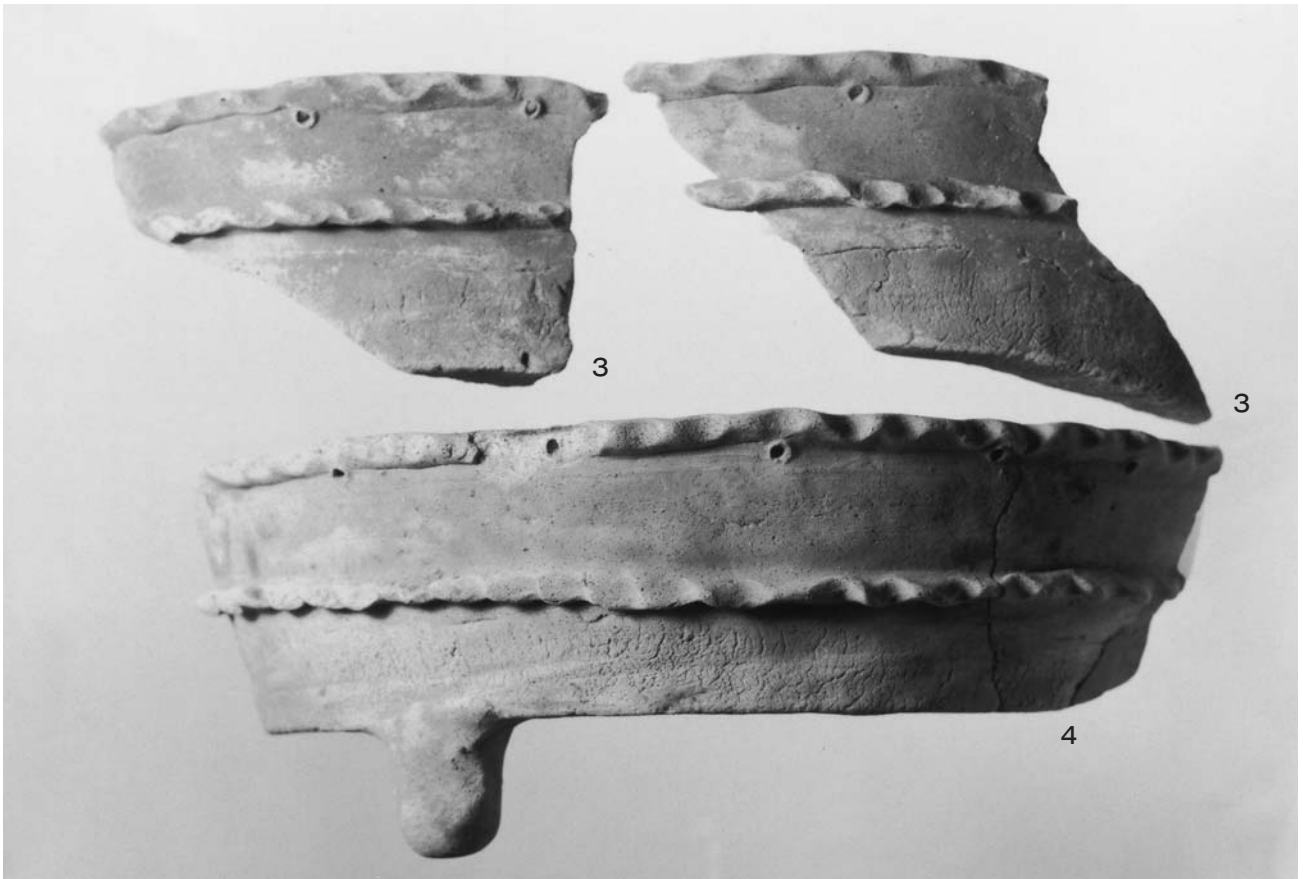
1号井戸・4号土壙 遺物出土



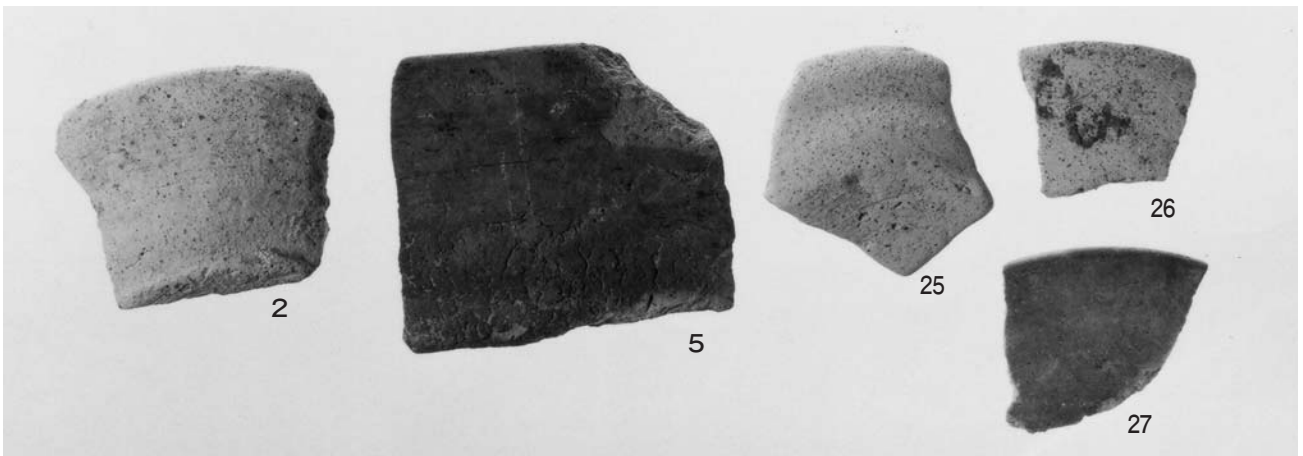
1号井戸 火鉢 (No.4) 出土



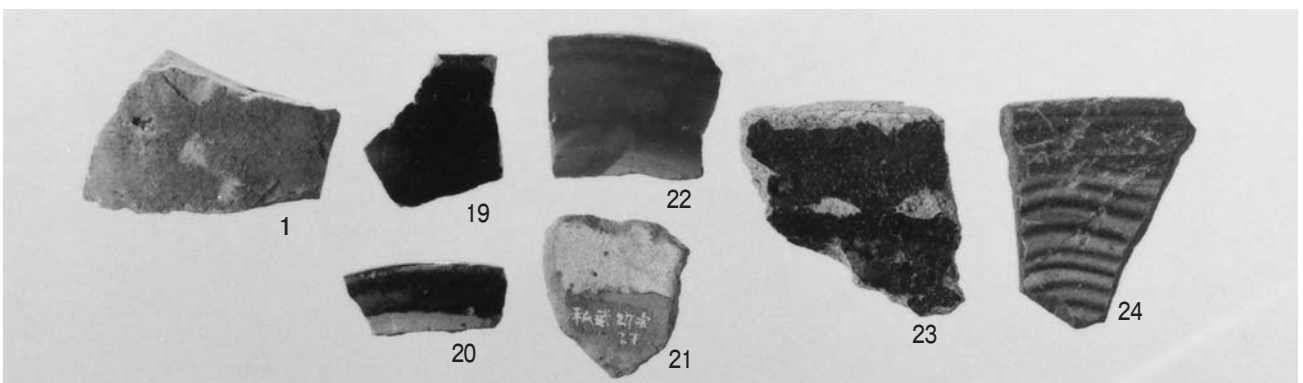
1号井戸 木製品 (No.16) 出土



火鉢



在地土器



陶磁器



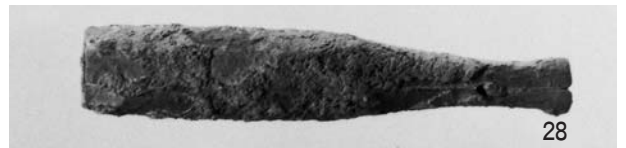
木製品

16



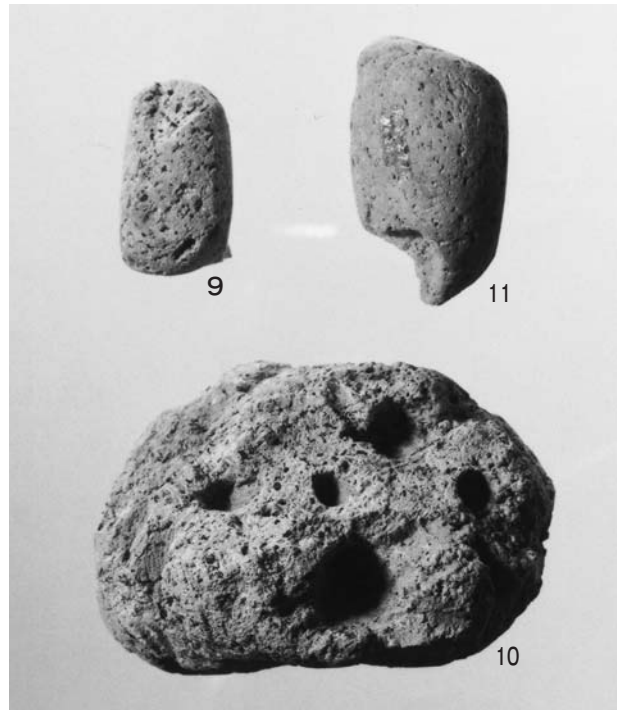
櫛

15



煙管

28



磨石

9

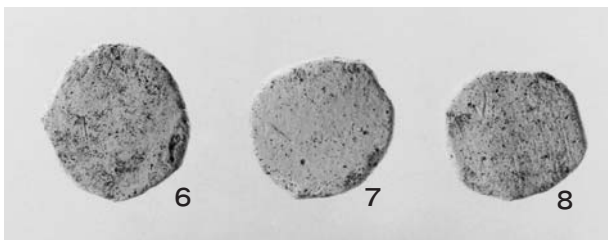
11

10



刀子

17



碁石

6

7

8



叩石

36



調査前風景



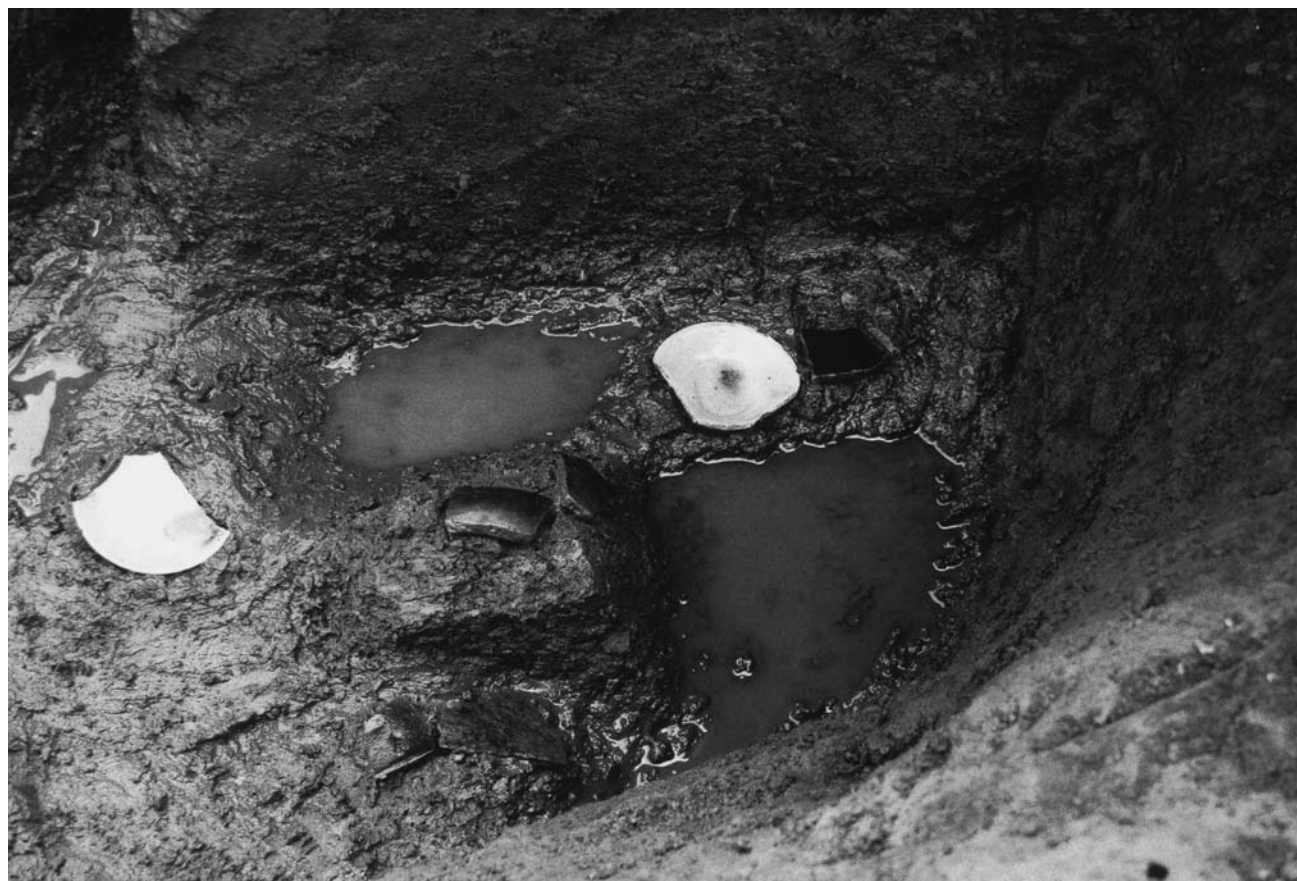
調査風景



5号土坑 骨出土



4号溝・4号土壙重複 遺物出土



4号土壙 遺物出土



2号ピット 挿鉢 (No.62) 出土



3号溝 煙管 (No.15) 出土



7号土壙 鈴 (No.61) 出土



3号溝 遺物出土



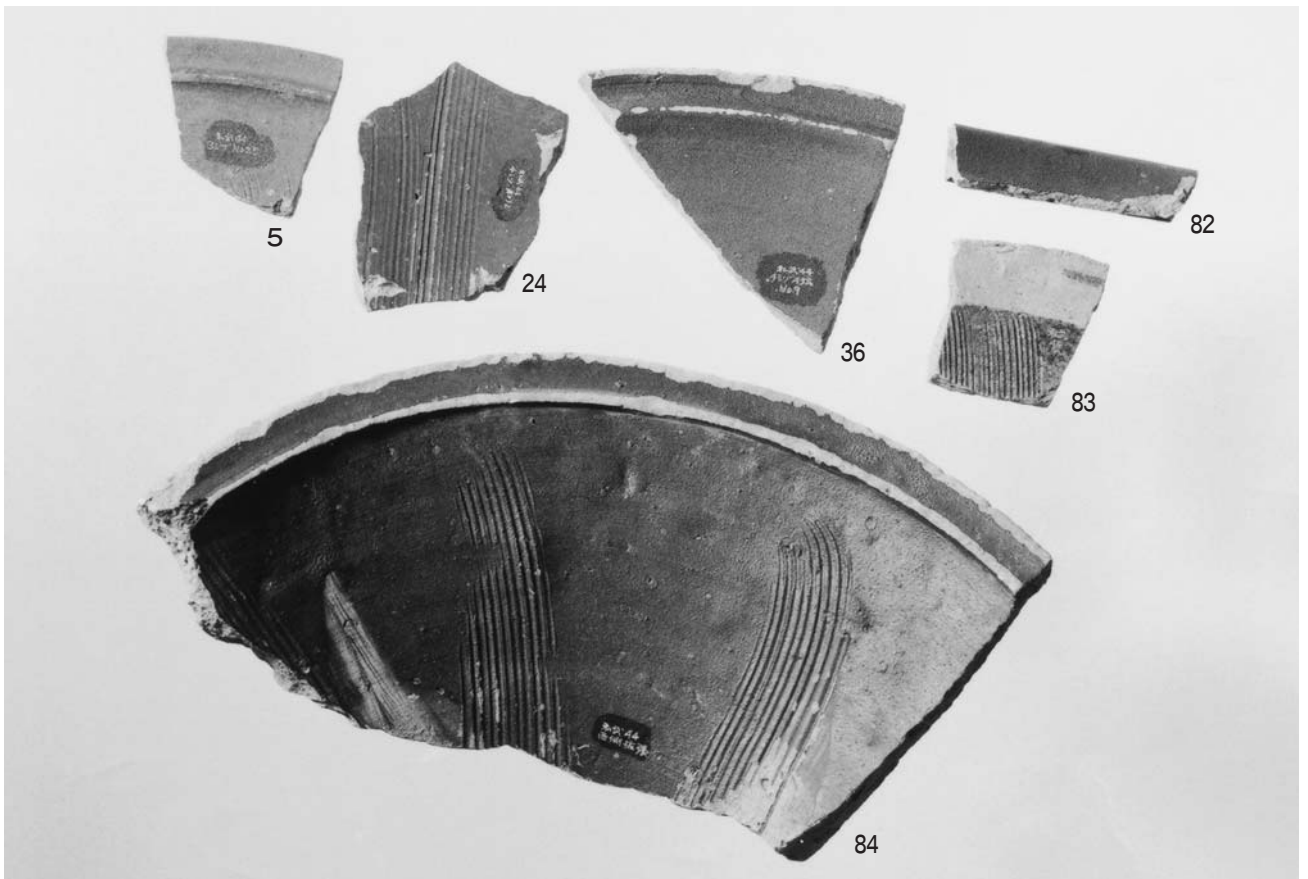
完掘（東側）西から



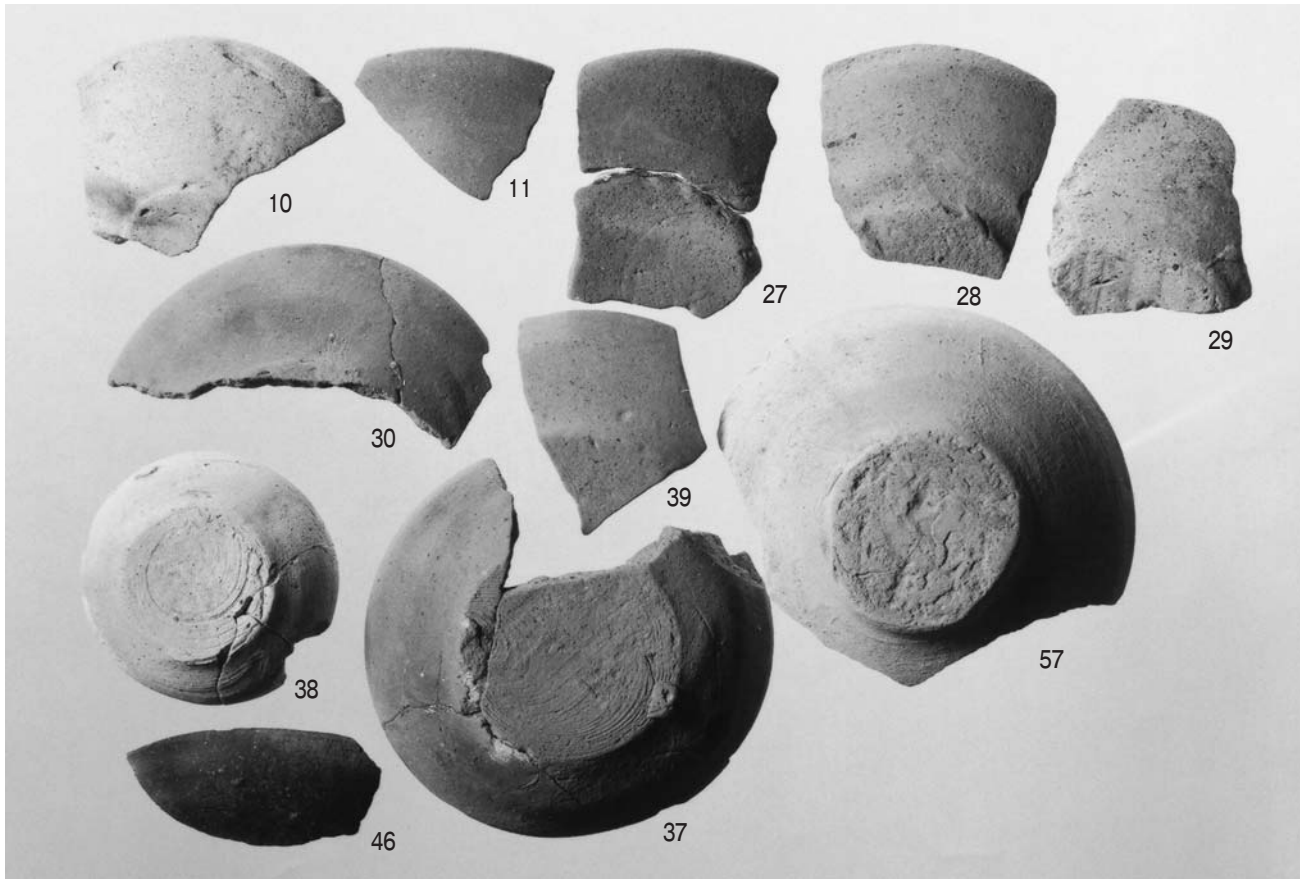
完掘（西側）東から



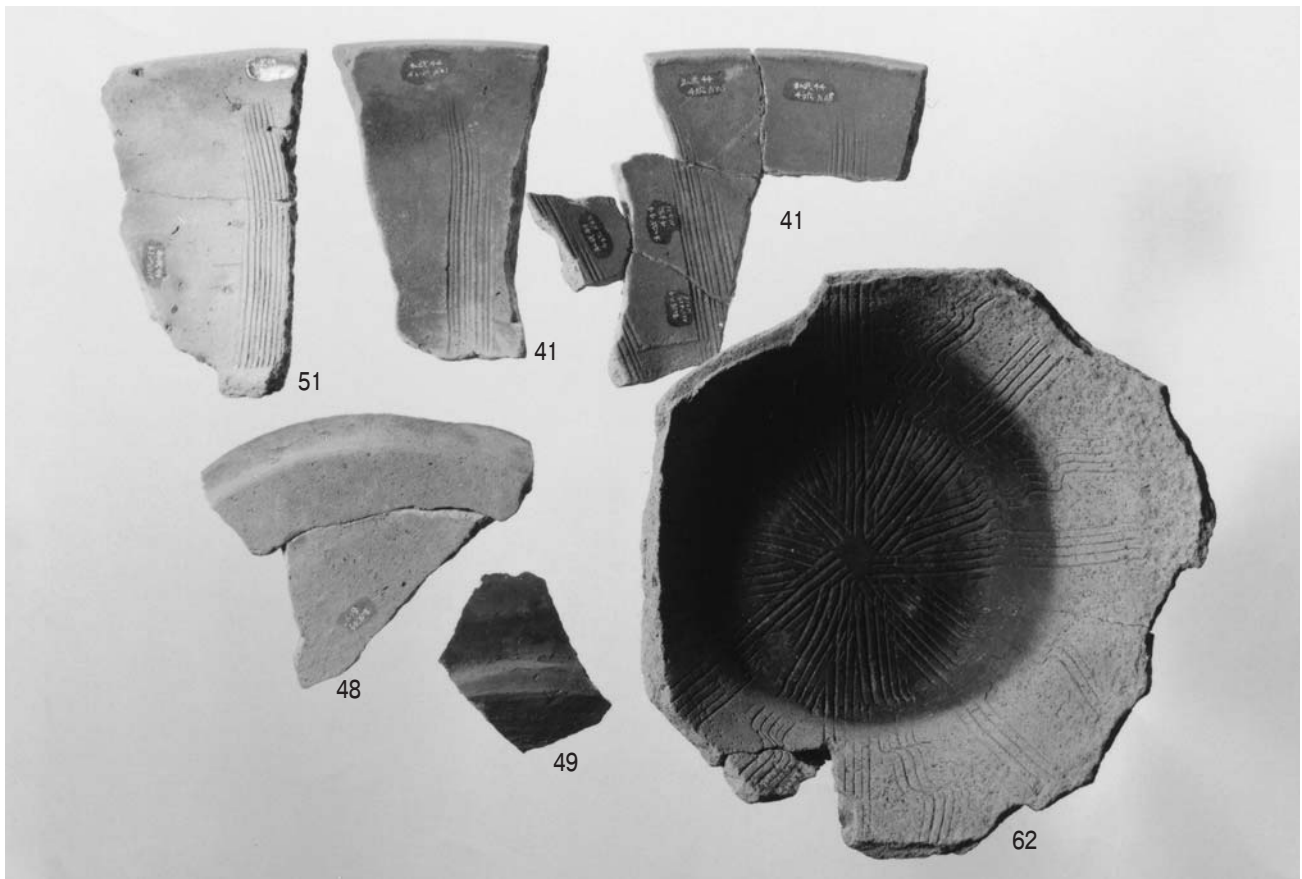
1号井戸



陶器 播鉢



かわらけ



在地擂鉢・土鍋



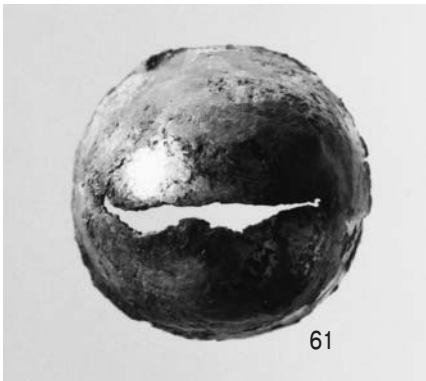
煙管



刀子



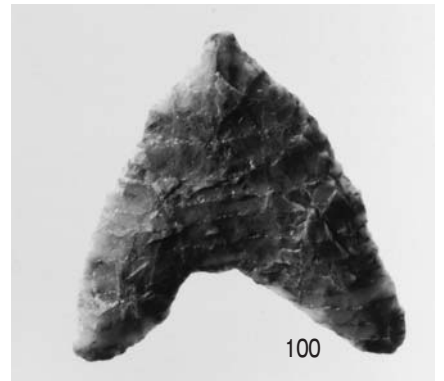
砥石



鈴



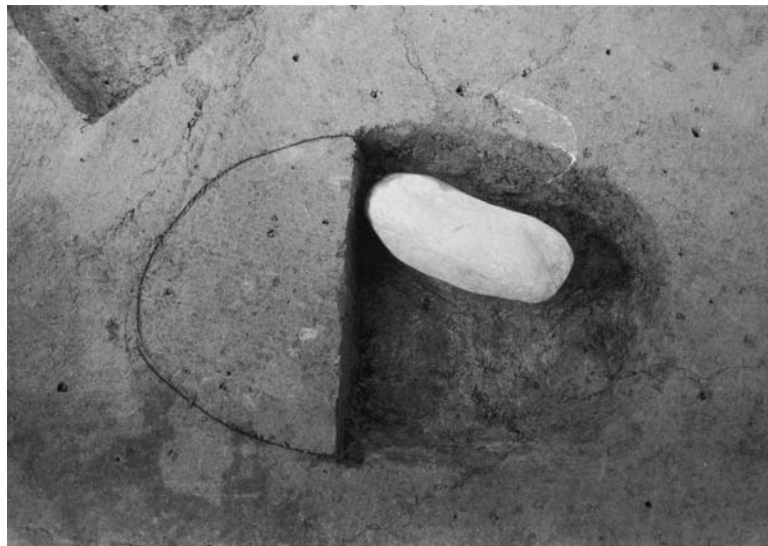
猿手



石鏃



調査前風景



4号ピット 石出土



10号溝 かわらけ出土



9号ピット 石出土



10号溝 遺物出土



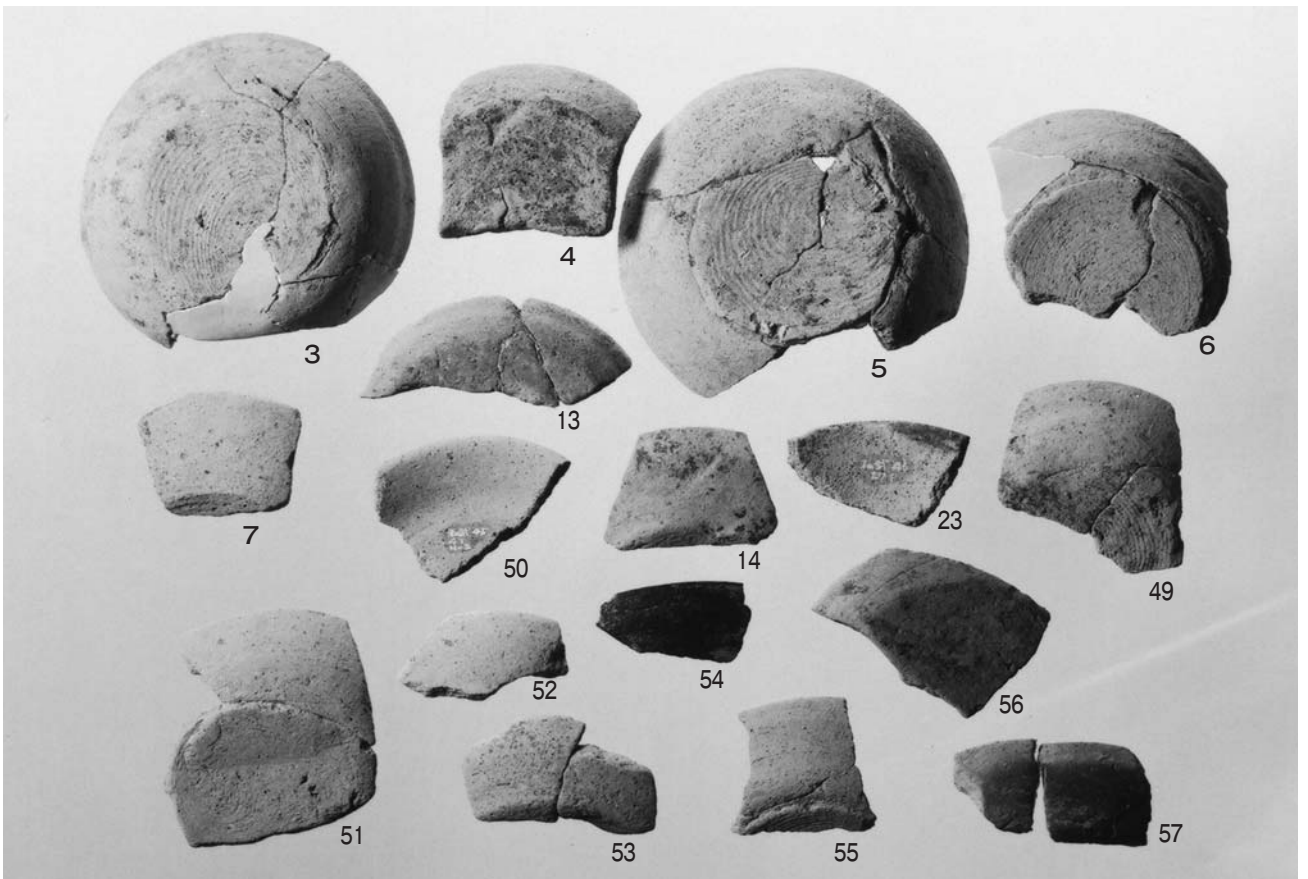
3号土壇 完掘



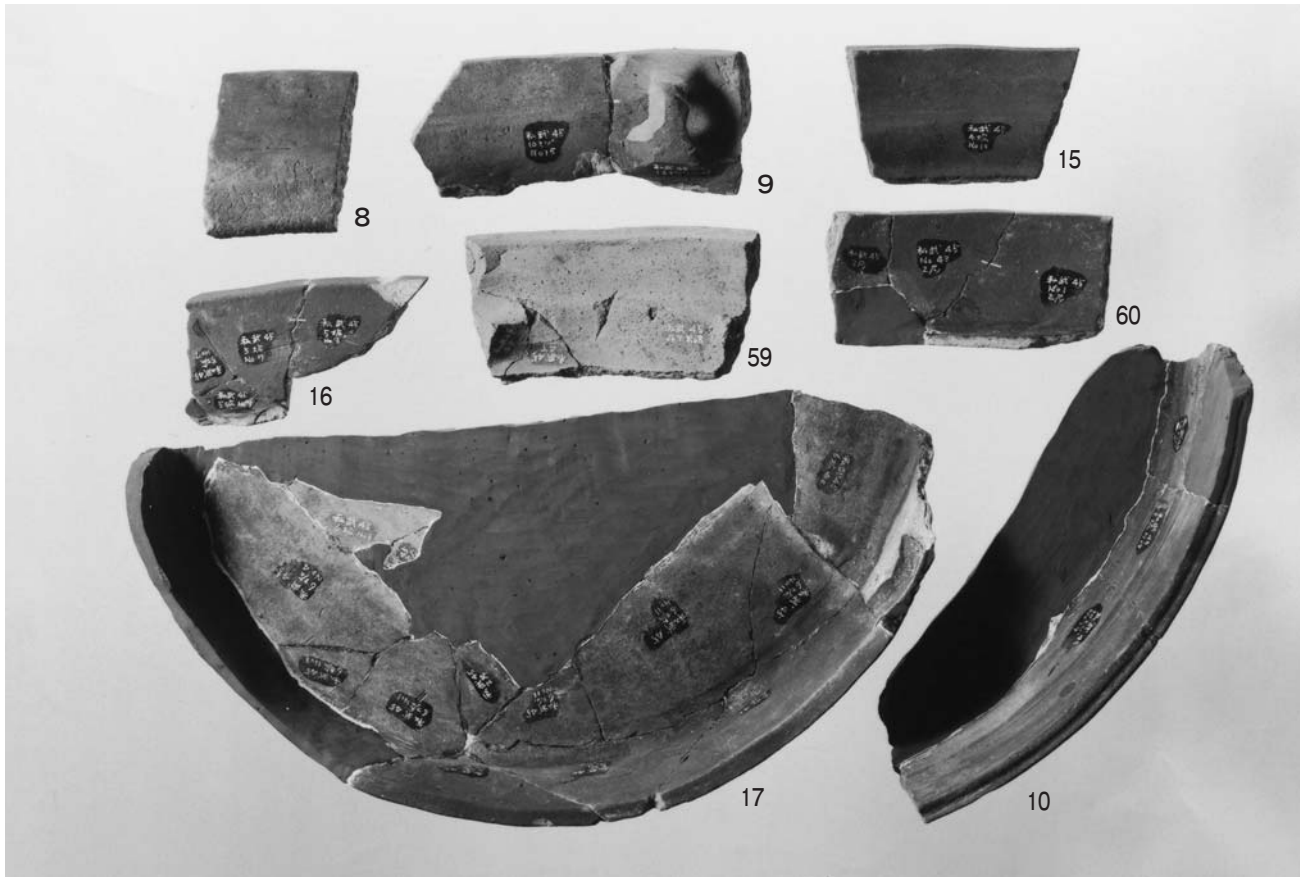
第1トレンチ 完掘



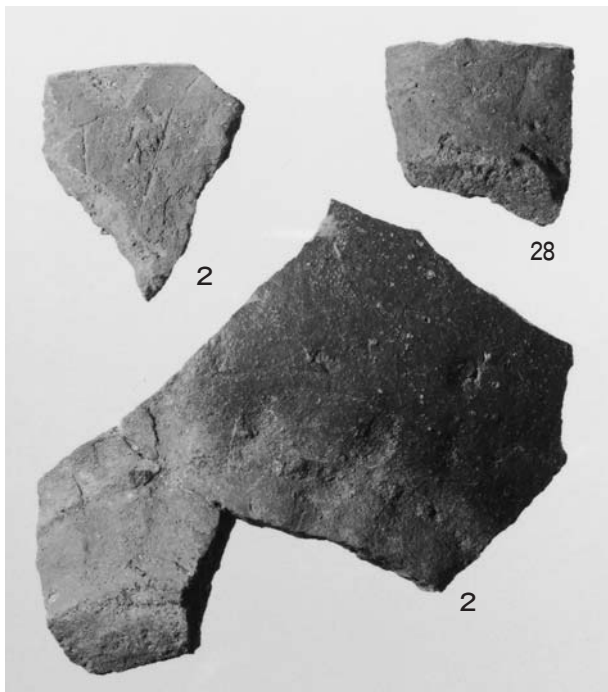
完掘



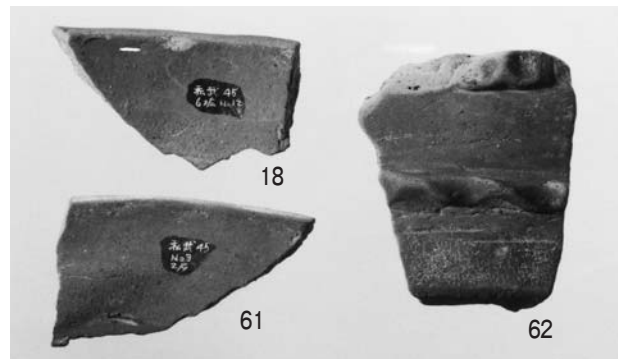
かわらけ



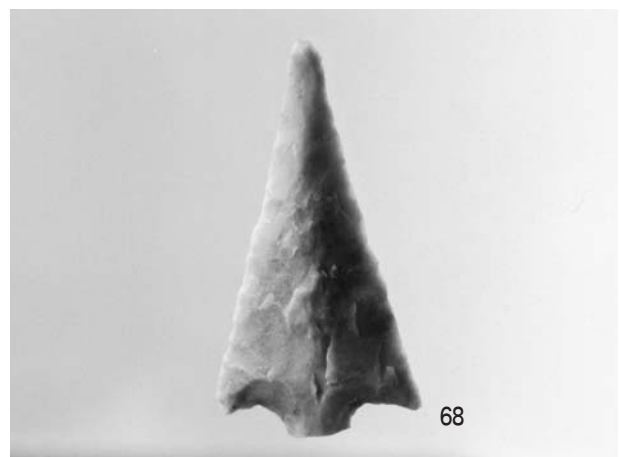
ほうろく



常滑甕



土鍋・火鉢



石鍬

報告書抄録

フリガナ	キサイジョウブケンシキアト							
書名	騎西城武家屋敷跡							
副書名	第14・27・44・45次発掘調査							
巻次								
シリーズ名	騎西町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第5集							
編著者名	嶋村英之							
編集機関	騎西町教育委員会							
所在地	〒367-0139 埼玉県北埼玉郡騎西町大字騎西36-1 0480-73-1111							
発行年月日	西暦2010年2月15日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きさいじょう 私市城 ぶけやしきあと 武家屋敷跡	さいたまけんきたさいたま 埼玉県北埼玉 ぐんきさいまちおおあざ 郡騎西町大字 ねごや 根古屋	11421	010	36°6'5"	139°34'58"	14次 9900213 ~0328	104	個人住宅 建設
				36°6'6"	139°34'58"	27次 9920127 ~0304	69	個人住宅 建設
		14次 73-4 27次仮換地37-3 44次仮換地38-2 45次仮換地18-11		36°6'5"	139°34'59"	44次 9940615 ~0826	160	個人住宅 建設
				36°6'7"	139°34'52"	45次 9940817 ~1007	55	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
きさいじょう 私市城 ぶけやしきあと 武家屋敷跡	城館跡	14次	縄文 中近世	溝2条/井戸4 基/土壇14基	土器・スクレイパー 陶磁器類・煙管・ 銭貨・桶側板	17c後半~18cの良好な 陶磁器類出土。		
		27次	旧石器 縄文 中近世	溝1条/井戸1 基/土壇7基	ナイフ形石器 土器・敲石 陶磁器類・基石・漆 椀皮膜・刀子	第IV層下部のナイフ形石 器、4壇より完形の折縁 皿出土。		
		44次	縄文 中近世	溝6条/井戸3 基/土壇7基	土器・石鏃 陶磁器類・刀子・猿 手・鈴・煙管	猿手（刀装品）・鈴の出 土。		
		45次	縄文 中近世	溝13条/土壇8基	土器・石鏃 陶磁器類	南端検出の溝は武家屋敷 の南限のものか。		
要約	今回の調査区は武家屋敷の南西部に相当するが、当該期と思われる遺構は少数で、変遷・占地を確認することができなかった。陶磁器類は、13~18世紀と幅が広く、騎西城以前に館等の施設が存在が想定できる。							

騎西町埋蔵文化財調査報告書 第5集

騎西城武家屋敷跡

第14・27・44・45次発掘調査

平成22年2月10日印刷

平成22年2月15日発行

発行 騎西町教育委員会

〒347-0192

埼玉県北埼玉郡騎西町騎西36-1

電話 0480-73-1111

印刷 関東図書株式会社